The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 71 2008/2/

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科
健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：河口てる子　発行：溝田友里)

Ⅰ．第 34 回日本保健医療社会学会大会　演題募集のお知らせ(第 3 報)

第 34 回日本保健医療社会学会大会会長　星　旦二
首都大学東京・都市環境学部・都市システム科学専攻長

1．日程　　2008 年 5 月 17 日(土)、18 日(日)
2．会場　　首都大学東京（東京都八王子市南大沢 1-1）
　　（京王相模原線・南大沢駅（急行停車駅）徒歩 15 分）
3．大会長　星　旦二（首都大学東京・都市環境学部）
4．プログラム概要案
　5 月 17 日(土)
　　午前　ポスターセッション　　9:30-11:30
　　大会長講演　　11:40-12:30
　　「都市の健康課題とヘルスプロモーションの推進」
　　午後　シンポジウムA　　13:30-16:00
　　「地域のエンパワーメント」
　　教育講演　　16:10-18:00
　　ストレス対処能力 SOC の保健医療社会学的含蓄とチャレンジ
　　：山崎喜比古（東京大学大学院健康社会学）
　　医療制度改革の本質と展望
　　：二木　立（日本福祉大学）
　　懇親会　　18:30-20:30

5月18日(日)

午前　一般演題セッション　9:30-12:00

総会　13:00-13:50

午後　シンポジウムB　14:00-16:30

「地域包括支援センターの展望」

一般演題セッション　14:00-16:30

保健医療社会学会の過去現在未来連続対談：その三 14:00-16:00

ラウンドテーブル・ディスカッション　16:40-18:00

5．シンポジウム

シンポジウムA　「地域のエンパワーメント」

地域の健康課題を解決していくプロセスでは、関係する各専門職と住民との主体的な関与と参画による改善プロセスが不可欠である。地域住民と共に関係者が力量形成していくプロセスを重視した、地域のエンパワーメントについて、事例を踏まえて学習する。

企画コーディネーター：櫻井尚子（弘前学院大学）　麻原きよみ（聖路加看護大学）

シンポジスト：大木幸子（杏林大学）、櫻井尚子（弘前学院大学）、

成木弘子（京都大学）、未定（自治体保健師）

指定発言 佐々木峰子（元足立区主任保健師）

シンポジウムB　「地域包括支援センターの展望」

高齢社会の我が国では、地域における総合的な高齢者対策を担うべく地域包括支援センターの役割が期待されている。介護サービスの提供体制の整備とともに、介護予防活動が展開されている。ここでは、地域責任性をキーワードとして、各事業の活動成果とともに、権利擁護業務を含めた今後の地域における包括支援センターの展望を具体的に探ることにする。

企画コーディネーター：武田順子（元川崎市多摩区主任保健師）

司会：福田吉治（国立保健医療科学院）栗盛須雅子（国際医療福祉大学）

シンポジスト：武田順子（元川崎市多摩区主任保健師）、

乙黒千鶴（町田市福祉サービス協会）

未定（足立区）、廣澤真珠（調布ゆうあい福祉公社）

6．参加費

会員5000円、非会員6000円、学生3000円

7．一般演題募集

一般演題を募集いたします。下記の要領に従ってご応募ください。

（1）発表時間は、1演題につき、発表12分、質疑8分です。一方、ポスターセッションも検討しています。抄録提出時に、発表ないし、ポスターの意向を聞かせていただく予定です。発表では、パソコン使用のプロジェクターを用意します。

（2）発表者は研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は

大会までに入会手続きを済ませてください。入会手続きは学会事務局（東京大学健康社会学教室）までお願いします。

（3）発表抄録を下記の要領で作成し、演題申し込みカードとともに、下記大会事務局あてにＥメールで大会事務局あてお送りください。抄録はＰＤＦにしたいと思います。事務局で抄録を受理すれば、その旨を返信させていただきます。返信がない場合は、届いていないことをご確認ください。

（4）抄録作成要領：従来と同様です。

形式：A4版1枚、横書き、40字×40行、余白上下左右30mm、明朝体、1行目に演題14ｐ中央寄せ、3行目に氏名(所属)10.5p右寄せ、5行目から本文 10.5ｐを標準の目安とします。なお、抄録集の段階では B5版に縮小されますので、図表等の大きさにご注意ください。

内容：□研究の目的、□対象と方法、□結果、□考察、の4点が明確になるように留意してください。

（5）締め切り　2008年3月25日

（6）問い合わせ・申し込み先

第34回日本保健医療社会学会大会事務局

〒192-0397　東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京・都市環境学部・都市システム専攻・星研究室内　担当：防迫

TEL：[redacted]（直通）[redacted]　E-MAIL：[redacted]

FAX：([redacted]（直通）

ホームページ：http://www.onyx.dti.ne.jp/~star/japanhealth34/

Ⅱ．理事会報告

≪2007年度第4回理事会≫

2007年12月9日（日）　13時より　於東京大学

出席者：山崎喜比古（学会長）、朝倉隆司、天田城介、樫田美雄、河口てる子、黒田浩一郎、野口裕二、三井さよ、溝田友里（各理事）、望月美栄子（学会事務局次長）

1）学会誌編集委員会に関して：

学会誌編集担当の天田理事より、投稿規程の変更について提案があり、審議の結果承認された。

2）理事の退任と学会誌編集委員長の変更に関して：

進藤編集担当理事から提出された、一身上の都合による理事および学会誌編集委員長の退任と編集事務局の進藤研究室(大阪市立大学)からの移転の申し出について、討議され承認され、天田編集担当理事・副編集委員長の新編集委員長就任が決定した。

また、編集委員長の交代に伴い、編集委員会事務局が新編集委員長所属先に変更となり、空いた副編集委員長には杉田編集委員にお願いすることが決まった。(付記：理事会後、杉田編集委員には副編集委員長就任をお認め頂いた)

また、学会誌編集委員長の交代に伴い、編集事務局が新編集委員長所属先に変更となった。新編集委員会事務局は以下のとおり。

〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学大学院先端総合学術研究科
編集委員長　天田城介
TEL & FAX [redacted]
Email [redacted]

3) 研究活動について：

研究活動担当の三井理事より関東定例研究会について結果の報告を受けた。樫田理事より関西定例研究会について予定内容の報告を受けた。また、学会奨励賞の選考に関して、内規の確認や選考手順の決定、選考委員の選抜についても審議された。内容については、本ニューズレターに別途記載。

4) 広報活動について：

会報広報担当の河口理事よりニューズレター編集の報告を受けた。また、次号ニューズレターの発行予定について討議を行った。

5) 新入会員および退会者の承認：

望月学会事務局次長より、2007 年 9 月 22 日～12 月 7 日までの入会希望者の報告があり、承認された。なお、上記期間の退会希望者はいなかった。

6) 次回理事会について：

次回理事会は、来年度大会長の星旦二先生にオブザーバーとして参加していただくことが決定した。日程については各理事および星先生と調整を行う。(付記：後日調整の結果、3 月 8 日（土）13 時より、東京大学にて開催することとなった)

(総務担当理事:溝田友里)

Ⅲ. 研究活動担当理事から

研究活動委員会は，12 月 9 日（日）の理事会の前に，機関誌副編集委員長の天田城介氏を加えて，第 2 回（=2007 年度）学会奨励賞の選考について審議して，その審議結果を原案として，同日の理事会にはかって，若干の修正の上，承認を得ました。具体的には，内規の確認・修正，選考委員の選出，選考手順の決定を行ないました。

現行の内規では，選考対象は「過去 1 年間の本学会誌に掲載された投稿論文（原著、総説、研究ノート）のうち、特に優れたもので、著者（共著の場合は筆頭著者と読み替える）の年齢が 35 歳未満であるもの、または研究歴が 10 年未満とみなせるもの」

となっています。

したがって，今回は，『保健医療社会学論集』第18巻第1号・第2号に掲載されている・される原著、総説、研究ノートの著者（共著の場合は筆頭著者）で，年齢が35歳未満である者、または研究歴が10年未満とみなせる者の中から奨励賞受賞者を選考するとなります。

選考が終了しましたら，大会総会で授賞式をおこない、ニューズレターに選考経過と結果を掲載する予定です。

（研究活動担当理事：黒田浩一郎）

Ⅳ. 関東地区定例研究会

≪第195回関東地区定例研究会のご案内≫

①日時：2008年3月14日（金）　18:00～

②会場：学士会分館　8号室　（東京大学本郷構内赤門隣り）

（http://www.gakushikai.or.jp/facilities/facilities_1.html）

③講師：星　旦二（首都大学東京　都市環境学部大学院・都市システム科学研究科）

司会：朝倉　隆司（東京学芸大学）

④テーマ：都市の健康課題とヘルスプロモーションの推進と地域のエンパワーメント

首都大学東京は今年開かれる学会大会の開催校であり、星先生が大会長を務めてくださいます。次期大会に向けて、メインシンポのテーマである「地域のエンパワーメント」について問題提起と話題提供をしていただきます

⑤参加費：無料

連絡先：日本保健医療社会学会事務局（[redacted]）

事前の参加申し込みは不要です。学会員でない方のご参加も歓迎いたします。関心をお持ちの方々にアナウンスください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

≪第194回関東定例研究会報告≫

12月8日法政大学の市ヶ谷キャンパスにおいて、医学研究の倫理を研究されている東北大学の田代志門さんに、「研究と治療の区別」はいかにして可能か－金沢大学附属病院無断臨床試験訴訟を事例として－というタイトルで報告をしていただいた。今は閉鎖してしまったMedsocioというメーリングリストでも、何度かやりとりされていた話題である。これに関する田代さんの研究には、「研究と診療を区別する二つのモデル－ヘルシンキ宣言からベルモント・レポートへ－」（医学哲学・医学倫理、第25巻、21-29、2007）があり、興味がありながらも当日参加できなかった方は一読されると良いと思う。当日の参加者は十数名であったが、学会員より非会員の方の参加が多かったように思う。はじめに武藤香織さんが、東京大学医科学研究所での経験を交えて、研究への理解、製薬企業の役割、保険診療の“誤用”の問題などの視点から報告に対す

るコメントをされ、議論が交わされた。今回も誤解をおそれず感想を述べてみたい。

RCT による治験を行っていながら、なぜ医師達はそれを"研究"であると認識せず、"治療行為"の一貫であると認識していたのか。日本の医学において、「研究」という概念が曖昧であり、医療現場においては治療と研究の境界が明瞭でないという指摘、そのことを金沢大学附属病院無断臨床試験訴訟は浮き彫りにした事例であることが実に興味深かった。訴えられた医師達が何の疑念も持たず素朴に証言したという話も、不思議な世界を垣間見た気がする。言われてみればそうかもしれないと納得する点もある。EBM をしきりに強調する自然科学者然とした医師の姿と、医療現場に非医療者が入ることに抵抗を示し、すべてを患者への治療に還元して強調しようとする医師の姿が、ダブルスタンダードとして混在しているのではないか。ここから、研究と治療の概念を曖昧に認識している医師の実像（あるいは医学教育や日本の医療風土かもしれないが）を理解するためにモデルを作り上げていく作業が必要だという問題提起もうなずける。とりわけ私には、"治療"という概念があまりにも柔軟で、拡大認識されすぎているのではないかと思われた。報告や討論では、その他にも興味深い論点が提示され、意見が交換された。

余談だが、田代さんのような若手で社会学を専門とする研究者が、かつて敷居の高かった医療の世界に社会科学的な視点からアプローチする時代が到来していることも感慨深かった。保健医療社会学会を、このような若手研究者を数多く引き寄せる学会となるよう発展させていく責務があると感じた次第である。

（研究活動担当理事：朝倉隆司）

V．関西地区定例研究会

≪関西地区定例研究会のご案内≫

日時: 2008 年 3 月 15 日(土) 14:00～18:00 （参加費無料/参加条件なし）

場所: キャンパスプラザ京都　第二会議室(2 階)

（地図 http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html）

※JR 京都駅ビル駐車場西側・京都中央郵便局西側、京都駅より徒歩 3 分

連絡先:樫田美雄(徳島大学総合科学部) kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/kasida/presentation/presentation.html

プログラム:

14:10 第一講演 阿部 俊彦氏(東海学院大学総合福祉学部)

「阪神淡路大震災後の遺児ケアの問題について」

15:10 コメント:栗岡幹英氏(奈良女子大学)、質疑応答

16:00 第二講演 川島 理恵氏(日本学術振興会特別研究員／埼玉大学教養学部)

「意思決定過程における『説明』のジレンマ:不妊治療の会話分析」

17:00　コメント:栗岡幹英氏(奈良女子大学)、質疑応答

(文責:研活担当理事・樫田美雄)

VI. 看護研究部会

第4回例会は、11月24日（土）13:30から、首都大学東京荒川キャンパス校舎棟4F在宅看護実習室にて行われました。三井さよ（法政大学）から「『思い』を介した協働――特養における介護職と看護職への聞き取りから」と題して報告がありました。

本報告では、特養Aにおける介護職と看護職への聞き取り調査を通して、特養における介護職と看護職の協働のあり方を捉え返そうとするものでした。従来は、介護職と看護職の望ましい協働を論じる際には、共通した「目的」に基づいた役割分担という図式が一般的でした。それに対して本稿は、特養という場における働きかけが直面する不確実性の性格に注目し、不確実性を共有したコミュニケーションを可能とする上で、「思い」への言及が持つ意味を考察しました。

第5回例会は、1月12日（土）13:30から首都大学東京荒川キャンパス校舎棟4F在宅看護実習室にて行われました。松繁卓哉さん（立教大学）から、「レイ・エキスパート(lay expert: 素人専門家)による慢性疾患セルフ・マネジメント―Expert Patient Programme（英国）の調査を通して―」と題して報告がありました。以下は松繁さんによる要約です。

慢性症状のある患者の「セルフ・マネジメント」能力の育成を目標として英国保健省の主導により2001年に発足したトレーニングプログラム「Expert Patient Programme（EPP)」は、その名称が示す通り、患者を「専門家」「専門性を持つ存在」として想定している。このことは、国の保健制度の枠組の中で患者の「専門性」を認め、活用していこうとする英国内の保健関係者の姿勢を示している。しかしながら一方で「患者の専門性」が意味するものについて、多くのことが明らかにされていない。本報告では、EPP関係者のインタビュー、参与観察および政府機関刊行物の記述分析から得られた、「素人専門家(lay expert)」というコンセプトと、「素人主導(lay led)」の保健プログラムに潜在・顕在する可能性・問題点に関する知見について述べた。

当日の議論から、(1)疾患中心性（disease-oriented）の色濃いこれまでの「セルフ・ヘルプ・グループ」「患者会」等の取り組みと比較して、当事者生活中心性（patient-oriented）を目指すEPPなどの取り組みを研究することの意義、(2)「専門家・素人」という二項対立観の限界という点について意見交換が行われ、「専門性」「セルフ・マネジメント」に関する様々な問題提起・示唆が得られた。

第6回例会は、3月15日（土）13：30から首都大学東京荒川キャンパス校舎棟4F在宅看護実習室において、清水準一さん（首都大学東京）から報告していただく予定です。

皆様の積極的な参加をお待ちしております。お問い合わせ等は看護研究部会事務局板橋真木子([redacted])、清水準一([redacted]) までお願いいたします。 (文責：三井さよ)

Ⅶ. 新入会員および退会者の承認（敬称略）

＜2007年9月22日～2007年12月9日＞

・入会

[redacted]

以上9 名

・退会

なし

学会事務局からのお願い

・連絡先がわからなくなっている会員の方（敬称略）

[redacted]

上記の方々と連絡先をとれる方がいらっしゃいましたら、学会事務局のほうにご連絡いただけますようお伝えください。

学会事務局からのお知らせ

規約の改正に伴い、2007年5月20日より、前年度（2006年度）分会費を未納の方への学会誌の送付を停止させていただきます。前年度までの会費に未納分がある方は、ぜひ納入してくださいますようお願いいたします。

学会事務局 E-mail：[redacted] FAX：[redacted]

（学会事務局次長：望月美栄子）

Ⅷ. 編集後記

ずいぶん寒くなっていますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

今回のニューズレター情報のメインは、第34回日本保健医療社会学会大会の演題募集です。皆様方奮って応募してくださいますようお願いいたします。

「会員の声」投稿先：

E-mail：[redacted]

なお紙面の都合により、原稿の採否、若干の修正はお任せいただきますことをご了承ください。 （広報担当理事：河口てる子）

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 72　2008/8/8

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科
健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：河口てる子　発行：溝田友里)

Ⅰ．学会長ご挨拶

学会長　山崎喜比古

本学会の更なる発展のために今年度も宜しくお願い致します

今年5月に第34回大会を首都大学東京で盛会裏に開催して下さった星旦二先生と大学院生等の皆様、有り難うございました。

今年度は、私にとりまして、学会長としての最大連続任期 2 期計 4 年の最後の年に当たります。その後の持続的発展につなげる年でありたいと思っています。本年 5 月の総会で承認された今年度の活動方針では、この 3 年間に理事会が力を入れてきたことの更なる発展を目指す方針（学会誌投稿論文の査読プロセスのいっそうの明確化・ルール化、学会奨励賞の定着化など）とともに、新しい方針も提起されました。以下、紙幅の関係上、後者の 3 点に限ってご報告させて頂きます。

1 点目は、研究活動の中心である年次大会の開催校をこれまで総会時に 1 年先のところ今後は 2 年先までを予定することにより、その中心的機能を十分に果たせるようにした点です。今回の大会では、2009 年の田口宏昭・佐藤哲彦両先生が熊本大学で開催して下さるのに続き、2010 年には田中マキ子先生(山口県立大学)がお引き受け下さることになりました。先生方、宜しくお願い致します。理事会としても準備に協力を惜しみません。また、今年中には、2011 年の開催校を探すことになります。立候補、もちろん大歓迎です。

2点目は、この間久しく停滞してきた学会としての国際活動はもとより、それに限らず広く国際的観点から学会の諸活動を見直し、できるところから具体化を図りつつ、中長期の方針の策定作業を行うことになった点です。3 点目は、学会事務局の一部業務の外注化を含む業務の軽減化と現在の東大大学院健康社会学教室からの移転先を1年かけて検討し、その結果・結論を来年の総会に提案することになった点です。

今年度末には、理事・評議員等の改選があります。いずれも、理事会だけではなく広く評議員、一般会員の皆様方から、ご意見のほか様々な形でのご協力が頂けることを期待しております。この1年間もどうか宜しくお願い申し上げます。

Ⅱ. 第35回日本保健医療社会学会大会のご案内（第1報）

大会長: 熊本大学文学部教授　田口　宏昭
期　日: 5月16日(土)および17日(日)
会　場: 熊本大学黒髪北地区(大学教育機能開発総合研究センター講義棟)
熊本県熊本市黒髪

詳細は、次回ニューズレター(10月発行予定)にてご案内いたします。

Ⅲ. 第34回日本保健医療社会学会大会報告

首都大学東京　星　旦二

この度の首都大学東京で開催されました、第34回日本保健医療社会学会にご参加いただき、心からの感謝でした。個人的には、実に実りの多い学会だったのではないかと思っています。

一般演題もさることながら、山崎学会長の優れた教育講演で、SOC の全貌とその魅力が提示されました。とてもわくわくするものでした。 メインシンポでは、地域のエンパワーメントの全体像と共に、各職種の役割と市民参加の意義が明確になったのではないでしょうか。特に、佐々木保健師からのコメントが身にしみました。住民を主人公に位置づけ、その力量形成を丁寧にかつ、根気強く支援していくプロセスには、胸が熱くなるほどの感動ものでした。企画された総合司会の櫻井さんにも感謝いたします。 また、RDにも多くの参加者が活発に討論されておられたこと、とてもうれしく思いました。 二木先生の教育講演は、最新の情報を活用した医療財源確保の展望についてお話しいただきました。有り難うございました。

様々にご指導いただきました、園田恭一先生が名誉会員になられました。お祝い申し上

げると共に、これからのご活躍と、ご指導を期待いたします。

事務局にも心からの感謝を申し上げます。何人からの会員からは、「明るくて、笑顔の受付ですね」とお褒めいただきました。とてもうれしいことでした。アンペードワークにも拘わらず、感謝いたします。また、参加されていた中学生からは、「大会長講演が面白かった」と懇親会で褒めていただきました。好き道楽のクラリネットをお聞き下さり感謝でした。

今後の学会の発展を期待します。来年は熊本でお会いしましょう。

Ⅳ. 総会報告

学会の総会は2008年5月18日に首都大学東京にて行われた。議事次第と審議結果は以下のとおりである。

開会の辞
学会長挨拶
議長選出　中山和弘氏(聖路加看護大学)が議長に選出される。

第1号議案　2007(平成19)年度 事業報告

1. 学会長より

1)日本保健医療社会学会大会・総会の開催について

第33回大会(新潟医療福祉大学、2007年5月)の開催および第34回大会(首都大学東京、2008年5月)の準備。

2)評議員の選出と評議員会の開催について

2006年総会の規約改定に基づき、評議員31名が選出され、大会・総会運営や委員会委員、大会引受校、理事会の活動等においてご意見、ご協力をいただいた。

3)理事の進退と学会誌編集委員会事務局移転に関する理事ご本人からの申し出について

理事会で討議の上、上記申し出を承認した。編集委員会事務局は当面、天田理事の研究室に置くこととした。

2. 研究活動担当理事より

1)定例研究会・研究部会について

定例研究会－関東3回、関西2回の開催、看護研究部会－6回の開催。これらに対し、学会から財政的補助が図られた。

2)学会奨励賞選考について

学会奨励賞選考委員会を選出した。委員会で選考が行われ、その経過および結果に

ついて報告を受け、理事会で委員会原案を承認した。

3)ラウンドテーブルディスカッション公募について

2008年度大会における自主企画ラウンドテーブルディスカッションの公募と選定が行われた。

3. 学会誌編集担当理事より

1)日本保健医療社会学会機関誌編集委員会ならびに正副委員長会議の開催

新旧編集担当理事の引き継ぎ1回、日本保健医療社会学会機関誌編集委員会1回、正副委員長会議2回が開催された。

2)保健医療社会学論集について

学会大会抄録集を論集の特別号とし、第18巻は特別号、1号、2号の3号分を発行した。

3)日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の査読プロセスの共有化・ルール化について

2007 年度編集委員会は天田城介氏(編集担当理事、編集委員長、立命館大学)、杉田聡氏(副編集委員長、大分大学)、早坂裕子氏(新潟青陵大学)、松田亮三氏(立命館大学)の4名体制となっており、編集委員会としては査読プロセスのルール化を図るために規程等の見直しも含めた検討が慎重に行われた。また、編集委員会では『論集』に掲載された投稿論文などを著者による掲載承諾を得た上でウェブ上にて公開する方向性についても慎重に検討が行われた。上記の諸点含めて全体的かつ総合的に検討した上で、査読プロセスのルール化ならびに編集委員会のシステム化を図っている。

4. 渉外担当理事より

1)学会連合体について

本学会といくつかの学会連合体との関係の見直しを行い、その結果、これまで加盟してきた社会学系学会コンソーシアムには引き続き参加し、福祉系学会連合については脱会することを決定した。

2)国際学会との関係について

2014年度の国際社会学会(ISA)の日本開催も視野に入れて、今後の国際活動を推進する組織的体制について検討を開始した。

5. 会報広報担当理事より

1)日本保健医療社会学会ニューズレターについて

3号分発行された。

2)ホームページ

維持・管理が行われた。

6. 総務担当理事より

1)学会事務局について

「学会事務局は当分の間、東大大学院健康社会学におく」、「事務局次長を設け、理事会にオブザーバー参加してもらう」として7年経過。

2)編集委員会事務局について

編集事務局は学会事務局内から、編集委員長の教室へ移動した。

3)図書館会員および単年度会員ならびに退会に関する新規定の運用について

2007 年度総会で決定された図書館会員、単年度会員、退会に関する新規定が大会以降運用された。

第2号議案 2007(平成19)年度決算報告、監査報告

日本保健医療社会学会2007年度決算書

自2007年4月1日　至2008年3月31日

単位: 円

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	2,939,420	2,939,420	0	印刷製本費	1,540,000	1,973,328	△ 433,328
会費収入	3,500,000	4,018,000	518,000	郵送費	540,000	441,323	98,677
学会誌刊行物売上	375,000	11,520	△ 363,480	交通費	800,000	384,560	415,440
受取利息	10	0	△ 10	事務局人件費	598,000	543,140	54,860
広告収入	30,000	0	△ 30,000	学会誌編集費	100,000	250,000	△ 150,000
その他	65,000	65,000	0	消耗品費	205,000	315,844	△ 110,844
				会議費	127,000	32,929	94,071
				大会・研究会・部会活動補助費	370,000	512,255	△ 142,255
				その他(振り込み手数料等)	64,000	67,400	△ 3,400
				社会福祉系学会連絡協議会分	50,000	50,000	0
				予備費	2,515,430	2,463,161	52,269
合計	6,909,430	7,033,940	124,510	合計	6,909,430	7,033,940	△ 124,510

日本保健医療社会学会2007年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2008年 5月 7日　会計監査 武川 正吾

2008年 5月 9日　会計監査 平野かよ子

第3号議案 2008(平成20)年度事業計画

1. 学会長より

1)日本保健医療社会学会大会・総会の開催について

第34回大会(首都大学東京、2008年5月)の開催および第35回大会(熊本大学、2009年5月)、第36回大会(山口県立大学、2010年、月日未定)の準備。

各総会では、これまで翌年の開催校を決めて臨むのを目標にしてきたが、今後は、2年先の開催校まで決めて臨むことを目標にする。

2)活動水準向上の方策の検討

国際的観点から担当を超えて学会の諸活動を見直し、活動水準向上の方策の検討を行い、できるところから具体化を図るとともに、中長期の方針案につき1年後の本学会総会に答申する。

2. 研究活動担当理事より

1)定例研究会、看護研究部会について

2007 年度の継承。

2)学会奨励賞選考について

学会奨励賞選考委員会を選出。

3)学会大会企画について

学会大会企画について、大会事務局と連携・協力。

3. 学会誌編集担当理事より

1)日本保健医療社会学会機関誌編集委員会ならびに正副委員長会議の開催について

日本保健医療社会学会機関誌編集委員会、正副委員長会議を開催。

2)保健医療社会学論集について

第 19 巻の特別号、1 号、2 号の 3 号を発行。

3)日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の査読プロセスの共有化・ルール化について

2008 年度も引き続き、査読者の決定、査読判定、規定の見直しなど編集委員会にて協議すべき事項の全てについてメーリングリスト(セキュリティ機能をもつクローズドなML)を通じて決定していく。このようにすることを通じて、透明性の高い議論を行う。

また、査読プロセスをより明確にルール化するために、編集委員会では規定の変更や申し合わせの確認も含めて積極的に議論を行っていく。2008 年度中には一定の回答を行なうことにする予定である。

4. 渉外担当理事より

引き続き、国際学会との関係について、2014 年度の国際社会学会(ISA)の日本開催も視野に入れて、今後の国際活動を推進する組織的体制について検討する。

5. 会報広報担当理事より

1)日本保健医療社会学会ニューズレターについて

4 回発行。

2)ホームページについて

リンク学会・団体の追加。入会申込書のダウンロード(ワード、PDF ファイル)。

6. 総務担当理事より

1)学会事務局の移転と事務局業務の軽減・整理の検討について

学会事務局の東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室からの移転と、学会事務局業務の一部外注を含めた大幅軽減・整理の方針の検討を行い、1 年後の本総会での提案と承認をめざす。

《提案理由》

学会事務局は、2001 年の年次総会において、

・それまでの、事実上事務局を担当する総務担当理事の研究室に置いてきた方針を改めること

・総務担当理事とは独立に、理事の任期 1 期 2 年はもとより、重任による最大就任期間の 4 年を超えても、事務局を置くことが可能な研究室に設置すること

・当面は、東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室(以下、東大健康社会学教室。教室主任は山崎氏)に置くこと

が承認された。

以来今日まで 7 年間にわたり、学会事務局が東大健康社会学教室に置かれ、今年は 8 年目を迎えた。

上述の方針変更の主眼は、事務局担当の総務担当理事が 1 期 2 年または 2 期 4 年で交替するたびに事務局が移転することによる不便と滞りをなくすことにあった。また、方針変更当時、学会の会員規模は 400 名前後であった。

そのような規模の学会事務局を置くためには、研究室に、実務を担当する事務局次長クラスの担当者を置けることと、繁忙時に補助を行う臨時アルバイターが確保できることが必要であった。

事務局を当面の間、東大健康社会学教室に置くことになったのは、上記のようなマンパワーの確保が可能であると判断されたためであった。

しかし、喜ばしいことではあるが、会員数はその後も増え続け、今日では 700 名近くにのぼり、事務局の業務量も 2 倍以上になっている。その分、事務局次長をはじめとする事務局の仕事負担は大きく、事務局人件費予算を増額することにより辛うじて凌いできたものの、実際の業務量は、予算化された人件費をいまだ大きく上回っている。また何よりも、マンパワーの確保がむずかしくなってきている。

さらに、東大健康社会学教室主任の山崎氏が、今から 3 年後の 2010 年度末には任期制の適用を受けて退任する可能性が大きくなってきており、学会事務局の東大健康社会学教室からの移転を、時機を失せず検討しなければならない段階に入っている。

こうした状況の下で、現学会長の山崎氏が 2 期目の学会長を解任される 2009 年 5 月までのこの1年内に、

・学会事務局の東大健康社会学教室からの移転と移転先

・学会事務局業務の過度の負担を移転先にかけない方向での一部外注を含めた大幅な軽減・整理

以上の2点を真剣に検討し、1年後の総会までに成案をまとめることが必要であると考え、ここに上述の活動方針を提案する次第である。

2) 理事・監事選挙の実施と 新理事会との合同による評議員の選考

第4号議案 理事1名の補充

学会誌編集担当理事1名の欠員の補充として、評議員であり、副編集委員長を務める杉田聡会員の理事就任(任期は前任者の残りの1年)が提案され、承認された。

第5号議案 2008(平成20)年度予算計画

日本保健医療社会学会2008年度予算書

自2008年4月1日　至2009年3月31日

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	2,463,161	印刷製本費	2,200,000
会費収入(6000円×600人分、新会員7000円×60	4,020,000	郵送費	540,000
学会誌刊行物売上	20,000	交通費	800,000
受取利息	10	事務局人件費	598,000
その他*	2,500	学会誌編集費	300,000
		消耗品費	305,000
		会議費	127,000
		大会・研究会・部会活動補助費	380,000
		その他(振り込み手数料・学会奨励賞等	64,000
		予備費	1,191,671
合計	6,505,671	合計	6,505,671

*前年度定例研究会補助残金

第6号議案 名誉会員の推挙について

園田恭一会員が名誉会員として推挙された。

学会奨励賞授与式

大会長挨拶

次期大会長挨拶

閉会の辞

(総務担当理事:溝田友里)

V. 理事会報告

≪2007年度第5回理事会≫

2008年3月8日(土) 13時より 於東京大学

出席者:山崎喜比古(学会長)、朝倉隆司、樫田美雄、河口てる子、黒田浩一郎、野口裕二、
三井さよ(各理事)、望月美栄子(学会事務局次長)、
坊迫吉倫氏(第34回大会事務局、オブザーバーとして参加)

1)第34回大会に関して:

研究活動担当の三井理事よりラウンドテーブルディスカッションの応募状況について報告があり、第34回大会事務局の坊迫氏を交えた討議の結果、プログラムを変更することとなった。

2)学会誌編集委員会に関して:

学会誌編集担当の天田理事より、編集委員会の新体制、事務局移転、次号論集(18巻2号)、査読プロセスの透明化・ルール化、投稿論文のウェブ上での公開などに関する編集委員会での討議の報告を受けた。また、編集委員会開催に伴う旅費など運営に関する費用に関して審議が行われ、第34回大会の総会にて来年度予算に組み込むことを提案することとなった。

3)学会奨励賞に関して

研究活動担当の黒田理事より、選考委員会の審議結果が報告され、討議の結果、審議結果が承認された。また、学会奨励賞の副賞として3万円を進呈することが決定した。

4)社会福祉系学会連絡協議会について

渉外国際担当野口理事より、今年度中に社会福祉系学会連絡協議会の脱退手続きを行うことが報告された。

5)広報活動について:

会報広報担当の河口理事よりニューズレター編集の報告を受けた。また、次号ニューズレターの発行予定について討議を行った。

6)新入会員および退会者の承認:

望月学会事務局次長より、2007年12月8日～2008年3月6日までの入会および退会希望者の報告があり、承認された。

7)次回理事会について:

次回理事会日程については各理事で調整を行う。(後日調整の結果、5月17日(土)13時より、首都大学東京にて開催することとなった)

≪2008年度第1回理事会≫

2008年5月17日(土) 13時より 於首都大学東京

出席者:山崎喜比古(学会長)、朝倉隆司、天田城介、樫田美雄、河口てる子、黒田浩一郎、

野口裕二、三井さよ、溝田友里(各理事)、望月美栄子(学会事務局次長)

1)2007年度活動報告について:

各理事より、2007年度の活動報告の報告が行われた。

2)2008年度活動方針について:

各理事より、2008年度活動方針についての提案が行われ、審議の結果、第34回大会総会にて提案されることとなった。

3)新入会員および退会者の承認:

望月学会事務局次長より、2008年3月7日～2008年5月13日までの入会および退会希望者の報告があり、承認された。

4)次回理事会について:

次回理事会日程については各理事で調整を行う。(後日調整の結果、7月13日(日)13時30分より、東京大学にて開催することとなった)

≪2008年度第2回理事会≫

2008年7月13日(日) 13時30分より 於東京大学

出席者:山崎喜比古(学会長)、朝倉隆司、樫田美雄、河口てる子、杉田聡、黒田浩一郎、野口裕二、溝田友里(各理事)、望月美栄子(学会事務局次長)

1)第34回大会および第35回大会に関して:

総務担当溝田より、第34回大会の会計について報告があった。また、第34回大会の総会報告草案について検討された。

第35回大会に向け、研究活動担当の樫田理事が大会企画支援を担当し、今後大会事務局と連絡・調整を行っていくこととなった。

2)学会奨励賞に関して

研究活動担当の黒田理事より、学会奨励賞選考委員会の立ち上げについて提案が行われ、承認された。

3)編集委員会の活動に関して

編集担当の杉田理事より、保健医療社会学会機関誌編集委員会についての報告があった(詳細については本ニューズレター編集委員会報告に別途記載)。

4)後援会等の後援依頼への対応について

講演会等の後援依頼の対応について、今後の方針が検討され、講演等の内容が日本保健医療社会学会の領域内にあり、本学会会員が企画に関与している場合、理事会での討議の上、後援を引き受けることとした。

5)学会事務局移転と業務の一部外注化について

総務担当溝田より、学会事務局移転に向けた今後の予定と事務局業務の委託先についての報告があり、検討された。今後も引き続き検討を行うこととなった。

6)広報活動について:

会報広報担当の河口理事よりニューズレター第 72 号の記事案が提出され、討議を行った。

7)新入会員および退会者の承認:

望月学会事務局次長より、2008年5月13日～7月10日までの入会および退会希望者、資格停止者の報告があり、承認された。

8)次回理事会について:

次回理事会日程については各理事で調整を行う。(後日調整の結果、10 月 5 日(日)13時30分より、東京大学にて開催することとなった)

(総務担当理事:溝田友里)

Ⅵ. 研究活動担当理事から

1. 定例研究会(2007年度)について

(a)関東地区の活動結果

2008年3月14日(金)18:00から、学士分館8号室にて、首都大学東京都市環境学部大学院・都市システム科学研究科の星旦二さんに、「都市の健康課題とヘルスプロモーションの推進と地域のエンパワーメント」と題して、ご報告をいただいた。詳細は、Ⅷ.関東地区定例研究会記事参照。

(b)関西地区の活動結果

2008年3月15日(土) の14:00から、2007年度の2本目の関西地区定例研究会を行った。場所はキャンパスプラザ京都・第二会議室、演者は、阿部俊彦氏(東海学院大学)と川島理恵氏(日本学術振興会特別研究員)、コメンテーターは、栗岡幹英氏(奈良女子大学教授)であった。聴衆はちょうど学会で来ていた他地区からの参加者も含め、約30名であった。いずれの発表に関する討議もざっくばらんな雰囲気の中、活発に行われた。また、最後10分では参加者全員の自己紹介も行われた。たいへん有意義であった。学会大会とは違うこのようなミーティングの価値が再認識させられたといえよう。

2. 定例研究会(2008年度)について

(a)関東地区

関東地区では、例年通り、3回の定例研究会を予定している。

(b)関西地区

関西地区では、例年通り、2 回の定例研究会を予定している。初回は、樫田美雄が幹事を担当し、2回目は黒田浩一郎が幹事を担当する予定である。

3. 第3回日本保健医療社会学会奨励賞(2008年度)について

2008年7月13日の理事会において選考委員を選出し, 選考委員会を立ち上げた。

4. 第35回学会大会企画支援担当研活理事の選任について(2009年度)

2008年7月13日の理事会において樫田美雄を標記担当理事として選任し、熊本大学側との連絡・調整の任にあてることとなった。

(研究活動担当理事)

第2回日本保健医療社会学会奨励賞

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞の2007年度受賞者は，選考委員会による審査の結果，下記のように決定し，今年度の第34回日本保健医療社会学会大会総会において授賞式が行われ，賞状と副賞が贈られた。

受賞者:林田康子(都城看護専門学校)

受賞作:原著「精神作業療法における権力と援助の関係」

(『保健医療社会学論集』第18巻2号, pp. 57-69, 2007年)

受賞理由:ディスコース分析やフレームといった，社会学における分析概念・分析方法を，精神科作業療法の実践の場面に適用して，これらを用いなければ見えてこないような側面を明るみに出す，その分析の手堅さが評価された。

なお，2007年度は，この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』(=18巻)に掲載された若手研究者による論文(総説，原著，研究ノート)を対象にして選考されました(「若手研究者」とは，著者[共著の場合は筆頭著者と読み替える]の年齢が35歳未満であるもの，または研究歴が10年未満とみなせるものを指します)。選考対象論文は，6本(原著2本，研究ノート4本)でした。

2008年度は，『保健医療社会学論集』19巻1号・2号に掲載された，若手研究者による論文が選考対象となります。若手会員各位におかれましては，日頃の研究の成果を論文にまとめて投稿されるよう期待します。

(学会奨励賞選考委員会)

Ⅶ. 編集委員会

1. 編集委員会では2008年7月下旬頃に次号『保健医療社会学論集』19巻1号を刊行する予定です。現在はすでに次々号19巻2号の編集作業の準備を開始しています。19号2号は2008年5月17日(土)、18日(日)の両日に首都大学東京にて開催された第34回大会の大会長講演の記録(星旦二氏)、メインシンポジウム「地域のエンパワーメント」の記録(櫻井尚子氏、成木弘子氏、大木幸子氏)、2つの教育講演の記録(二木立氏、山崎喜比古氏)、投稿論文、書評などで構成される予定です。現在、2008年12月末の

刊行を目指して鋭意作業を進めております。

2. 2007年12月9日(日)の理事会ならびに2008年5月18日(日)の総会において新編集委員会の体制が承認されたことを受け、現在、編集委員会は天田城介(編集担当理事、編集委員長、立命館大学)、杉田聡氏(編集担当理事、副編集委員長、大分大学)、早坂裕子氏(新潟青陵大学)、松田亮三氏(立命館大学)の4名の体制となっています。以上の経緯を踏まえ、2008年5月18日(日)の第34回大会終了後、2008年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を開催いたしました。編集委員会では、編集委員会の査読システムの明確化・ルール化について、『論集』19巻1号投稿論文の査読者と査読プロセスの決定について、投稿規定ならびに論文執筆要綱についてなど審議・検討が行われました。また、現在、編集委員会ではメーリングリスト(セキュリティ機能をもつクローズドなML)を通じて情報の共有化を図りつつ、査読者の決定、査読判定を厳正かつ適切に行うべく、編集作業を進めているところです。規定の変更や申し合わせの確認を含め、査読プロセスを明確にルール化し、より透明性の高いものにするよう検討しています。上記の査読プロセスの明確化・ルール化の作業は可能な限り2008年度中に行うことを編集委員会において確認しています。

3. 現在、編集委員会では『論集』に掲載された投稿論文などを著者による掲載承諾を得た上でウェブ上にて公開する方向性についても慎重に検討しています。また、論文執筆要項においてウェブ上での情報を引用・参照する場合についても明示することなどもあわせて検討しているところです。

4. 2007年12月10日の投稿規程の変更にともなって、「7. 投稿者は、投稿の際には、コピー3部と論文を保存したフロッピーディスクを編集委員会事務局宛に書留にて郵送すると同時に、連絡担当者の連絡先住所、氏名、電話、email、原稿の種類を明記した上で、編集委員長のメールアドレス宛に原稿を添付ファイルで送付すること。」になっております。投稿の際には投稿規程を必ず参照して投稿してください。編集事務局の住所は下記の通り編集委員長所属先となりますので、送付、連絡の際にはお間違いのないようご注意ください。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学大学院先端総合学術研究科
編集委員長 天田城介
TEL & FAX [redacted] E-mail [redacted]

5. 『論集』19巻1号にて詳細をお伝えしますが、先日刊行されました『保健医療社会学論集』18巻1号ならびに18巻2号に下記の通り誤りがございました。著者の皆様、会員の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫びし、正誤表をここに記載いたします。今後はこうしたことがないよう、よりチェック機能を強化していく所存です。

『保健医療社会学論集』18 巻 1 号の訂正

■正誤表■

◆表紙 「生殖技術利用者のリスク認知――見過ごされる「非知」をめぐるコミュニケーション 竹田 恵子」

(誤)「見過ごされる「非知」をめぐるコミュニケーション」

→(正)「リスクの分担とリスクコミュニケーションの必要性」

◆目次 「生殖技術利用者のリスク認知――見過ごされる「非知」をめぐるコミュニケーション 竹田 恵子」

(誤)「見過ごされる「非知」をめぐるコミュニケーション」

→(正)「リスクの分担とリスクコミュニケーションの必要性」

『保健医療社会学論集』18 巻 2 号の訂正

■正誤表■

◆表紙 「医師の女性化と看護師の男性化――変化をめぐる観察の差異 矢原 隆行」

(誤)「矢原隆之」

→(正)「矢原隆行」

◆目次 「医師の女性化と看護師の男性化――変化をめぐる観察の差異 矢原 隆行」

(誤)「矢原隆之」

→(正)「矢原隆行」

◆奥付(121 頁) 「保健医療社会学論集 第 18 巻 2 号 2007 年 3 月 15 日発行」

(誤)「2007 年 3 月 15 日発行」

→(正)「2008 年 3 月 15 日発行」

(編集担当理事:天田城介)

Ⅷ. 関東地区定例研究会

≪第 195 回関東定例研究会 報告≫

2008 年 3 月 14 日(金)18:00 から、学士分館 8 号室にて、首都大学東京都市環境学部大学院・都市システム科学研究科の星旦二さんに、「都市の健康課題とヘルスプロモーションの推進と地域のエンパワーメント」と題して、ご報告をいただいた。星さんは長らく、平均寿命の全国比較などマクロなデータを駆使して現在の日本人の健康状況について多角的に考察されてきたが、今回の報告は特にヘルスプロモーションの観点から、何をどう推進することが健康の推進になるのか、さまざまなデータを用いつつ論じたものだった。

フロアからの質問では、データの解釈の仕方や、そこから導き出せる結論について、質問が出た。また、社会階層が健康に与える影響について、健康とは何かを根本から問い直

す星さんの試みについてなど、活発な意見交換がなされた。

誤解を恐れずに書くなら、私はずっと健康という言葉には違和感を抱き、極力用いないようにしてきた。ごく限られた中ではあるが、高齢の方やいわゆる「障がい者」と呼ばれる方々、あるいはその支援者たちとかかわる中で、健康という言葉を使うことの虚しさの方を強く感じてきたからである。健康という言葉は、支援が不要という意味で用いられたり(介護保険制度における介護予防はそこをゴールにしているようにも見える)、完全なる人間を指す言葉として用いられたりする(健康には社会的健康も含まれると言われると、なおのことそう思えてくる)。そのようなゴールを立てるよりも、不健康で何が悪いと開き直って、日々をどう回していくか、そこに何を盛り込んでいくかを考える方が、よほど生産的だと感じていた。

だが、今回の報告や議論を伺っていて、むしろ健康という言葉を、日々をいかにして回していくか、という課題として読み替えればいいのかもしれない、と感じた。少なくとも、マクロなデータを駆使して星さんが導き出すのは、身体的健康は日々の回し方と密接にかかわっている、ということである。健康推進のためには地域の商店街を活性化させるべきではないかという提言などは、その象徴であろう。実のところ、日々をどう回していくかというとき、一定の身体的状態が保たれることが重要になることも多い。ならば、健康という言葉をただ忌避するのではなく、生活という言葉と密着したものとして取り戻していくこともまた、私たちの重要な課題ではないか。そんなことを考えさせられた。

(研究担当理事　関東地区　朝倉・三井、文責:三井)

IX. 関西地区定例研究会

《第198回関西地区定例研究会のご案内》

今回は広い意味での〝薬物嗜癖〟を題材としていますが、第一発表(心光世津子氏)では「インタビュー方法論」、第二発表(本田宏治氏)は「家族関係論」にもふれた議論になるのではないかと思われます。コメンテーターは、我が国の嗜癖研究を長年に渡りリードしていらっしゃる清水新二氏にお願いできました。

✢日時　2008年10月11日(土)　13:00 開場 / 13:30 開演 / 17:30 終演

✢場所　キャンパスプラザ京都　第二会議室(2F)

京都市下京区西洞院通塩小路下ル

Tel : 075-353-9111　　※駅より徒歩3分

●JR 京都駅ビル駐車場西側・京都中央郵便局西側

スケジュール

13:30　開会(司会:樫田 美雄)

13:40　第一講演　心光世津子氏(大阪大学医学系研究科保健学専攻)

コメント:清水新二氏(奈良女子大学大学院)

14:50　フロアを交えての質疑応答

15:30　第二講演　本田宏治氏(龍谷大学 矯正・保護研究センター)

コメント:清水新二氏(奈良女子大学大学院)

16:40　フロアを交えての質疑応答

17:05　参加者自己紹介(含コメント、学会への要望事項等々)

18:00　懇親会(「いろはかるた」にて。京都タワー西隣の法華クラブビル1階)

連絡先:徳島大学総合科学部　樫田美雄([redacted])

電　話:TEL&FAX[redacted]

http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/kasida/presentation/presentation.html、

(文責:研活担当理事・樫田美雄)

X. 看護研究部会

1. 2008年度総会・日本保健医療社会学会RTD

2008年5月18日日本保健医療社会学会大会において総会が行われ、選挙で選出された新役員が承認されました。新役員は、会長には清水準一氏(首都大学東京)、副会長には板橋真木子(立正大学)、事務局には山崎裕二氏(日本赤十字看護大学)、宇城令氏(自治医科大学)となりました。

また総会当日には、看護研究部会企画によるラウンドテーブル・ディスカッション「看護職離職の構造的背景—長期的課題と今日的課題」が、話題提供者山崎喜比古氏(東京大学大学院)、林千冬氏(神戸市看護大学)、司会者清水準一氏(首都大学東京)によって行われました。

まず山崎氏から「本RTDへの問題提起と期待」と題して、話題を提供していただきました。そのなかで①早期退職率が異様に高いのはなぜか。勤務環境条件に問題があるのではないか。②勤務環境条件が慢性的なストレスと過労を生んでいる。このことが看護職の学び、成長を妨げているのではないか。③勤務環境条件を労働者の人権やサービス向上という複眼的な視点から問う必要があるのではないか。④現状打開のために国民的運動が必要ではないか。以上の4点の問題意識が提示されました。

次に林氏から話題を提供していただきました。看護職の離職の問題は看護職員不足が問題なだけでなく、看護職員の偏在が問題であるという点が指摘されました。また日本看護協会の調査より新卒者の9.3%が1年以内に離職している要因や、潜在看護師の離職理由に関する結果を受けて、看護職員の労働時間、勤務形態、看護職員の意識、患者・家族の反応などについてその現状が紹介され、キャリア開発のための「絶えざる前進」の強制

が、時としてワークライフ・バランスを阻害している点が指摘されました。その後の意見交換では、看護学だけでなく、社会学や人間工学の立場から看護職の離職に関する意見が出されるなど有意義な議論が行われました。

2. 第1回例会・第2回例会

第 1 回例会は故島村忠義先生の追悼の意味をこめて、6 月 7 日、日本赤十字看護大学において 13:00 から行われました。

報告は、山崎裕二氏(日本赤十字看護大学)から「看護研究倫理向上の取り組みの実態と課題ー病院を対象としてー」と題して行われました。国内病院の看護研究倫理向上の取り組みの実態と課題を解明することを目的とした調査(回答病院数は 455 回収率 27.6%)により、小規模の病院ほど看護研究倫理向上の取り組みが不十分、管理職以外の看護職員への研究倫理教育が必要、看護部独自の審査体制の確立などの課題が明らかになったことが報告されました。

第 2 回例会は、7 月 12 日(13:30〜)首都大学東京荒川校舎において、細田満和子氏(コロンビア大学)から「保健医療に関する学際的研究」と題して報告が行われました。

3. 次回例会

次回の例会は、9 月 27 日(土)「多様化する看護職のこれから」と題し、公開例会を行う予定です。部会員でない方も参加していただける例会となっておりますので振るってご参加ください。詳細につきましては事務局 山崎裕二([redacted])までお問い合わせください。

(文責:板橋真木子)

XI. 学会後援の講演会案内

徳島大学で下記内容の講演会が10月18日にあります。会費無料です。皆様奮ってご参加下さい。

日 時:2008年10月18日(土) 13:30〜15:30

場 所:徳島大学常三島キャンパス総合科学部1号館北棟3階301教室

講演者:井出 草平(いで そうへい) 氏

・プロフィール : 大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程
日本学術振興会特別研究員

・講演者の主要業績 :『ひきこもりの社会学』(世界思想社 2007 年刊)

司 会:樫田 美雄(徳島大学)

コメンテーター:島治伸(徳島文理大学 人間生活学部 心理学科)

＝講演要旨＝

広汎性発達障害の支援や特別支援教育を押し進めていく先には何が待っているか？現在、全国各地での精力的な取り組みがされているが、そのことによって教育や社会はどのように変わっていくのか。広汎性発達障害の支援や特別支援教育の推進とはどういう意味があり、それらの流れに参加することはどういう意味があるのか。このような点を、広汎性発達障害、特別支援教育、ひきこもり、刑法犯罪などの視点からみていく。

※詳しい案内は、http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/index.html、にあります。

XⅡ. 中野進先生を偲ぶ

近畿医療福祉大学　姉崎　正平

日本保健医療社会学会の名誉会員であられた中野進先生が今年2月9日、突然、京都のご自宅で亡くなられました。奥様をはじめご遺族によれば、前日まで普通の生活をされ、晩酌もされ、眠るような安らかな最期であったそうです。

先生は 1923(大正 12)年5月6日に京都でお生まれになり、京都大学医学部を卒業され、外科医になられました。そして、医療生協の診療所長、やがて、2 つの病院、いくつもの診療所、健康管理センター、介護施設、訪問看護ステーション、介護支援センター、ヘルパーステーション、グループホーム、ヘルパースクールなどを設立、運営されてきました。しかし、これらご自分の傘下の地域医療福祉施設のみならず、むしろ、その実践体験に基づいて、地域医療向上のため京都府下の私立病院を統合し、京都私立病院協会を結成、時には、救急医療改善のためストも辞さない闘争を展開されました。大学紛争の時、京大医学部紛争の調停役の中心的役割も果たされました。地元京都の進歩的、保守的といわれる両方の医師、医療団体の役員を歴任され、さらに、地元京都を超えて、中央、あるいは、全国的に、医療を超えた人脈をもたれてきました。

先生が日本保健医療社会学会に入会されたのは、先生の 600 ページに及ぶ大著『医師の世界―その社会学的分析』を著された 1976 年ころではなかったかと思われます。同書は先生の地元京都と母校京大を中心とした調査研究に基づいていますが、むしろ、それ故、単なる冷たい統計でなく、肉声の聞こえてくる、日本の医師についての大学紛争頃までの、普遍的研究で、この分野の名著、金字塔です。保健医療社会学に必要なのは、医療の実践現場を忘れないことです。微笑みの中に鋭い社会科学的視点をもった外科の臨床医、医療福祉施設の管理者である先生は、日本保健医療社会学会で、この重要な役割をほとんど一人で担われて来られました。われわれはこのことを教訓として飛躍するべきと思われます。合掌

XIII. 新入会員および退会者の承認（敬称略）

<2008年3月7日～7月10日>

・入会

[redacted]

計 39名

・退会

[redacted]

計 15名

・物故

[redacted]

・資格停止

[redacted]

[redacted]、

[redacted]　計 48名

学会事務局からのお願い

ご連絡先がわからなくなっている会員の方(敬称略):

[redacted]

上記の方々と連絡先をとれる方がいらっしゃいましたら、学会事務局のほうにご連絡いただけますようお伝えください。

学会事務局からのお知らせ

規約の改正に伴い、2007年5月20日より、前年度分会費を未納の方への学会誌の送付を停止させていただきます。前年度までの会費に未納分がある方は、ぜひ納入してくださいますようお願いいたします。

学会事務局 E-mail:[redacted]　FAX:[redacted]

(学会事務局次長:望月美栄子)

XIV. 編集後記

5月の大会はいかがでしたでしょうか、大会長の星先生には、短期間で学術集会を実施していただき、本当にありがとうございました。大会は、講演者の熱意と活発な討議でたいへんな熱気でした。来年は、熊本で開催されますが、プログラムや演題募集は次号(10月発行)掲載の予定です。どうぞ期待してお待ちくださいませ。

今年の夏はたいへん暑くて、お忙しい会員の皆様方には、体調管理にご苦労されているのではと思っております。どうぞ、ご自愛ください。

ニューズレターでは、会員の皆様からのご意見をお待ちしております。どうぞ、奮って投稿してくださいますようお願いいたします。

「会員の声」投稿先:

E-mail:[redacted]

なお紙面の都合により、原稿の採否、若干の修正はお任せいただきますことをご了承ください。　(広報担当理事:河口てる子)

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 73　2008/11/25

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科
健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：河口てる子　発行：溝田友里)

Ⅰ．第 35 回日本保健医療社会学会大会のご案内（第 2 報）

第 35 回日本保健医療社会学会大会会長　田口　宏昭（熊本大学文学部）

平成 21 年度（2009 年）の第 35 回日本保健医療社会学会大会を熊本大学（黒髪キャンパス）でお引き受けすることになりました。2005 年 5 月に第 31 回大会が熊本学園大学で開催されていますので、あまり間をおかないで九州の地で、しかも前開催校との距離が徒歩 30 分足らずの本学で全国学会が開かれるというのは前例がないかと思われます。「熊本なら 4 年前に行ったよ、次回は見合わせようか」と思われないよう、一工夫をしなければならないと感じています。

学会員は佐藤哲彦会員と私の二人ですが、修了生、卒業生や在学生に手伝ってもらいながら、またとりわけ学会の役員の方々に応援していただきながら、成功裏に閉幕できるよう準備を進めていきたいと考えています。

大会は 2009 年の 5 月 16 日（土）および 17 日（日）が予定されています。開催期間中、キャンパス内の建物の耐震工事が行われていまして、そのため、一時移転先であり、しかも学会会場に予定しています講義棟の設備等につきまして、ご不便をおかけすることもあろうかと思われます。それでもなお、条件の許す限り、参加される皆様にとって知的に快適で、実り多い二日間になるよう努めていきたいと念じております。

5 月なかばの当地は楠の新緑がとりわけ美しい季節です。楠の巨木の並ぶキャンパス内には夏目漱石やラフカディオ・ハーン（小泉八雲）がかつて教鞭を執っていた旧

制第五高等学校の校舎や理科実験室が、国指定の重要文化財として保存されています。また交通至便の市街地には、加藤清正の築いた熊本城が築城400年を迎えた昨年に向けて長期間の工事を終え、本丸を取り巻く建物群が古地図を元に復元され、大勢の見学者の来訪を待っています。保健医療関係では市街地から電車で約30分のところに、元ハンセン病患者さんのための療養所で、広大な敷地をもつ「菊池恵楓園」があります。最近、その園内に博物館機能をもつ「社会交流館」が建てられました。これらの施設をそれぞれ、学会の時間の合間に散策や見学にご利用ください。

多数の方々のお越しをお待ちしています。

なお、第35回大会の要綱は以下の通りです。

第35回日本保健医療社会学会大会　プログラム概要等

Ⅰ．大会開催要綱

1．日程　2009年5月16日(土)、17日(日)

2．会場　熊本大学黒髪キャンパス（熊本県熊本市黒髪２丁目４０－１）

（JR九州鹿児島本線熊本駅（特急停車駅）下車、駅前より産交バス「楠団地」（陣内経由を除く）「竜田駅前」「武蔵丘」行きで「熊本大学前」下車すぐ）

大学教育機能開発総合研究センター講義棟

3．大会長　田口　宏昭（熊本大学文学部）

4．プログラム概要（案）

5月16日（土）

12：00－　受付開始

13：00－15：00　要望演題セッション・一般演題セッション

15：15－17：45　シンポジウム「保健医療における事故・紛争と社会学」（仮題）

18：00－　懇親会（くすのき会館レセプションルーム）

5月17日（日）

08：50－　受付開始

09：20－11：20　看護学系演題ポスターセッション（特別企画）

・一般演題セッション

11：20－12：00　昼休み

12：00－12：50　総会

13：00－13：50　教育講演「水俣病における科学と社会」（仮題）

浴野成生（熊本大学医学薬学研究部教授）

14：00－16：00　ラウンド・テーブルディスカッション

5．ポスターセッション

17 日(日)に予定されています「看護学系演題ポスターセッション（特別企画）」は通常の一般演題とは別枠で公募するものです。このセッションは、各報告者がポスターを指示しながら３分の口　頭報告の後、フロアとの質疑応答を行うという形式で進行します。事務局の方で司会者をつけます。なお、ポスターは外枠サイズ縦1091mm×横 788mm の模造紙１枚(各報告者が準備)
に貼り付けることを想定して作成してください。申込みには、専用の用紙が http://soc.let.kumamoto-u.ac.jp/medsoc/index.html にありますので（１１月１５日公開予定）、ダウンロードしてお使い下さい。

6．シンポジウム

シンポジウム：「保健医療における事故・紛争と社会学」（仮題）

概要：医療事故や医療をめぐる紛争を、社会学はこれまでどのように考えてきたのか、あるいは考えていけばいいのかなどについて考え、討論します。企画コーディネーター：佐藤哲彦（熊本大学文学部）

詳細については次号のニュースレターにてお知らせします。

7．参加費

会員 5000 円、非会員 6000 円、学生 3000 円

8．一般演題・ポスターセッション募集

一般演題および、看護学系演題ポスターセッションを同時に募集いたします。（お申し込みはどちらか片方だけとなります)。下記の要領に従ってご応募ください。

（1）一般演題の発表時間は、1 演題につき、発表 12 分、質疑 8 分です。一方、別枠でのポスターセッションは、ポスターの前で発表 3 分、質疑 1 分、移動 1 分です。一般演題の発表には、パソコン用のプロジェクターを用意します（一般的なコネクタ＝ミニ D-Sub　15 ピン＝でない場合には、端子変換アダプターをご持参下さい)。会場備え付けの PC で確実に対応できるのはパワーポイント 2003 までです。2007 バージョンを使用予定の方は、恐れ入りますがご自分の PC をご持参ください。

（2）発表者は研究者、共同研究者とも会員であることが必要です。会員でない方は必ず発表申し込み前に、下記で入会手続きを完了しておいてください。但し、入会年度については、2008 年度、2009 年度の何れかを選択できます。入会手続きは学会事務局（東京大学大学院医学系研究科健康社会学教室気付、日本保健医療社会学会事務局）までお願いします。

（3）発表抄録を下記の要領で作成し、「一般演題申込用紙」あるいは「ポスターセッション申込み用紙」（大会 HP からダウンロードできます）とともに、下記の大会事務局あてにＥメール添付でお送りください。抄録はＰＤＦファイルに変換する予定です。事務局で抄録を受理すれば、その旨を折り返し返信させていただきます。返信がない場合は、届いていないことをご確認ください。

（4）抄録作成要領：従来と同様です。

形式：A4 版 1 枚、横書き、40 字×40 行、余白上下左右 30mm、明朝体、1 行目に演題 14ｐ中央寄せ、3 行目に氏名(所属)10.5p 右寄せ、5 行目から本文 10.5ｐを標準の目安とします。なお、抄録集の段階では B5 版に縮小されますので、図表等の大きさにご注意ください。

内容：①研究の目的、②対象と方法、③結果、④考察、の 4 点が明確になるように留意してください。

（5）締め切り：2009 年 2 月 20 日（金）（例年より 10 日間ほど、日程が繰り上がっています。ご注意下さい。）

（6）問い合わせ・申し込み先：

第 35 回日本保健医療社会学会大会事務局

〒860－8555　熊本県熊本市黒髪 2 丁目４０－１

熊本大学文学部総合人間学科社会学研究室（学科事務室気付）

TEL：[redacted]　E-MAIL：[redacted]

FAX：[redacted]

ホームページ：http://soc.let.kumamoto-u.ac.jp/medsoc/index.html

（開催校担当：田口　宏昭）

Ⅱ.「自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション」の公募について

2009 年度大会における「自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション」を公募いたします。2007 年度からの試みとして、ラウンドテーブル・ディスカッションをあらかじめ自主企画として公募する形で開催しています。最低でも 4 つのセッションが同時並行するようにして、個々のセッションの人数を少なくし、ラウンドテーブル本来の持ち味を出したいという意図からです。実際にやってみたところ、だいたい５～６企画が成立し、各ラウンドテーブルでそれぞれ活発な議論が展開されました。

この成果を踏まえ、2009 年度も同様の形式でラウンドテーブル・ディスカッションを開催したいと思います。それにともない、会員の方々の自主企画ラウンドテーブル・ディスカッションを募集いたします。

≪応募要領≫

① 企画者および話題提供者：
企画者（兼司会者）1名と話題提供者2～3名でひとつのセッションとする。企画者は現に本学会会員であること、話題提供者は大会当日に会員であることを要する。

② テーマおよび企画の趣旨：
本学会で議論するにふさわしいテーマであること。
企画の趣旨を200字程度にまとめる。

③ 応募締切り： 2008年12月27日（土）

④ 採否の決定： 研究活動委員会で採否を決定する。

企画者は、上記①と②を明記して、メールで下記研究担当理事宛にご応募ください（申込みには、専用の用紙がhttp://soc.let.kumamoto-u.ac.jp/medsoc/index.htmlにありますので《１１月１５日公開予定》、ダウンロードしてお使い下さい）。また、この件に関するお問い合わせもメールにてお願いいたします。
みなさまの積極的なご応募、ご参加をお待ちしております。
（研究活動担当理事：樫田美雄：メールアドレス [redacted]）

Ⅱ．理事会報告

≪2008年度第3回理事会≫
2008年10月5日（日） 13時30分より 於東京大学
出席者：山崎喜比古（学会長）、朝倉隆司、天田城介、樫田美雄、河口てる子、黒田浩一郎、杉田聡、溝田友里（各理事）、望月美栄子（学会事務局次長）

1）第35回大会に関して
研究活動担当の樫田理事より、第35回大会の準備状況や企画について報告があった（詳細については本ニューズレター第35回日本保健医療社会学会大会からのお知らせに別途記載）。次回理事会には、大会事務局担当者もオブザーバーとして参加することとなった。

2）編集委員会の活動に関して
編集担当の天田理事より、保健医療社会学会機関誌編集委員会についての報告があった（詳細については本ニューズレター編集委員会報告に別途記載）。

3）広報活動について
会報広報担当の河口理事よりニューズレター第73号の記事案が提出され、討議を行

った。

4) 定例研究会について

研究活動担当の黒田理事より、定例研究会の報告と今後の予定について報告が行われた（詳細については本ニューズレター定例研究会案内と報告に別途記載）。

5) 理事選挙について

総務担当溝田より、今年度は理事・監事改選の時期に当たり、選挙実施に向け準備を進める旨の報告を受けた。

6) 新入会員および退会者の承認：

望月学会事務局次長より、2008年7月14日～10月3日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。

8) 次回理事会について：

次回理事会は、12月14日（日）12時30分より、東京大学にて開催することとなった。

（総務担当理事：溝田友里）

Ⅲ. 研究活動担当理事から

関東と関西それぞれ第1回の定例研究会の開催後の詳細な内容報告は、次号に掲載する予定です。

1．関東定例研究会

2008年度第1回目の定例研究会は、2008年10月3日（金）18：00～21：00に、学士会分館8号室にて、山本武志氏（千葉大学看護学部）に「患者・家族の医療事故体験にみる医療者-患者関係」と題してご報告いただいた。司会は朝倉隆司（学芸大学）。

2．関西定例研究会

2008年度第1回目の定例研究会は、10月11日（土）13:30～17:30に、キャンパスプラザ京都・第二会議室において、広い意味での薬物依存をテーマに開催された。心光世津子氏（大阪大学）から、「“アルコール依存症になる”体験談をいかに語るか―「保健医療」しようとする私と「社会学」しようとする私の思考と志向―」と題してご報告いただき、本田宏治氏（龍谷大学）から「「わが子」のドラッグ使用を語る陥穽について」と題してご報告いただいた。司会は樫田美雄（徳島大学）、コメンテーターは清水新二氏（奈良女子大学）。

（研究担当理事　、文責：三井）

Ⅳ. 編集委員会

1) 編集委員会では2008年8月に『保健医療社会学論集』第19巻1号を刊行しました。引き続き、現在、第19巻2号の編集作業を進めています。次号は2008年5月17日（土）、18日（日）の両日に首都大学東京で開催された第34回大会での大会長講演の記録（星旦二氏）、メインシンポジウム「地域のエンパワーメント」の記録（櫻井尚子氏、成木弘子氏、大木幸子氏）、2つの教育講演の記録（二木立氏、山崎喜比古氏）、投稿論文、書評などで構成される予定です。現在、2008年12月末の刊行を目指して鋭意作業を進めております。

2) 2008年5月18日（日）の第34回大会終了後に、2008年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を開催いたしました。編集委員会では、編集委員会の査読システムの明確化・ルール化について、『論集』第19巻1号投稿論文の査読者と査読プロセスの決定について、編集規定、投稿規定、論文執筆要項についてなど審議・検討を行いました。また、現在、編集委員会ではメーリングリストを通じて情報の共有化を図りつつ、査読者の決定、査読判定を厳正かつ適切に行うべく、編集作業を進めています。規定の変更や申し合わせの確認を含め、査読プロセスを明確にルール化し、より透明性の高いものにするよう検討しています。上記の査読プロセスの明確化・ルール化の作業は可能な限り2008年度中に行うことを編集委員会において確認しています。

3) 「投稿規程」の「4」にて記されているように、『論集』は年2回発行し、論文の投稿は3月末と9月末を締め切りとして受け付けています（投稿の方法や手続きについては投稿規程ならびに論文執筆要項等を必ず参照して確認をしてください）。編集委員会の申し合わせ事項として、9月末と3月末の二期の締め切り後に編集委員会を開催して査読者と査読プロセスを決定・確認し、その後、査読者からの査読結果報告を受けて査読判定を行うことになっています。したがって、4月1日～9月30日までに、あるいは10月1日～3月31日までに編集委員会事務局に送付されてきた投稿論文は4月上旬ないしは10月上旬に開催される編集委員会での協議を経て査読プロセスが開始されます。したがって、査読結果の報告までに最長で半年以上かかる場合がありますので、投稿者の皆様はその点をよく理解して投稿してください。

4) 『論集』19巻2号にて詳細をお伝えしますが、先日刊行されました『保健医療社会学論集』第19巻1号に下記の通り誤りがございました。学会奨励賞受賞者ならびに会員の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫びし、正誤表をここに記載いたします。今後はこうしたことがないよう、チェック機能をより強化していく所存です。

『保健医療社会学論集』第19巻1号の訂正
■正誤表■
◆第2回日本保健医療社会学会奨励賞（68頁）
（誤）「受賞作：「精神作業療法における権力と援助の関係」」
→（正）「受賞作：「精神科作業療法における能力と援助の関係について――相互行為における教育的フレームの成立」」

（編集担当理事：天田城介）

V．関東地区定例研究会

2008年度第2回目の定例研究会は、2008年12月6日（土）13：00～16：00に、東京大学医学部3号館S102にて、開催する。成元哲氏（中京大学）に、「スティグマと健康のダイナミズム:水俣病を事例に(The Dynamics of Stigma and Health:in case of Minamata Disease)（仮）」と題して、ご報告いただく。水俣病をめぐる相互作用と自己アイデンティティの変容を、家族・地域との相互作用と、自らの視覚（選択）の変容を中心に報告し、インタビュー調査と疫学調査のデータを利用する。司会は朝倉隆司（学芸大学）、コメンテーターは三井さよ（法政大学）。

（研究担当理事　、文責:三井）

VI．関西地区定例研究会

2008年度第2回目の定例研究会は、2009年3月14日（土）1:30～5:30pmに、キャンパスプラザ京都第2会議室で開催する。発表は、以下のように，立命館大学大学院先端総合学術研究科メンバーによる、難病（ＡＬＳ，筋ジストロフィー）患者の療養支援に関する研究・調査報告となる予定。司会は黒田浩一郎（龍谷大学）。

(1)発表者名：長谷川唯・堀田義太郎
発表タイトル：難病患者の地域生活移行支援における諸課題
要旨：病状の進行に伴い在宅独居生活が困難となった事例を通じて、安定した在宅療養生活を可能とする重層的な支援体制構築のための諸課題を、入院中における支援のあり方も含めて、制度的側面と非制度的側面の双方に留意しつつ、検討する。

(2)発表者名：仲口路子
発表タイトル：難病患者の地域生活支援における諸課題――退院から在宅へ
要旨:医療を要する進行性難病患者が地域で療養生活を営むことを決意したときの支援態勢における諸課題を、長期入院から退院して独居生活を始めたALS療養者を例として、おもにMSW・ケアマネージャーのかかわりを中心に分析する。

(3)発表者名：西田美紀

発表タイトル：難病患者の地域生活支援における心理的援助についての検討

要旨：医療を要する進行性難病患者が地域で療養生活を営むための心理的課題を、独居生活が困難となったALS療養者の事例を通して、エンパワーメントとアドボケートの必要性を再考しつつ、その困難さと課題について考察する。

(4)発表者名：伊藤佳世子

発表タイトル:長期療養患者の自立支援について――筋ジストロフィーの事例から

要旨:長期療養をしている筋ジストロフィー患者は病院併設の養護学校に通う頃から入院生活をはじめ、そのまま死亡退院するケースも少なくない。2、30年病院で過ごされている方が地域に戻るためにはいくつものハードルがある。実際に30年療養生活をして、その後に地域に戻った筋ジス患者の支援を通じ、病院を出ることを阻害するものを制度面、精神面、社会的な面から明らかにする。

(研究担当理事　、文責:三井)

Ⅶ. 看護研究部会

(1) 第2回例会（7月12日　首都大学東京　荒川キャンパス）

第2回例会は、細田満和子氏（コロンビア大学)から「保健医療に関する学際的研究」と題して報告が行われた。

保健医療に関する学際的研究は、それぞれの国において系譜や傾向があるが、今回の報告では、①アメリカにおける学際的研究について、1950年代からの大まかな概観がなされ、学際的研究が推進されてきた背景が分析された。そして②学際的研究の拠点を目指す、コロンビア大学メイルマン・パブリックヘルス校ソシオメディカル・サイエンス学部について紹介がなされた。さらに、③日本ではどのような学際的研究がなされてきたか、そして今後どのような学際的研究がなされようとするかという可能性を探るという試みがなされた。

(2) 第3回例会　公開例会（9月27日　首都大学東京　サテライトキャンパス）

9月は部会員以外の方にも参加していただき公開例会を行った。平野裕子氏（九州大学大学院）から、「二国間経済連携協定に基づく看護師導入―受入国および送出国での調査から―」と題して、特にインドネシアからの外国人看護師受け入れの問題について話題提供をしていただいた。

ＥＰＡ(経済連携協定）に基づくインドネシア人看護師受け入れの流れ、現状などが紹介された。またインドネシア、日本両国で行われたれた意識調査の結果について報告された。質疑応答においては、インドネシア人看護師に対する対応が、受け入れ側の施設に丸投げされているという現状や、実際に受け入れ施設において混乱が生じて

いる状況などが指摘され、議論された。

(3) 次回例会

次回の例会は、11 月 29 日(土) 13：30 から開催を予定しています。お問い合わせは、事務局山崎裕二（[redacted]）までお願いいたします。

（文責：板橋真木子）

Ⅷ. 新入会員および退会者の承認（敬称略）

<2008 年 7 月 14 日～10 月 3 日>

入会

[redacted]

[redacted] 7名

退会

[redacted] 1名

学会事務局からのお願い

連絡先がわからなくなっている会員の方（敬称略）：

[redacted]

上記の方々と連絡先をとれる方がいらっしゃいましたら、学会事務局のほうにご連絡いただけますようお伝えください。

選挙のお知らせと会費納入のお願い

今年度は理事・監事改選の時期に当たります。

2009 年 1 月末日の納入状況で選挙人名簿を作成いたします。

2008 年度及び 2007 年度以前の未納のある方には納入状況と振込用紙を同封致しますので、ご確認の上、お支払い下さいますようお願いいたします。

なお、お問い合わせは学会事務局（[redacted]）までお願いします。

学会事務局　E-mail：[redacted]　FAX：[redacted]

（学会事務局次長：望月美栄子）

Ⅸ. 編集後記

秋も深まり、事務局のある東京でも銀杏並木の黄色や山々の紅葉が見ごろになっています。来年、第35回日本保健医療社会学会大会が開催される熊本では、どんな様子でしょうか。

本ニューズレター73号は、会員の皆様からのご要望の多い大会プログラム、演題募集記事をメインに編集いたしました。一般演題・ポスターセッションに多くの方の応募を期待しております。また、学会からは自主企画ラウンドテーブル・ディスカッションの公募もされておりますので、どうぞ、ご一読くださいませ。

これから寒くなります。年末の忙しさの中で、体調など崩されませんよう、自愛ください。

ニューズレターでは、会員の皆様からのご意見をお待ちしております。どうぞ、奮って投稿してくださいますようお願いいたします。

「会員の声」投稿先：

E-mail：[redacted]

なお紙面の都合により、原稿の採否、若干の修正はお任せいただきますことをご了承ください。

(広報担当理事：河口てる子)

『ニューズレター72 号』の訂正とお詫び

先日発行されました日本保健医療社会学会ニューズレター72 号に下記の通り誤りがございました。著者ならびに会員の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫びし、正誤表をここに記載いたします。今後はこうしたことがないよう、チェック機能をより強化していく所存です。

■正誤表■

◆第 2 回日本保健医療社会学会奨励賞（頁）

(誤)「受賞作：「精神作業療法における権力と援助の関係」」

→ (正)「受賞作：「精神科作業療法における能力と援助の関係について――相互行為における教育的フレームの成立」」

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 74　2009/02/10

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科
健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：河口てる子　発行：溝田友里)

Ⅰ．第 35 回日本保健医療社会学会大会のご案内（第 3 報）

第 35 回日本保健医療社会学会大会会長　田口　宏昭(熊本大学文学部)

来る 5 月 16 日(土)、17 日(日)の2日間にわたって開催される予定の第 35 回日本保健医療社会学会大会の開催準備を、主催校であります熊本大学のほうでも少しずつすすめております。

このほど漸く、懸案でありましたシンポジウム「当事者からみる医療事故と保健医療社会学」の、シンポジストならびにコメンテーターを含めた骨格が固まり、会員の皆様方にお知らせできる運びとなりました。大いにご期待ください。また、このたびの大会では、特別企画「看護・リハ系ポスターセッション」、ラウンド・テーブルディスカッション、教育講演「水俣病における科学と社会」等々、たいへん盛りだくさんの企画が並んでおります。教育講演でお話しいただく予定の浴野成生氏は、海外でもよく知られた水銀中毒の研究者です。何れの企画もまたとない機会ですので、ぜひお見逃し、お聞き逃しのないよう奮ってご参加ください。一般演題については、申し込み方法などを下に案内しておりますのでご参照ください。

以下、今期大会の企画を中心に、その概要をご紹介申し上げます。

◎プログラム

○5 月 16 日(土)

12:00　　受付開始

13:00 ～ 15:00　一般演題セッション
15:10 ～ 15:30　大会長挨拶
15:45 ～ 18:15　シンポジウム「当事者からみる医療事故と保健医療社会学」
シンポジスト　豊田郁子氏（新葛飾病院医療安全対策室）
勝村久司氏（医療情報の公開・開示を求める市民の会）
加部一彦氏（愛育病院新生児科）
コメンテーター　朝倉隆司氏（東京学芸大学教育学部養護教育講座）
石原明子氏（熊本大学大学院社会文化科学研究科）
司会　佐藤哲彦（熊本大学文学部）
18:30 ～　懇親会
○5月17日（日）
08:30　受付開始
09:00 ～ 11:00　看護・リハ系演題ポスターセッション（特別企画）・一般演題セッション
11:10 ～ 11:55　総会
11:55 ～ 12:00　第3回日本保健医療社会学会奨励賞授賞式
12:00 ～ 12:50　昼休み
13:00 ～ 13:50　教育講演「水俣病における科学と社会」
浴野成生氏（熊本大学大学院医学薬学研究部）
14:00 ～ 16:00　ラウンド・テーブルディスカッション

◎特別企画「看護・リハ系ポスターセッション」について

すでにお伝えしました通り、今大会では特別企画として「看護・リハ系ポスターセッション」（看護・リハ系の演題に特化したポスターセッション）を予定しております。これは看護師や理学療法士の会員の方々にもできるだけ発表の機会を設けるために企画したものですが、発表者は看護師・理学療法士に限りません。ポスターの貼付は5月16日（土）に行い、5月17日（日）の午前中に聴衆が集合、司会の誘導のもと各ポスター間を移動しながら発表者の説明を聞きます。ポスターは外枠サイズ縦1091mm×横788mmの模造紙一枚です。なお発表時間は3分、質疑応答時間は1分です。

◎ラウンド・デーブルディスカッションについて

第35回大会のラウンド・テーブルディスカッションについては、12月27日で応募を締め切ったところ、3本の企画申込みがありました。そこで研究活動担当理事が協議し、そのすべてを採用することになりました。その後、研究活動担当理事が紹介・コーディネートする企画をつのり、現在5企画を同時並行開催する方向で調整を進めています。

◎演題申込について：**申込締切は2月27日(金)です**

○一般演題について

一般演題の申込は、下記の大会ホームページから「一般演題申込用紙(Word書類)」をダウンロードし、必要事項を記入の上、大会事務局までEメールの添付書類としてお送りください。大会事務局のアドレスは [redacted] です。なおそのさいには表題に「一般演題申込」とお書きくださいますようお願いいたします。申込締切は2月27日(金)です。

○看護・リハ系ポスターセッションについて

ポスターセッションの申込は、下記の大会ホームページから「ポスターセッション申込用紙(Word書類)」をダウンロードし、必要事項を記入の上、大会事務局までEメールの添付書類としてお送りください。大会事務局のアドレスは [redacted] です。なおそのさいには表題に「ポスターセッション申込」とお書きくださいますようお願いいたします。申込締切は2月27日(金)です。

○ダウンロードやEメール添付が困難な会員の方々に

ダウンロードやEメール添付での申込が困難である場合には、郵送での申込も受け付けております。同封の申込用紙に必要事項を記入し、下記の大会事務局(宛名：第35回日本保健医療社会学会大会事務局)までお送りください。またそのさいには封筒の表に「演題申込」と朱書きしてくださいますようお願いいたします。申込締切は2月27日(金)です(必着)。

第35回日本保健医療社会学会大会ホームページ

http://soc.let.kumamoto-u.ac.jp/medsoc/index.html

◎参加費などについて

参加費については下記のようになります。なお、4月30日(木)までの参加費等の事前申し込みを予定されておられる方は、同封の「払込取扱票」(手数料はご本人負担)をご利用ください。

大会参加費

一般会員	4月30日までの申込	4500円
	5月1日以降・当日申込	5500円
非会員		6500円
学生会員	4月30日までの申込	3500円
	5月1日以降・当日申込	4500円
学生非会員		5500円

懇親会費(事前申込・当日申込いずれも)

一般4000円　学生2000円

◎大会事務局
〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1
熊本大学文学部 総合人間学科事務室内
第35回日本保健医療社会学会大会事務局
Email:[redacted]
FAX:[redacted]

（第35回日本保健医療社会学会大会事務局）

Ⅱ. 理事会報告

≪2008年度第4回理事会≫
2008年12月14日（日） 12時30分より 於東京大学
出席者：山崎喜比古（学会長）、天田城介、朝倉隆司、樫田美雄、黒田浩一郎、杉田聡、野口裕二、三井さよ、溝田友里（各理事）、望月美栄子（学会事務局次長）、佐藤哲彦（第35回大会事務局、オブザーバーとして参加）

1）第35回大会に関して
研究活動担当の樫田理事および第35回大会事務局佐藤氏より、大会の準備状況について報告があり、企画、プログラム、演題の募集などについて討議を行った（詳細については本ニューズレター第35回日本保健医療社会学会大会からのお知らせに別途記載）。
2）編集委員会活動に関して
編集担当の天田理事および杉田理事より、保健医療社会学会機関誌編集委員会についての報告があり、『保健医療社会学会』編集規程および編集委員会規程施行細則の改訂案について討議を行った（詳細については本ニューズレター編集委員会報告に別途記載）。
3）渉外活動に関して
渉外国際担当の野口理事より、学会連合体との今後の関係について提案され、討議の結果、これまで加盟してきた社会学系学会コンソーシアムに引き続き加盟することとなった。
4）理事・監事選挙について
総務担当溝田より、理事・監事改選選挙の準備状況について報告が行われた。
5）学会事務局移転について
総務担当溝田より、学会事務局の移転および業務委託先選定の状況について報告が行われた。

6)新入会員および退会者の承認

望月事務局次長より、2008年10月4日～12月12日までの入会および退会希望者はなかった旨が報告された。

7)評議員会について

評議員会は第35回大会中の2009年5月16日の12時より、熊本大学にて開催することとなった。

8)次回理事会について:

次回理事会は、2009年3月8日(日)12時30分より、東京大学にて開催することとなった。

(総務担当理事:溝田友里)

Ⅲ. 研究活動担当理事から

1)関東定例研究会

2008年10月3日(金)18:00～21:00に、学士会分館8号室にて、山本武志氏(千葉大学看護学部)に「患者・家族の医療事故体験にみる医療者-患者関係」と題してご報告いただいた。司会は朝倉隆司(学芸大学)。医療事故について従来医療者側からの見解を中心に捉えていたのに対して、患者やその家族の側から捉えた医療事故体験を、量的調査及び質的調査から捉え返した報告だった。フロアから医療者と患者との見解が大きく異なることへの驚きが示され、両者の間の相違をどのように考えるべきか、議論が展開された。

2008年12月6日(土)13:00～16:00に、東京大学医学部3号館S102にて、成元哲氏(中京大学)に「スティグマと健康のダイナミズム:水俣病を事例に(The Dynamics of Stigma and Health:in case of Minamata Disease)(仮)」と題して、ご報告いただいた。司会は朝倉隆司(学芸大学)、コメンテイターは三井さよ(法政大学)。水俣病をめぐる相互作用と自己アイデンティティの変容を、家族・地域との相互作用と、自らの視覚(選択)の変容について、疫学調査の結果を中心にご報告いただいた。居住する地区における補償者割合と住民の健康度の関係などに関して、興味深い結果が示された。フロアからは、結果をより精緻に理解するためのデータ解析に関する意見も出され、水俣病というスティグマの特性について、それが変化するとはどのようなことか、また補償制度の在り方などについて議論が展開された。

2)関西定例研究会

2008年度第1回の定例研究会は、10月11日(土)13:30～17:30に、キャンパスプラザ京都・第二会議室において、広い意味での薬物依存をテーマに開催された。心光世津子氏(大阪大学)から、「"アルコール依存症になる"体験談をいかに語るか――「保健医療」

しようとする私と「社会学」しようとする私の思考と志向――」と題してご報告いただき、本田宏治氏(龍谷大学)から「「わが子」のドラッグ使用を語る陥穽について」と題してご報告いただいた。司会は樫田美雄(徳島大学)、コメンテイターは清水新二氏(奈良女子大学)。

(研究担当理事 、文責:三井さよ)

Ⅳ. 編集委員会

1)編集委員会では2009年2月上旬に『保健医療社会学論集』第19巻2号を刊行する予定です。現在はすでに次々号第20巻1号の編集作業の準備を開始しています。第19巻2号は、特集として、2008年5月17日(土)、18日(日)の両日に首都大学東京で開催された第34回大会での大会長講演の記録(星旦二氏)、メインシンポジウム「地域のエンパワーメント」の記録(成木弘子氏、大木幸子氏)、2 つの教育講演の記録(二木立氏、山崎喜比古氏)を掲載します。したがって、次号は、特集、投稿論文、書評などで構成されることになります。

2)2008年10月18日(土)に2008年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催いたしました。編集委員会では、2008年9月末締め切りの投稿論文の査読者の決定、再投稿の査読結果を受けての査読判定、『論集』第19巻2号の構成の検討、編集規程・投稿規程・論文執筆要項の大幅な見直し、ウェブ掲載についての検討などについて慎重かつ厳正に協議いたしました。特に、公正かつ適切な査読プロセスを構築するためにも、査読システムの明確化・ルール化、査読プロセス全体の透明化・手続きの厳密化、査読評価方法の確立、評価システムのルール化、チェックリストあるいは査読結果報告のフォーマットの改善、各種規程の大幅な改正、情報共有化のための仕組みについて審議・検討を行っています。

3)2009年2月に2008年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催し、上記の各種規程の改正作業を進めていくことになります。

4)2008年9月末締め切りの投稿論文は14本でした。投稿論文の増加は学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するためにも、現在、編集委員会ではメーリングリスト等を通じて協議・検討を行っています。

(編集担当理事:天田城介)

Ⅴ. 関東地区定例研究会

2008年度第3回の定例研究会は、3月23日(月)18:00～20:30に、東京大学医学系研究科教育研究棟2階の第1セミナー室にて、高山智子氏(国立がんセンター)から、「日本のがん対策の現状と課題――特にがんの情報提供と支援に焦点をあてて」と題して、ご報

告いただく予定である。

日本のがん対策は、諸外国と比べて、とくにがんの情報提供や支援の面では非常に遅れていると言わざるを得ない。海外の状況を紹介しながら、日本がどこをめざすべきなのか、そのためには、がん対策としてどのような基盤整備を進めていく必要があるのかについて概観する。次に、ではめざすべき姿にするために、どのような問題点や課題があり、医療福祉の専門家に限らず、さまざまな分野の専門家や研究者に期待されている研究領域や活動・活躍の場面について紹介したい。

（研究担当理事　、文責：三井さよ）

Ⅵ. 関西地区定例研究会

2008年度第2回目の定例研究会は、2009年3月14日（土）1:30～5:30pmに、キャンパスプラザ京都第2会議室で開催する。発表は、以下のように，立命館大学大学院先端総合学術研究科メンバーによる、難病（ALS，筋ジストロフィー）患者の療養支援に関する研究・調査報告となる予定。司会は黒田浩一郎（龍谷大学）。

(1)発表者名：長谷川唯・堀田義太郎

タイトル：難病患者の地域生活移行支援における諸課題

(2)発表者名：仲口路子

タイトル：難病患者の地域生活支援における諸課題――退院から在宅へ

(3)発表者名：西田美紀

タイトル：難病患者の地域生活支援における心理的援助についての検討

(4)発表者名：伊藤佳世子

タイトル：長期療養患者の自立支援について――筋ジストロフィーの事例から

（研究担当理事　、文責：三井さよ）

Ⅶ. 看護研究部会

1）第4回例会（11月29日　首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス）

第4回例会は、本多康生氏（日本学術振興会特別研究員）から「ハンセン病療養所退所者の現在の生」と題して報告が行われた。

日本のハンセン病療養所を退所した人々への量的調査をもとに、退所者が社会生活においていかなる困難に直面し、現在どのような生活を送っているのかを、家族・地域・医療の3領域に焦点を当て、インクルージョンの位相から考察する報告であった。報告後の議論では、まず、家族・地域におけるインクルージョンと、医療におけるインクルージョンとの

関係性について討議が行われた。次に、質的データを量的分析の中でどのように扱うかが提起された。

最後に、インクルージョン論の理論蓄積における本報告の位置づけが議論された。参加者は少なかったものの、各自の問題関心に基づき、活発な討議が行われた。

2)次回例会

第5回例会は、1月10日に行われました。詳細については次回ニューズレターにおいて報告いたします。なお、第6回例会は、3月14日(土)13:30から開催を予定しています。お問い合わせは、事務局 山崎裕二([redacted]までお願いいたします。

(文責:板橋真木子)

Ⅷ. 編集後記

大学の先生方は、入試シーズンでお忙しいことでしょう。

本ニューズレター74 号は、会員の皆様からのご要望の多い大会プログラム、演題募集記事をメインに編集いたしました。一般演題・ポスターセッションに多くの方の応募を期待しております。また、学会からの自主企画ラウンドテーブル・ディスカッションもご期待ください。

これから一段と寒くなり、インフルエンザも流行しているようです。体調など崩されませんよう、自愛ください。

ニューズレターでは、会員の皆様からのご意見をお待ちしております。どうぞ、奮って投稿してくださいますようお願いいたします。

「会員の声」投稿先:

E-mail:[redacted]

なお紙面の都合により、原稿の採否、若干の修正はお任せいただきますことをご了承ください。

(広報担当理事:河口てる子)

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 75 2009/03/25

日本保健医療社会学会事務局
東京大学大学院医学系研究科
健康社会学教室内
東京都文京区本郷 7-3-1
(編集：河口てる子　発行：溝田友里)

Ⅰ．保健医療社会学研究会・学会 35 周年（学会 20 周年）の 2009 年度を迎えるに当たり

学会長　山崎喜比古（東京大学大学院健康社会学）

来たる 5 月 16 日-17 日(土・日)と熊本大学で開催される日本保健医療社会学会第 35 回大会への参加を呼びかけます。田口宏昭大会長と佐藤哲彦大会事務局長ほか皆様のご尽力で、熊本城開城 400 周年祭が行われる中、**斬新意欲的な企画満載の熊本大会**が準備されています。大会を通じて、会員の皆さんの問題意識が一層深化し研究ネットワークもさらに広がることを期待してやみません。

また、この 3 月、2009 年度以降 2 年間の新理事・監事が決まる予定であり、本号でも**選挙による選出理事と監事の方々が発表されて**います。評議員の選出も進行中です。

私が学会長在任中のこの 4 年間は、会員規模では今日 700 人近くにもなる**学会の今後一層の発展を支える上で必要な体制及び制度、いわばレールの整備・確立**がある程度は図られたものと思っています。この間の皆様のご協力ご支援に心からお礼申し上げます。一方で、国際的観点からの各種活動の見直しと活性化の課題など、やり残した課題も少なくありません。

それを含めて、本学会、研究会・学会 35 周年(学会 20 周年)の 2009 年度は、**新しい学会長ほか役員**のもと、**新たな発展とくに質的向上をめざす年**になり、**熊本大会・総会は**それが高らかに宣言される場になることを確信しております。私を含めて今回退任する理事・評議員も、健康・病気と保健・医療の世界において見識性・総合性・市民性・科学性などをも

った価値ある学問分野としての保健医療社会学と学会のさらなる発展のために、今後とも協力を惜しまない所存です。さしあたって、熊本大会・総会でまた会いましょう。

Ⅱ. 理事・監事選挙結果

選挙管理委員会委員長　中川薫

選挙管理委員会は、2008年度日本保健医療社会学会理事・監事選挙を2009年2月に実施しました。選挙は、2009年2月18日に告示、投票用紙を送付し同月28日締切、3月5日に開票されました。開票会場は、東京大学医学部3号館3階保健社会学図書室で中川薫・関由起子選挙管理委員、および総務担当理事立ち会いのもと開票を行いました。

選挙の結果、有権者数は、485名、有効数80、無効数32でした。無効数が多いのは、「会員所属・住所の記載を求める記述のない」1回目送付の投票用紙を無効とし、2回目送付の投票用紙のみを有効としているためです。

理事選挙結果(敬称略、得票の多い順)

1. 朝倉 隆司　33票
2. 天田 城介　29票
3. 黒田 浩一郎　24票
4. 三井 さよ　22票
5. 木下 康仁　19票
6. 樫田 美雄　15票
7. 星　旦二　12票
8. 蘭　由岐子　11票
8. 小澤 温　11票
8. 中山 和弘　11票

監事選挙結果

1. 米林 喜男　7票
2. 的場 智子　5票
2. 平野 かよ子　5票
2. 三井 さよ　5票

選挙管理委員会は、上記選挙結果を理事会に報告しました。選挙による選出理事数は規約により7名、監事は2名であるため、上位7位までの理事当選者、および上位2位まで

の監事当選者の方に、理事・監事の就任受諾の可否を確認した後、新理事・監事決定となります。就任辞退者が出た場合は、次点者がその任にあたります。

Ⅲ. 第35回日本保健医療社会学会大会のご案内（第4報）

第35回日本保健医療社会学会大会会長　田口　宏昭
（熊本大学大学院社会文化科学研究科）

5月16日(土)、17日(日)の大会開催まで残すところ約2ヶ月と迫ってまいりました。応募していただいた演題は合計39演題です。ご応募ありがとうございました。一般演題、ポスター・セッション、ラウンドテーブル・ディスカッションについて、それぞれ報告を予定されておられる会員の皆様方におかれましては、その準備を着々と進められておられることとお察し申し上げます。遠方からお越しいただくすべての会員におかれましては、列車や航空機のチケット手配、宿の手配はお済でしょうか。今後速やかに部屋割りを行い、その結果は追ってお知らせいたします。

(1) 応募していただいた演題は、以下に部会名とその開催日を記します。プロジェクタ使用の有無変更がありましたら、速やかに大会事務局宛ご連絡ください。

16日(土):リスクと医療事故、看護専門職の現在、セルフヘルプグループと家族、健康をめぐる情報と概念

17日(日):制度と健康観、患者支援—予防と対策、ケアの諸側面—介護と保育

(2) ポスターセッションは「看護・リハ系ポスターセッション」と名づけています。全部で9つの応募がありました。ポスターの貼付は5月16日(土)に行い、5月17日(日)の午前中に聴衆が集合、司会の誘導のもと各ポスター間を移動しながら発表者の説明を聞きます。

◎プログラム

○5月16日(土)

12:00	受付開始
13:00 ～ 15:00	一般演題セッション
15:10 ～ 15:30	大会長挨拶
15:45 ～ 18:15	シンポジウム「当事者からみる医療事故と保健医療社会学」
18:30 ～	懇親会

○5月17日(日)

08:30	受付開始
09:00 ～ 11:00	看護・リハ系演題ポスターセッション(特別企画)・一般演題セッション
11:10 ～ 11:55	総会
11:55 ～ 12:00	第3回日本保健医療社会学会奨励賞授賞式
12:00 ～ 12:50	昼休み
13:00 ～ 13:50	教育講演「水俣病における科学と社会」
14:00 ～ 16:00	ラウンドテーブル・ディスカッション

◎ラウンドテーブル・ディスカッション

1. 看護師の国際移動と保健医療社会学の課題(企画:朝倉　隆司)
   登壇者:朝倉京子(東北大学)、平野裕子(九州大学)
2. 健康生成モデルとSOCを考える(シリーズ1)(企画:戸ヶ里　泰典)
   登壇者:中山　和弘(聖路加看護大学)、河合　薫(東京大学大学院)、津野(住川)陽子(三菱総合研究所)
3. 分析と実践とを結ぶ質的研究に向けて―ビデオ・エスノグラフィーによる介護認定過程の研究(企画:北村　隆憲)
   登壇者:北村隆憲(東海大学)、深谷安子(東海大学)、樫田美雄(徳島大学)、岡田光弘(国際基督教大学)、ディスカッサント:井口高志(信州大学)
4. 出産時の「会陰保護」と助産師(企画:藤井　ひろみ、嶋澤　恭子)
   登壇者:蘭由岐子(神戸市看護大学)、山本令子(れいこ助産所)、藤井ひろみ(神戸市看護大学)
5. 保健医療社会学の「通常科学化」に向けて―日本語テキストのあり方,使い方をめぐって(企画:黒田　浩一郎)
   登壇者:山崎喜比古(東京大学)、進藤雄三(大阪市立大学)、中川輝彦(龍谷大学),野口裕二(東京学芸大学)

◎参加費

4月30日(木)までの参加費等の事前申し込みは、「払込取扱票」(手数料はご本人負担)をご利用ください。

大会参加費

一般会員	4月30日までの申込	4,500円
	5月1日以降・当日申込	5,500円
一般非会員		6,500円
学生会員	4月30日までの申込	3,500円
	5月1日以降・当日申込	4,500円

学生非会員　　5,500 円

懇親会費(事前申込・当日申込いずれも)　　一般 4,000 円　学生 2,000 円

大会事務局
〒860-8555 熊本市黒髪 2-40-1
熊本大学文学部 総合人間学科事務室内
第 35 回日本保健医療社会学会大会事務局
Email:[redacted]
FAX:[redacted]
http://soc.let.kumamoto-u.ac.jp/medsoc/index.html

Ⅳ. 理事会報告

≪2008 年度第 5 回理事会≫
2009 年 3 月 8 日(日) 12 時 30 分より 於東京大学
出席者:山崎喜比古(学会長)、天田城介、朝倉隆司、樫田美雄、河口てる子、黒田浩一郎、杉田聡、三井さよ、溝田友里(各理事)、望月美栄子(学会事務局次長)、佐藤哲彦(第 35 回大会事務局、オブザーバーとして参加)

1)第 35 回大会に関して
研究活動担当の樫田理事および第 35 回大会事務局佐藤氏より、大会の準備状況について報告があり、セッションの編成や大会広報などに関して討議を行った(詳細については本ニューズレター第 35 回日本保健医療社会学会大会のご案内に別途記載)。
2)編集委員会活動に関して
編集担当の天田理事および杉田理事より、保健医療社会学会機関誌編集委員会についての報告があり、『保健医療社会学会』編集規程および編集委員会規程施行細則の改訂案について討議を行った(詳細については本ニューズレター編集委員会報告に別途記載)。
3)理事・監事選挙について
総務担当溝田より、理事・監事改選選挙の開票結果について報告があった(詳細については本ニューズレター理事・監事選挙結果に別途記載)。
4)新体制への引き継ぎについて
山崎学会長より、新理事会・新評議会の発足と総会に向けたスケジュールが提案され、新体制への引き継ぎ事項などの検討が行われた。
5)新入会員および退会者の承認

望月事務局次長より、2008年12月12日～2009年3月6日までの入会および退会希望者の報告があり、承認された。

6)次回理事会について:

現理事および新理事による新旧合同理事会は、2009年5月16日(土)9時30分より、熊本大学にて開催することとなった。

(総務担当理事:溝田友里)

V. 編集委員会

1)編集委員会では2009年2月に『保健医療社会学論集』第19巻2号を刊行しています。現在すでに第20巻1号の編集を行なっており、2009年7月の刊行を予定しています。

2)2008年9月末締め切りの投稿論文は14本でした。投稿論文の増加は本学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するために、現在、編集委員会ではメーリングリスト等を通じて積極的に協議・検討を行っています。

3)2009年2月19日に2008年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催いたしました。編集委員会では、再投稿の査読結果を受けての査読判定、『保健医療社会学論集』第20巻1号の企画と構成の検討、編集規程・投稿規程・論文執筆要項の改訂の各案についての検討などについて慎重かつ厳正に協議いたしました。特に、公正かつ適切な査読プロセスを構築するためにも、査読システムの明確化・ルール化、査読プロセス全体の透明化・手続きの厳密化、査読評価方法の確立、評価システムのルール化、チェックリストあるいは査読結果報告のフォーマットの改善、査読評価方法についての共通認識の確立、各種規程の大幅な改正、情報共有化のための仕組みについて審議・検討を行いました。

4)2009年3月8日の理事会において、編集委員会にてこれまで慎重に検討してきた、日本保健医療社会学会、編集委員会規程、日本保健医療社会学会編集委員会規程施行細則、『保健医療社会学論集』編集規程、『保健医療社会学論集』投稿規程、『保健医療社会学論集』論文執筆要項、『保健医療社会学論集』著作権譲渡覚書、著作権譲渡承諾書、投稿受付から掲載までの手順、査読フローチャート、投稿論文チェックシートについて報告し、それらが大筋において承認されました。編集委員会では、上記の各種規程案を更に検討し、精緻化した上で次回大会での総会にてご報告をいたします。

(編集担当理事:天田城介)

Ⅵ. 看護研究部会

(1) 第5回例会(1月10日　首都大学東京・荒川校舎)

第5回例会は、内田伸樹氏(昭和大学保健医療学部看護学科)から「乳房喪失者の語りに見る『乳房喪失』の意味」と題して報告が行われた。

乳房喪失を経験した女性7名からのインタビューをもとに、当事者が「乳房喪失」という出来事にどのような意味を付与するのか分析した。その結果「自己の否定的変化」「身体的苦痛」「挑戦する課題」「新しい属性」「自己を再吟味する転機」という意味が浮かび上がった。これらは線形ではなく、重層的に膨れあがり、対象者は状況によってこれらの複数の意味を使い分けていることが明らかになった。

(2)次回例会

第6回例会は、3月14日(土)13:30に行われました。

お問い合わせは、事務局　山崎裕二([redacted])までお願いいたします。

(文責:板橋真木子)

Ⅶ. 新入会員および退会者の承認 (敬称略)

＜2008年12月12日～2009年3月6日(3月8日理事会)＞

入会

[redacted]

[redacted]　6名

退会

[redacted]　1名

学会事務局からのお願い

連絡先がわからなくなっている会員の方:

[redacted]

上記の方々と連絡をとれる方がいらっしゃいましたら、学会事務局のほうにご連絡いただけますようお伝えください。

(学会事務局次長:望月美栄子)

Ⅷ. 会員の声

第50回日本社会医学会総会(6月27・28日土・日曜、於札幌医科大学)へのお誘い

山崎喜比古(東京大学大学院・健康社会学)

日本公衆衛生学会には乏しかった行政からの独立性を求める人々によって50年前に設立された日本社会医学会も今年50周年を迎えます。労災・職業病・「過労死」・アスベスト、公害・環境問題、薬害など「社会問題としての健康問題」研究では歴史と定評のある学会です。私のほか数人の日本保健医療社会学会会員の方が理事を務めています。今年は、緑が萌える北海道・札幌にて、〈生存権・健康権のルネッサンス〉をメインテーマに開かれます。

初日の27日(土)は13時開会で、50周年記念講演「北海道の保健・医療」、シンポ「食の安全と健康」、一般演題、自由集会、懇親会が企画され、二日目28日(日)は、岸玲子北大公衆衛生教授の教育講演「健康と労働・安全」、元旭山動物園園長の特別講演「北海道の自然-森林と動物-」、一般演題、総会があります。

若手研究者への奨励賞の充実、院生の参加費1000円、非会員の発表歓迎にうかがえるように、極めてオープンな学会です。演題申込締切4月24日、抄録送付締切5月22日、詳細はhttp://ergo.itc.nagoya-u.ac.jp/shakai-igakukai/でご確認ください。

Ⅸ. 編集後記

会員の皆様方は、次年度に向けての準備でお忙しいことでしょう。

本ニューズレター75号は、5月の大会で交代する新理事・監事の選挙結果を掲載しております。今期で任期を終わられる山崎会長のごあいさつでは、今期の成果と課題をまとめられました。

熊本の第35回大会からは、演題が確定し、大会準備が進みつつあることが報告されています。たくさんの方が参加されることを期待しております。

広報担当の河口も交代し、次号からは新しい理事が担当することになります。2年の間、ニューズレターの記事をお読みいただき、また原稿をお寄せいただき、本当にありがとうございました。理事が代わっても、ニューズレターは会員の皆様からのご意見をお待ちしております。どうぞ、奮って投稿してくださいますようお願いいたします。

「会員の声」投稿先:

E-mail:[redacted]

なお紙面の都合により、原稿の採否、若干の修正はお任せいただきますことをご了承ください。

(広報担当理事:河口てる子)

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 77　2009/11/2

発行：日本保健医療社会学会
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1
（編集：吉田澄恵、補佐：宇城令）

I. 第 36 回日本保健医療社会学会大会開催のご案内（第３報）

大会長　田中マキ子（山口県立大学大学院）

インフルエンザの猛威はおとろえず、保健・医療の在り方が問われる社会状況が続いております。会員のみなさま、お元気でお過ごしでしょうか。

第 36 回学会の大会テーマは「保健医療をめぐるリスクとストレス」とさせていただき、シンポジウムや教育講演の準備を進めております。医師・看護師等、医療に関するマンパワーの偏在と不足の課題等から外国人労働者の受け入れに関する内容を取り上げていきたいと考えます。日本で看護師資格を取得するため頑張っている２名のインドネシア看護師のビビッドな意見も聞かれることと思います。

詳細は、暫時、大会ホームページに掲載しております。演題等の締め切り、宿泊案内、交通手段等ご参考ください。宿泊につきましては、各人でお手配くださいますようご案内いたします。きつねが見つけた温泉がありますので、お好みのお宿をご予約下さい。飛行機でご来山されます場合、「乗合タクシー：空港エクスプレス」が、リーズナブルかつ大変便利ですのでお勧めします。ホームページよりアクセスできますので、各人でご予約くださいませ。新幹線の場合は、駅と本学へのアクセス利便性を考慮し、大会期間中、貸し切りバスの運行を検討しております。詳細が決まりしだい、ホームページにアップしていきます。

会員のみなさまに、できるだけご不便をおかけしないよう準備を整え、活発なディスカッションの場としていただけるよう努めて参りたいと思います。是非、以下に示します大会ホームページを参考にしていただき、山口へお越し下さいませ。

第 36 回日本保健医療社会学会大会　http://36jhms.sub.jp/
期　日：2010/5/15（土）～16（日）　**会　場：山口県立大学**
テーマ　保健医療をめぐるリスクとストレス
一般演題・ポスター報告申し込み：2009/12/25～2010/2/19
ラウンドテーブルディスカッション：2009/12/20 まで

II. 第36回大会ラウンドテーブルディスカッション（RTD）企画募集

2010年度大会における「自主企画ラウンドテーブルディスカッション」を公募いたします。最低でも3つのセッションを同時並行とし、個々のセッション人数を少なくし、ラウンドテーブル本来の持ち味を出したいと考えています。とくに要望する企画内容はありませんが、世界社会学会（International Sociological Association：ISA）ヨーテボリ大会（2010）および横浜大会（2014）をにらんだ国際的な企画や、大会テーマに関連した企画等は人気がでるのではないでしょうか。発表時間の割り振り等は企画者の方に自由にして頂けます。話題提供者の確定は、応募時点ではなく、抄録集用原稿作成時までで結構です。RTDの特徴を踏まえた創意ある応募を歓迎いたします。

≪応募要領≫

1) 企画者および話題提供者：
   企画者（兼司会者）1名と話題提供者2～4名でひとつのセッションとする。企画者は現に本学会会員とし、話題提供者は大会当日に会員であることを要する。
2) テーマ：本学会で議論するにふさわしいテーマであること。
   企画の趣旨を200字程度にまとめる。
3) 応募締切り：　2009年12月20日（日）
4) 採否の決定：　研究活動委員会で採否を決定する。（年内にお返事します）
5) 下記7項目を箇条書きにし、かつ、件名を「RTD応募_企画者名」とした電子メールをご送信ください。3日以内に着信確認かない場合、お問い合わせ下さい。
   ①RTD（副題可）
   ②企画者名（所属名）
   ③連絡先（電子メール、住所・郵便番号、電話）
   ④企画内容の概要（200字程度）、
   ⑤話題提供者名（所属名付）
   ※複数名の場合は全員。未定者がいる場合、未定者n名と記載。
   ⑥使用希望機材（液晶プロジェクター、OHP、スピーカー等、具体的に）
   ※機材の希望に応じることが困難な場合、早めに連絡します。
   ⑦申込日
6) 申込・問い合わせ先：樫田美雄[redacted]

（研究活動担当理事：樫田美雄）

III. 第3回学会奨励賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞の2008年度受賞者は、選考委員会による審査の結果下記のように決定し、今年度第35回日本保健医療社会学会大会総会において授賞式が行われ、賞状と副賞が贈られました。

受賞者：川北稔（愛知教育大学教育実践総合センター）

受賞作：原著「水俣病補償制度への申請と『病いの体験』—関西訴訟判決後の申請行動の背景」（『保健医療社会学論集』第19巻1号、pp. 26-37、2008年）

受賞理由：調査対象者という点で、水俣および水俣病を病む人びとという難しい対象に果敢にアプローチしており、研究課題の点で、「病体験」という質的調査由来の概念を用い、それを量的調査によって明らかにしようとし、かつ「病体験」を認定制度の変遷や病のイメージと関連させて捉えようと試みている。調査結果の点で、地域差が明らかになっており、調査設計としても優れている。

2008年度は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（＝第19巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象に選考されました（「若手研究者」とは、著者［共著の場合は筆頭著者と読み替える］の年齢が35歳未満であるもの、または研究歴が10年未満とみなせるものを指します）。選考対象論文は、8本（原著4本、研究ノート4本）でした。

2009年度は、『保健医療社会学論集』第20巻1号・2号に掲載された、若手研究者による論文が選考対象となります。若手会員各位におかれましては、日頃の研究の成果を論文にまとめて投稿されるよう期待します。

（2008年度学会奨励賞選考委員会）

IV. 理事会報告

≪2009年度第3回理事会≫

2009年10月12日（月）　17時30分より　於ルノアール池袋パルコ横店会議室

出席者：朝倉隆司、天田城介、蘭由岐子、伊藤美樹子、樫田美雄、黒田浩一郎、三井さよ、山本武志、吉田澄恵、田中マキ子（36回大会長）、村山紀子（学会事務局次長）

1）第36回大会に関して

次期大会長田中マキ子氏（山口県立大学）にお越しいただき、第36回大会のプログラム等、準備状況について検討した。

2）編集委員会の活動に関して

天田理事より、機関誌編集委員会について報告があった（詳細、別記）。

3）奨励賞の選考について

奨励賞の選考に該当する論文の著者および共著者が、選考者またはその近親者である場合、選考者は該当する論文の選考からは外れることを確認した。

4）定例研究会について

三井、樫田、伊藤理事より定例研究会の報告と予定の報告があった（詳細、別記）。

5）部会の研究活動支援について

看護研究部会の部会員以外の参加が認められている研究集会等については、今後はハガキでの周知を行うことを決定した。また、地区定例研究会と部会の日程について、十分な連携を行うことを確認した。

6）渉外国際活動について

黒田理事より、国際交流委員の選出、2014年に東京で開催されるISAにおける当学会の関わりについて報告があり検討した（詳細、別記）。

7）広報活動について

吉田理事よりニューズレター第77号の記事案が提出され、討議した。

8)　学会規約の見直し、内規の作成について

(1)理事再選回数の制限、(2)2期連続選出理事の業務分担のあり方、(3)副会長制度、(4)学会長の選出方法、(5)改選時の業務引継および指名理事の選出方法、名誉会員および評議員の推挙について議論した。

9)　新入会員および退会者の承認：

村山事務局次長より、7月22日から10月6日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。

10)　倫理綱領の作成について

日本社会学会の倫理綱領について、山本理事より資料の提示があった。今後は、朝倉学会長、蘭理事、樫田理事、山本事務局長を中心に検討する。

(総務担当理事　山本武志)

V. 渉外国際担当理事報告

＜渉外関係＞

当学会が加盟している社会学系コンソーシアム（[redacted]）のシンポジウムが下記のように開催されますので、お知らせいたします。

日時：2010年1月23日（土）（予定）

テーマ：日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて

場所：日本学術会議講堂（予定）

パネリストとディスカサント：選考中

＜国際関係＞

前号で「理事会の下に運営委員会を設置して，その委員会を中心に取り組んでいくことが8月2日の理事会で承認された」と報告しましたが，その後，下記の方々に委員をお願いし，10月12日の理事会で承認を得ました。

運営委員：浦野慶子　金子雅彦　平野裕子　藤澤由和　細田満和子　松繁卓哉

(五十音順，敬称略)

なお、10月12日の理事会では、本学会員でかつ日本社会学会の世界社会学会議組織委員会や国際交流委員会の委員を勤めておられる方々にも当委員会の委員をお願いすることに決しましたが、今年は、日本社会学会の会長、理事、諸委員会委員等の改選の年であり、上記2つの委員会の新委員が確定してから，当委員会委員の依頼をする予定です。また、委員個々には、国際交流に関わる活動を始めていますが（例えば金子委員には9月21～23日にインドのジャイプールで開かれたISA・RC15大会に参加の折に、RC15会長のCockerham氏等に当学会のISA日本大会への関わり方について問い合わせてもらいました)、委員会としての取り組みはこれからです。会員各位におかれましては、当委員会へのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(渉外国際担当理事・黒田浩一郎)

VI. 編集委員会報告

1) 編集委員会では2009年10月に『保健医療社会学論集』第20巻1号を刊行しました。第20巻1号は各種規程の改正を踏まえ、全ての規程等を掲載すると同時に、第3回日本保健医療社会学会奨励賞の報告、日本保健医療社会学会規約、過去の学会大会校一覧、既刊各号案内等を掲載し、またこれを機に『論集』のデザインもリニューアルしたため、予定時期より遅くなりましたが、無事に刊行することができました。加えて、第20巻1号では編集委員会で企画した「書評特集——社会と医療をめぐる現実と歴史」を掲載しております。論文寄稿者ならびに投稿者の方々をはじめ、査読者や編集委員、会員の皆さんに多大なるご協力を頂きましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。
2) 現在、次号『論集』第20巻2号の編集作業を開始しています。第20巻2号は、5月16日（土）、17日（日）の二日間にわたって熊本大学にて開催された第35回大会におけるシンポジウムの記録（佐藤哲彦氏、豊田郁子氏、勝村久司氏、加部一彦氏、朝倉隆司氏、石原明子氏）、教育講演の記録（浴野成生氏）を掲載します。したがって、特集、投稿論文、書評等で構成される予定です。2010年1月下旬の刊行を目指して鋭意作業を進めております。
3) 2009年10月17日（土）に2009年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催いたしました。編集委員会では、2009年9月末締切の投稿論文の査読者の決定、再投稿・再々投稿論文の査読判定、『論集』第20巻2号の全体構成と編集委員会企画の確認、『論集』第21巻1号の全体構成と編集委員会企画の確認、各種規程についての確認・チェック、査読ガイドライン（仮称）の作成、編集委員会事務局体制の課題と今後の方向性について、機関レポジトリやウェブ掲載についてのルール化、編集委員会での協議事項や申し合わせ事項の記録化等について審議・検討を行っています。
4) 2009年9月末締め切りの投稿論文は7本でした。また、再投稿・再々投稿の論文の数も増加しています。投稿論文の増加は本学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するために、現在、編集委員会ではメーリングリスト等を通じて積極的に協議・検討を行っています。
5) 2007年9月末締切～2009年3月末締切までに投稿された論文は合計39本でした（2007年9月末10本、2008年3月末10本、2008年9月末14本、2009年3月末5本）。また、再投稿・再々投稿された論文は20本でした。第三査読も含め、約130の査読依頼を行ったことになり、査読者の皆さんにお礼申し上げます。
6) 『論集』に掲載された論文は、第18巻1号6本（2007年7月刊行）、第18巻2号4本（2008年3月刊行）、第19巻1号5本（2008年8月刊行）、第19巻1号4本（2009年2月刊行）であり合計19本でした。第20巻1号は5本です。なお、2007年9月末締切～2009年3月末締切までに投稿された論文39本のうち、掲載された論文は14本でした。掲載率は、今後掲載予定のものも含め、4割弱となっています。

（編集担当理事：天田城介）

VII. 研究活動報告

＜関東地区定例研究会報告＆案内＞

＝報告＝

2009年度第1回の研究会は、9月12日（土）13：30～キャンパスイノベーションセンター田町の多目的室4にて、浮ヶ谷幸代さん（相模女子大学）から「『開かれた専門性』に向けて：北海道浦河町精神保健福祉の取り組みから」と題して報告して頂いた。司会は三井さよ（法政大学）、コメンテーターは鷹田佳典（法政大学）。参加者は22名。北海道浦河町赤十字病院精神病棟の看護実践と、精神保健の多職種連携の取り組みに関するフィールドワークから、ケアのなされる「場」に注目し、その「場」によって生まれる／を生み出すローカルな専門性を汲みとろうとする報告であった。フロアからは多くの質問が出て、専門性や場等の定義に関してや、場を変えたときにどのような実践へと変化するのか、文化という視点がどう生きるのか、等が議論となった。会場の制限時間ぎりぎりまで議論が続く活気ある会となった。

＝案内＝

2009年度第2回関東定例研究会

日時：12月19日（土）13：30～

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス（秋葉原ダイビル12F）

http://www.tmu.ac.jp/assets/files/080701akihabara-open.pdf

テーマ：「sense of coherence と社会研究」

講師：戸ヶ里泰典（山口大学）

ユダヤ系アメリカ人の健康社会学者アントノフスキーによって提唱されたsense of coherence とは簡単にいえば自分自身の生活世界に対する見方・向き合い方の感覚である。sense of coherence はストレスフルな状況への対処能力(capacity to respond to stressful situation)とも呼ばれ、いわば人間の内面にある力であることから、こうしたストレス耐性特性を扱うポジティブ心理学概念の一つに数えられ、近年は心理学、なかでも臨床心理学系の研究者により心理研究の一環で進められることが多い。本報告では、社会階層と健康の関係におけるsense of coherence の役割に関する実証研究結果を中心に、sense of coherence の保健医療社会学的意義について考察したい。

司会：星旦二（首都大学東京）・三井さよ（法政大学）。

問い合せ先：三井さよ（法政大学）[redacted]

（研究活動担当理事：三井さよ）

＜関西地区定例研究会報告＆案内＞

＝報告＝

第203回関西定例研究会（10月3日）を神戸学生青年センターにて開催しました。今回は「倫理的観点から見直す医療と福祉の社会学」と題して、井口高志氏（信州大学医学部保健学科）「研究倫理と向かい合うことから社会学研究を問い直す―認知症ケアに関する調査経験から―」と山中京子氏(大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科)

「個人情報の保護をどのように実現するのか　−HIV 感染者への面接調査経験を踏まえて−」のお二人に登壇いただき、コメンテーターには栗岡幹英氏（奈良女子大学）を迎えました。司会は樫田美雄（徳島大学）。全体討論では、研究者の倫理と手続き・装置としての倫理委員会問題を切り口に、被験者の権利を守るための個人情報の保護と研究としての研究手続きの妥当性・検証可能性の保障との兼ね合いや、被験者の権利を守るという約束とその対象に対する研究者としての批判的な態度との兼ね合い等、調査者と被調査者の関係について意見交換がなされました。また医療系のみならず、社会福祉領域においても学会や研究機関・大学での倫理規定や倫理委員会の設置が進んでいる趨勢について報告され、当学会においてもそうした倫理規定や倫理綱領の必要性や策定を検討する時期ではないかとの議論がなされました（参加者 18 名）。

＝案内＝

第 205 回　関西定例研究会

日時：2010 年 3 月 6 日（土）13:30-17:00

テーマ:「脳と行動　−ニューロサイエンスの倫理から−」

講師:霜田求(大阪大学大学院医学系研究科 医の倫理学教室)

ニューロサイエンス(脳神経科学)の発達によって、人の感情や記憶等の「心」の働きや「行動」(投資判断や買うという経済行動、犯罪行動等)が予測、説明されるようになってきたことを受けて医療倫理学・生命倫理学のお立場から話題提供をして頂きます。

テーマ:「日本の介護者の性差 −東大阪市の介護保険サービス利用者縦断調査の結果から−」

講師:杉浦圭子(大阪大学大学院医学系研究科 総合ヘルスプロモーション科学講座)

居宅介護サービス利用者を対象に東大阪市で 7 年にわたる縦断調査を行った結果の中から特に介護者の経験の性差について報告して頂きます。昨今の介護殺人は加害者のほとんどが男性介護者ですが、ストレスに感じること、ストレス対処法の特徴等、女性中心で捉えられてきた「介護者」と異なるのか議論を深められたらと思います。

司会：伊藤美樹子（大阪大学）

参加費：　無料（会員、非会員とも）

場所：龍谷大学大阪梅田キャンパス　セミナールーム

（ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14 階、大阪駅徒歩 5 分）

問い合せ先：伊藤美樹子（大阪大学）[redacted]

（研究活動担当理事：伊藤美樹子）

＜看護研究部会報告＆案内＞

＝報告＝

9 月 12 日（土）15：00 より首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにおいて、「ケアの担い手を育む現状と取り組み」と題して、辻村真由子氏（千葉大学大学院看護学研究科）「訪問看護師として再就職したい看護職者を支援する学び直しプログラム」、堀米史一氏（上智社会福祉専門学校）「介護福祉士養成の現状と取り組み」清水準一氏（首都大学東京 健康福祉学部）「大学及び大学院における在宅看護教育の現状」から話題を提供していただき RTD を行いました。司会は板橋真木子（立正大学）。

辻村真由子氏より、訪問看護ステーションにおける人材不足、離職、また看護学生の約 8 割が医療機関を希望している現状をうけ、千葉大学が行った学びなおしプログ

ラムの実施状況が説明されました。プログラム終了後訪問看護師として再就職した者がいること、学習課題の内容や期間の延長の必要性等が報告されました。堀米史一氏からは、介護福祉士養成課程における定員割れは全国的な現象であり、介護報酬の改定等福祉・介護人材確保対策、介護福祉士等修学資金制度の導入、介護福祉士の資格取得方法の見直しを踏まえ学生数の確保および教育等について現状と課題が報告されました。清水準一氏は、学部における在宅看護教育は、在宅療養の理解や地域連携の重要性に焦点があり、大学院における在宅 CNS 教育では養成数の限界、また訪問看護師として勤務する際の教育に関わるコストの問題等在宅看護教育の現状と課題とともに、人材確保という量的および療養者の医療行為はだれが担うか等の質的な課題があり政策的なアプローチが不可欠である等が報告されました。介護を受ける当事者の方の意見より、サービスの利用者への影響についても議論することができました。

＝案内＝

次回看護研究部会例会

日時：2009 年 11 月 14 日（土）

場所：首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス

テーマ：「在宅医療の範囲の拡大を支える地域連携の在り方（中間報告）」

発表者：松繁卓哉（国立保健医療科学院）。

問い合せ先：事務局　山崎裕二[redacted]

（文責：板橋真木子）

VIII. 新入会員および退会者の承認　（敬称略）

＜7 月 22 日～10 月 6 日＞

入会(5 名)

[redacted]

退会(1 名)

[redacted]

編集後記

政権交代に象徴される変革期の今、このレターが、会員相互の学際的交流の活性化の一助になればうれしいです。是非、皆様からのご意見・ご投稿をお願いします。原稿の採否、若干の修正は、お任せいただきますことをご了承ください。

投稿先:[redacted]

尚、論集投稿規定、第 36 回大会、各地区例会の案内等、本学会ホームページも、ご利用下さい。http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm

（広報担当理事：吉田澄恵）

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 78　2009/1/18
10

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵、補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．新年のご挨拶

学会長：朝倉　隆司

2010 年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

すでにお気づきでしょうが、昨年発行された保健医療社会学論集第 20 巻第 1 号より、学会誌の色彩を一新しました。長年にわたる緑の「学会カラー」から、思い切った転換をはかりました。これから巻ごとに色が変わっていく予定です。英文投稿の受付に向けた諸規定の整備など、編集委員会では、学会誌のさらなる充実を検討しています。また、渉外・国際担当理事の下に委員会が設置され、イエテボリの国際社会学会への参加促進と 2014 年の日本での大会開催への参画に向け、少しずつではありますが、緒ができつつあります。学会としての倫理綱領の策定に向けた作業なども、遅蒔きながら継続して取り組んでいます。そろそろ学会を印象づけるロゴマークもあるとよいのかな、と考えたりもしています。

さて、今年の年次大会（5 月 15 日、16 日）は、山口県立大学田中マキ子先生を大会長とし、研究活動担当理事がサポートしつつ、着々と進められております。事務局が頑張ってくださっており、大会のホームページも充実しています。たくさんの会員の方がご参加くださるようお願いいたします。ぜひとも中原中也ゆかりの地である湯田温泉とあわせて、学会企画や発表を堪能していただければと願っています。

2009 年の政権交代後、いよいよ保健医療、看護、福祉に関する政策や制度等が変更される年となるのでしょう。それに伴って、国民の健康やウェルビーイング、ヘルスケア等がどのように変わっていくのか。マクロな社会経済変動や新たな社会の動きが及ぼす影響に注意深く目を向けて評価していくことも、本学会の使命ではないでしょうか。このような課題を含めて、会員の皆様の研究活動がいっそう充実することを祈念し、本学会が活発な交流の場となるよう努めて参りたいと思います。

Ⅱ．第36回日本保健医療社会学会大会からのお知らせ（第４報）

メインテーマ「保健医療をめぐるリスクとストレス」

会　期　2010年5月15日（土）～16日（日）

会　場　山口県立大学

大会長　田中マキ子（山口県立大学教授）

○大会プログラムをお知らせします。

大会１日目　5月15日（土）

時　間	開催内容
9:30-11:30	理　事　会
11:30-12:30	評　議　員　会
12:00-	受　付
13:00-15:00	一般口演①
15:10-15:55	大会長講演
16:00-18:30	シンポジウム 外国人労働者の参入をめぐる介護・看護マンパワーの不足と偏在 －インドネシア人看護師らの現状と抱える問題－
19:15-21:00	大会懇親会　　場所：湯田温泉街（バスで移動）

大会２日目　5月16日（日）

時間	開催内容	
8:30-	受　付	
9:00-11:00	一般口演②	ポスターセッション
11:10-11:55	総　会	
11:55-12:00	第４回日本保健医療社会学会奨励賞授賞式	
13:00-14:00	教育講演 人口変動新潮流と介護・看護職の国際移動 小川　全夫（山口県立大学大学院健康福祉学研究科教授）	
14:10-16:30	ラウンドテーブル・ディスカッション	

○演題募集を開始しました。　　**演題申し込み・抄録締切：2月19日（金）**

１．発表者の資格

発表者（共同演者を含む）は本学会員に限ります.

単年度会員もありますのでご利用下さい.

２．発表内容の要件　　発表内容は未発表ものに限ります.

３．発表形式（どちらかお選び下さい）

＜一般口演＞発表時間　20分（発表12分、質疑応答8分）

＜ポスター＞　発表3分（発表後フロアとの質疑応答1分）

4．演題申込・事前抄録送付について

1) 演題申込・事前抄録は、原則として、下記の「事前抄録・記載要領」に基づいて抄録を提出し、同時に、発表形式をお知らせください。

「事前抄録記載要領」と、「演題申込・抄録フォーム」(MS-Word　2003 形式)を本大会ホームページ（以下、大会 HP）に掲載していますので、是非ご利用ください。

2) 事前抄録内容の不備、不適正があった場合は、大会準備委員会の判定により修正を依頼する場合もありますのでご了承ください。

3) 必要事項を入力の上、E-mail 又は郵便にて送付してください。 なお、ファイル名は「発表者名.doc（例：山口花子.doc)」としてください。

4) 送付先：できるだけ、E-mail でお願いします。

＜E-mail の場合＞ [redacted]

抄録を添付の上、メール本文にて発表形式の希望をお知らせください。

＜郵送の場合＞

締切り期日までに下記にお送りください。なお、事前抄録内容を CD-R にコピーし、必ず同封してください。

送付先：〒753-8502　山口県山口市桜畠 3－2－1
山口県立大学看護栄養学部
第 36 回日本保健医療社会学会大会事務局
後藤　みゆき　宛

事前抄録・記載要領

■Microsoft Word2003 ファイルを標準としますので下記を参照の上、入力ください。

(1) 用紙のサイズ：B5 サイズとし、余白を上下 25mm、左右 22mm とする。

(2) 表題：

[1] 表題の文字の大きさは、1 行または 2 行にわたっても 12 ポイントとする。

[2] 表題の書体は、日本語は MS 明朝体（全角)、英語は Times New Roman（半角）のボルド体(太字)を使用し、サイズは 12 ポイントとする。

[3] 表題において副題を用いる場合は、必ず 2 行目へ改行し文字の大きさを 11 ポイントのボルド体(太字)を使用する。

[4] 表題には、基本的に略号は用いない。

[5] 配置は中央揃えとする.

(3) 演者、共同演者、所属機関：

[1] 演者、共同演者とも文字の大きさは、11 ポイントとする。

[2] 演者、共同演者の後ろ（　）に所属機関を記入、文字は 10 ポイントとする。

[3] 演者、共同演者の所属機関が異なる場合は、名前の右肩上に数字で記入する.
例）山口花子[1]、湯田太郎[2]（山口公園大学[1]、瑠璃大学[2])

[4] 配置は右揃えとする。

(4) 本文：

[1] 本文は、10 ポイントとする。

[2] 書体には日本語は MS 明朝体（全角)、英語は Times New Roman（半角)を

使用し、句読点はピリオド［.］（全角）とコンマ［,］（全角）を用いる.

［3］文字数は1300字程度（MS明朝体）とする。

［4］**【目的】、【方法】、【結果】、【考察および結論】**に沿って原則記載し、目的、方法などの表題はゴシック体とする。

［5］参考文献は掲載しないこと。

(5) 保存ファイル名は「発表者.doc（例：山口花子.doc)」とする。

5．演題受領および採否の通知

1) 演題の受領については、E-mail又は郵便にて受付を通知します。

2) 演題ならびに抄録については大会プログラム委員会において検討し、修正すべき箇所の指摘を随時 E-mail 又は郵便で通知しますので、再提出の必要が生じた場合には、速やかな対応をお願いします。

3) 演題の採択については、E-mail又は郵便で通知します。

4) 上記内容に変更が生じた場合は、大会ホームページ上でご案内します。
定期的にホームページの更新内容をご確認ください。

6．発表形式・発表日程の通知

E-mail又は郵便にて発表日程を通知いたします。

7．発表にあたっての注意事項

＜一般口演＞

■ 発表時間　20分（発表12分、質疑応答8分）

■ 口頭の他（席上、資料配布可能）、Microsoft PowerPoint（2007形式まで可能）を使用した発表も可能です。

■ パソコン（PC）発表での注意点

・PCによる発表は、単写とします.（スライドは使用できません）

・発表に使用するPCパソコンは、演者自身で操作してください（できるだけPCを持参してください.)。

・万一トラブルがあった場合に備えて、バックアップデータをUSBメモリかCD-Rに保存してご持参ください（MO／FDは不可).

・グラフや動画等データをリンクさせている場合は必ず元データも保存してください。

■ 資料配布の場合：50部ご準備ください。

＜ポスター＞

■ 発表時間　3分（発表後フロアとの質疑応答）

■ ポスター作成の注意点

・サイズは、幅90cm、高さ160cm

・演題・氏名（発表者の名前の前には○をつける。）

・24ポイント以上.

○大会参加申し込みを開始しました。　<u>事前申し込み締切　4月26日（月）</u>

1．参加費

一般会員　当日参加　5500円（事前申し込み5000円）

非会員　当日参加　6500円（事前申し込み6000円）

学生会員　　当日参加　4500円（事前申し込み4000円）
学生非会員　当日参加　5500円（事前申し込み5000円）

2．事前申し込み振り込み先

※同封の振り込み用紙にて振り込みください。
（事前申し込みは500円割引です。お早めに振り込み下さい。

ゆうちょ銀行振替口座
口座番号：01360－3－53338
口座名称：第36回日本保健医療社会学会学術大会

他行等からの受取口座として利用される場合は、下記をご指定下さい。
店番：139　　預金種目：当座口　　座番号：0053338

○学会事務局・学会ホームページ・問い合わせ先

〒753-8502　山口県山口市桜畠3－2－1
第36回日本保健医療社会学会大会事務局
山口県立大学看護栄養学部　事務局長　後藤みゆき
TEL：[redacted]　FAX：[redacted]
E-mail：[redacted]

＊募集要項等は大会HPに掲載しておりますので、ご覧下さい。
第36回日本保健医療社会学会大会HP　http://36jhms.sub.jp/

Ⅲ．理事会報告

≪2009年度第4回理事会≫
2009年12月20日（日）　12時00分より　於　学術総合センター
出席者：朝倉隆司、天田城介、蘭由岐子、伊藤美樹子、樫田美雄、黒田浩一郎、
山本武志、村山紀子（学会事務局次長）

1）定例研究会について
12月開催の定例研究会の報告と今後の予定について報告がなされた（詳細、別記）。

2）第36回大会に関して
発表に関わる要項、大会ホームページでの公開事項、今後の大会への引き継ぎ事項等について審議した。

3）第37回大会に関して
朝倉学会長より大阪大学での開催について提案がなされ、承認された。

4）編集委員会の活動に関して
天田理事より、機関誌編集委員会について報告があった（詳細、別記）。

5）論集掲載論文のオンライン配信について
オンライン配信のサイト、時期、対象論文、著者への承諾の手順について検討した。

6）倫理綱領について
倫理綱領の枠組みについて検討し、次年度の総会で提案できるように準備することで合意した。

7）渉外国際活動について
社会学系コンソーシアムにおける活動、国際交流委員の任命、ISAにおける当学会

の活動等について報告があり検討した。

8) 広報活動について

ニューズレター第78号の記事案および発行元の記載について討議した。

9) 新入会員および退会者の承認：

村山事務局次長より、10月7日から12月15日までの入会および退会希望者の報告があり、いずれも承認された。

(総務担当理事：山本武志)

Ⅳ. 編集委員会報告

1) 編集委員会では2010年1月下旬に『保健医療社会学論集』第20巻2号を刊行する予定です。現在はすでに次々号第21巻1号の編集作業の準備を開始しています。第20巻2号は、特集として、2009年5月16日（土）、17日（日）に熊本大学で開催された第35回大会でのシンポジウム「当事者からみる医療事故と保健医療社会学」の記録（佐藤哲彦氏、豊田郁子氏、勝村久司氏、加部一彦氏、朝倉隆司氏、石原明子氏）と教育講演「水俣病における科学と社会」の記録（浴野成生氏）を掲載します。

2) 2009年10月17日（土）に2009年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催いたしました。編集委員会では、2009年9月末締切の投稿論文の査読者の決定、 再投稿・再々投稿論文の査読判定、『論集』第20巻2号の全体構成と編集委員会企画の確認、『論集』第21巻1号の全体構成と編集委員会企画の確認、各種規程についての確認・チェック、査読ガイドライン（仮称）の作成、編集委員会事務局体制の課題と今後の方向性について、機関レポジトリやウェブ掲載についてのルール化、編集委員会での協議事項や申し合わせ事項の記録化などについて審議・検討を行っています。

3) 2009年9月末締め切りの投稿論文は7本でした。また、再投稿・再々投稿の論文の数も増加しています。投稿論文の増加は本学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するために、現在、編集委員会ではメーリングリスト等を通じて積極的に協議・検討を行っています。

4) 編集規程・投稿規程・論文執筆要項等が改訂されています。論文投稿の際には最新号の『論集』に掲載されている各種規程を必ず熟読し、それらを遵守してご投稿ください。

(編集担当理事：天田城介)

Ⅴ. 研究活動報告

第36回大会のラウンドテーブル・ディスカッションに関して、企画を公募していたところ、12月20日の締め切り日までに、6件の申し込みがあった。担当理事で内容を確認し、すべての企画案を承認・採用することとなった。今後、1月中旬までに「企画名・企画者名」を確定してもらって、それを「大会ポスター」に掲載する。また、一般口演やポスター発表と同じ締め切り（2月19日）で、抄録集用の原稿を出してもらう予定になっている。 (研究活動担当理事：樫田美雄)

＜関東定例研究会＞

＝報告＝

第204回関東定例研究会は、12月19日（土）13：30～首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室Cにて、戸ヶ里泰典氏（山口大学）から、「Sense of Coherenceと社会研究」と題してご報告いただいた。SOC論の背景となっている健康生成論から解きほぐし、特にSOC形成・規定要因に関する仮説や実証研究について詳しくご紹介いただいた。

フロアとの間では、SOC概念が支援論にとってもつ意義や潜在的可能性、ポジティブ心理学との関連、SOC形成・規定要因に関するとらえ方など、さまざまな論点について活発な議論がなされた。参加者は21名。　（研究活動担当理事：三井さよ）

＝案内＝

3月27日（土）午後　場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス（予定）

○「介護施設内の高齢者虐待防止にむけ第三者機関活用に関する研究
－国保連合会「苦情処理業務」の取組から－」

首都大学東京・博士課程　松岡　智恵子氏

趣旨:わが国では、介護施設内の虐待防止を主眼とした調査研究はきわめて少なく、第三者機関を活用した高齢者虐待防止の実践研究は、現在のところ実施されていない。本研究では、介護施設内の高齢者虐待をいかに防止していくかを探ることを目とし、施設内虐待の現状把握、背景要因の明確化、虐待潜在化理由の解明と共に、介護施設内の虐待防止にむけた課題解決プログラムを提案することを研究目的とした。研究結果として、介護施設内虐待の潜在化理由と、顕在化させる要因を明確にした。また、第三者機関による「新しい課題解決プログラム」を開発して実践し、虐待顕在化の有効性を明らかにした。このことにより、介護施設内の虐待防止にむけ、本システムを第三者機関が活用することにより、虐待予防への有効な手段となり得る可能性が示唆された。

司会：星　旦二、三井さよ　　参加費：無料

問い合わせ：星旦二 [redacted]）　（研究活動担当理事：星旦二）

＜関西定例研究会＞

＝案内＝

第205回 関西定例研究会

3月6日（土）13:30-17:00　場所：龍谷大学大阪梅田キャンパスセミナールーム
（ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階、大阪駅徒歩5分）

○「脳と行動　－ニューロサイエンスの倫理から－」

講師：霜田求氏（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理学教室）

ニューロサイエンス（脳神経科学）の発達によって、感情や記憶などの「心」の働きや「行動」（投資判断や買うという経済行動など）が予測、説明されるようになってきました。これについて話題提供をしていただきます。

○「日本の介護者の性差 －東大阪市の介護保険サービス利用者縦断調査の結果から－」

講師：杉浦圭子氏（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）

居宅介護サービス利用者を対象に東大阪市で縦断調査を行った結果の中から特に介護者の経験の性差についてご報告いただきます。
参加費：無料（会員、非会員とも）
問い合わせ：伊藤美樹子　（[redacted]

（研究活動担当理事：伊藤美樹子）

＜看護研究部会＞

＝報告＝

11月例会（11月14日（土）首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス）では松繁卓哉氏（国立保健医療科学院）より「在宅医療の範囲の拡大を支える地域連携の在り方（中間報告）」と題してご報告いただいた。

「在宅で医療・介護の包括的ケアが提供されるための多職種連携の在り方」「脱施設化・在宅化が患者・家族の生活へもたらす影響」の2点について検討することを目的として行われた、国内外の在宅医療の先進事例数件における専門職・利用者を対象とした面接調査・質問紙調査・非参与観察の中から、中間報告として日本において地域医療連携によって在宅医療の先駆的取り組みを推進してきたA県B市の実地調査から得られた知見が報告された。

＝案内＝

次回の例会は、1月9日（土）首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパスにおいて、海老田大五朗氏（東京医学柔整専門学校／東京福祉大学）より「患者の身体に触るときのコミュニケーション」、清水準一氏（首都大学東京）より「看護学生のSense of Coherence と家族関係、介護イメージとの関連」と題してご報告いただく予定です。3月の例会は3月13日（土）を予定しています。
問い合わせ：事務局　山崎裕二（[redacted]）　（文責：板橋真木子）

Ⅵ. 新入会員および退会者の承認　＜10月7日～12月15日＞(敬称略)

・　入会(5名)

[redacted]

・　退会(1名)

[redacted]

（総務担当理事：山本武志）

編集後記

今号は、第36回大会エントリーに関するお知らせを掲載し、ニューズレターの一番重要な機能かと、ちょっぴり緊張しています。レターには、会員の皆様の声も募集しています。

投稿先：[redacted]

（広報担当理事：吉田澄恵）

入会希望者は、下記にご連絡ください。
必要書類を送付します。（通常会員以外に、単年度会員もあります。）

学会事務委託先　(株)イマイシ
〒121-0816　東京都足立区梅島1-31-15
Tel [redacted](代表)　FAX ([redacted]
Email:　:[redacted]

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

No. 79 2010/4/1

NEWS LETTER

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵、補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．故園田恭一先生への哀悼と第 36 回大会について　　学会長：朝倉隆司

本学会の名誉会員である園田恭一先生が 2010 年 2 月 14 日にご逝去されました。享年 77 歳。

園田先生は当学会の立ち上げに尽力され、学会長を 2 期、大会長を 2 度務められ、本学会の発展に多大なる貢献をされました。理事会では、哀悼の意を表すると同時に、ご功労を讃えて特別追悼シンポジウムを企画いたしました。タイトルを「園田恭一先生の研究の特徴　－保健医療社会学の発展のために－」とし、先生の研究の足跡をたどりながら、私たちに残してくださったもの、先生が十分には果たし得なかったと思われることなどを整理して議論し、先生のご功績を今後の保健医療社会学の発展に生かしたいと考えております。詳しくは、抄録をご覧ください。

ご案内の通り、第 36 回の学会大会（大会長：田中マキ子氏、大会テーマ：保健医療をめぐるリスクとストレス）が山口県立大学において 5 月 15 日、16 日に開催されます。当初予定していた抄録締切り日では、口頭発表、ポスター発表の申し込みを合わせてやっと 10 題程度という危機的な状況でした。そこで理事会では、天田理事のリーダーシップのもとに「若手テーマセッション」を 2 つ企画いたしました。急な依頼にも関わらず、発表を用意してくださった若手登壇者の皆様に、理事会を代表しまして感謝の意を表します。

結果的には、6 部会にわたる 31 の一般口頭発表、17 のポスター発表、2 つの理事会企画「若手テーマセッション」と特別追悼企画のシンポジウム、さらにメインシンポジウム、教育講演、加えて 5 つのラウンドテーブル・ディスカッションと非常に充実したプログラムの大会を提供できることを嬉しく思っています。参加を迷っておられる会員の皆様には、是非参加されるよう自信を持って推奨いたします。

「おいでませ山口へ」

Ⅱ．第36回日本保健医療社会学会大会からのお知らせ（第５報）

大会長：田中マキ子（山口県立大学）

暖かな日が続かない毎日です。会員のみなさま、お元気でご活躍でしょうか。
さて、第 36 回大会開催までに数ヶ月をきる状況になって参りました。本ニューズレターでは、大会プログラムの詳細と、交通の便などをお知らせいたします。

1. 大会プログラム

前回お知らせした内容と若干異なりがでております。演題投稿者には、別途、演題日時をお知らせいたします。ご準備等、どうぞよろしくお願い申し上げます。

メインテーマ「保健医療をめぐるリスクとストレス」
大会１日目：5月 15 日（土）

時　間	開 催 内 容
9:30-11:30	理　事　会
11:30-12:30	評　議　員　会
12:00-	受　　付
13:00-15:00	一般演題①～⑤
15:00-15:10	休　　憩
15:10-15:55	大会長講演 田中マキ子（山口県立大学大学院） 「看護職の Burnout－教育とストレスの関係－」 司会：山崎喜比古（東京大学大学院医学系研究科）
16:00-18:30	シンポジウム 「外国人労働者の参入をめぐる介護・看護マンパワーの不足と偏在－インドネシア人看護師らの現状と抱える問題－」 ＜話題提供者＞ 山口リハビリテーション病院看護部 三輪絹代 島田公子 Naibaho Mery Ida Helena Gammatriatni Yuliansangasti ＜シンポジスト＞ 平野裕子（九州大学大学院医学研究院保健学部門） 川口貞親（産業医科大学産業保健学部） ＜指定討論者＞ 大野　俊（九州大学アジア総合政策センター） 安里和晃（京都大学大学院文学研究科） ＜司会＞朝倉隆司（東京学芸大学）
19:15-21:00	大会懇親会 場所：山口市内湯田温泉（バスで移動）

大会２日目：5月16日（日）

8:30-	受　付
9:00-11:00	特別追悼シンポジウム 「園田恭一先生の研究の特徴－保健医療社会学の発展のために－」 司　会：川田智恵子（目白大学）、姉崎正平（近畿医療福祉大学） 発言者：米林喜男（新潟福祉大学） 片平洌彦（東洋大学） 小澤　温（東洋大学） 林　千冬（神戸市看護大学） 一般演題⑥ ポスター演題 理事会企画・若手テーマセッション ① 医療社会学における基本的問い 司会：天田城介（立命館大学） ② ケアの最前線－アポリアとコンフリクトの諸相－ 司会：安部　彰（総合地球環境学研究所）
11:00-11:10	休　憩
11:10-11:55	総　会
11:55-12:00	第４回日本保健医療社会学会奨励賞授賞式
12:00-13:00	昼 休 憩
13:00-14:00	教育講演 小川全夫（九州大学名誉教授） 「人口変動新潮流と介護・看護職の国際移動」 司会：田中マキ子（山口県立大学大学院）
14:00-14:10	休　憩
14:10-16:30	ラウンドテーブル・ディスカッション ① 制度外のデイホスピス－残された時間の過ごし方－ 企画：岩崎瑞枝（科学技術振興機構） ② 変化する「専門性」－資格の意義／意味を問い直す 企画：宇城令（自治医科大学・看護研究部会） ③ ビデオエスノグラフィーの可能性－ビデオを用いたコミュニケーション分析の有効性を探る－ 企画：樫田美雄（徳島大学）・北村隆憲（東海大学） ④ 健康と病いの語り－ディペックス・ジャパンの語りの研究と課題 企画：朝倉隆司（東京学芸大学） ⑤ 役割を再生産し続ける看護職とその言説 企画：鈴木和代（京都大学）

2.　交通の便について

本学は、新幹線、空港等、主要交通拠点が少々離れております。そのため、なるべくご不便をおかけしないよう、工夫をしました。

＜空の便の場合＞

山口宇部空港が近い空港になります。

山口宇部空港から山口市内まで、民間タクシー会社が「乗り合いタクシー」を出しております。

各自で事前予約していただく必要がありますが、空港から目的地（山口市内ホテルないしは大学）まで届けてくれるシステムで、片道、2300円です。ご自身でタクシーをご利用される場合は、7000円程度かかります。乗り合いと表記されていますが、お一人でも大丈夫ですし、乗り合うメンバーを探す必要はありません。タクシー会社の方で行います。予約が一人でも運行しておりますので、大丈夫です。

電話ないしはネットからご予約ください。必ず予約が必要です（予約先：大隅タクシー0120-31-0960、大会ホームページからも連絡先にリンクがあります）。お戻り分も予約して下さい。

＜新幹線等の場合＞

新山口の新幹線口から会場（山口県立大学）まで、借り上げバスをご利用ください。

運行予定は下記です。

＊初日は、新山口駅新幹線口に案内係（位置は4月以降ＨＰに図示）がおります。

バス運行予定

初日

①新山口から会場（片道200円30分程度）

10:30、11:00、11:30、12:00、12:30

②会場～市内ホテル：ニュータナカ（片道100円）

17:00～　20分間隔で運行

２日目

①市内ホテル：ニュータナカから会場の循環（片道100円）

8:00～20分間隔で、11:00まで。

②会場から新山口駅新幹線口（片道200円）

12:00～30分間隔。

3.　食事について

大学近辺には、飲食店はありません。大会初日は、ご自身で昼食をご準備ください。大会２日目は、初日の受付でお弁当券を販売いたします。大会２日目からご参加の場合は、ご自身でご準備ください。

なお、初日終了後に、懇親会を予定しておりますので、多くの方のご参加をお待ちいたします。

4. 大会参加申し込み

＜参加費＞

一般会員　5500 円（事前申し込み 5000 円）
非会員　6500 円（事前申し込み 6000 円）
学生会員　4500 円（事前申し込み 4000 円）
学生非会員　5500 円（事前申し込み 5000 円）

※事前に振込みいただいた場合 500 円の割引があります。
お早めに振り込み下さい。当日参加も可能です。

＜懇親会費＞

懇親会費　一般 5500 円、学生 3500 円（ポスター表記と異なるがこちらが正しい）
※事前申し込みの場合は、通信欄に懇親会費を含むことを明記してください。

＜事前申し込み振り込み先＞

口座番号：０１３６０－３－５３３３８
口座名称：第 36 回日本保健医療社会学会学術大会

他行等からこの郵貯銀行口座を利用される場合は、以下をご指定ください。
店番：１３９　預金種目：当座　口座番号：００５３３３８

5. 大会事務局・大会ホームページ・問い合わせ先

〒753-8502　山口県山口市桜畠 3－2－1
第 36 回日本保健医療社会学会大会事務局
山口県立大学看護栄養学部　事務局長　後藤　みゆき
TEL：[redacted]　FAX：[redacted]
E-mail：[redacted]
大会ホームページ　http://36jhms.sub.jp/

※新しい情報は、大会ホームページ上に随時、掲載していきます。

Ⅲ. 哀悼文　園田恭一先生を悼む

米林喜男（新潟医療福祉大学）

新潟医療福祉大学大学院教授、東京大学名誉教授、前東洋大学教授、前日本保健医療社会学会会長であった園田恭一先生は、2008 年 11 月 4 日にご自宅で脳幹出血のため倒れられ、2010 年 2 月 14 日に 77 歳の生涯を終えられました。お葬式は 2 月 17 日・18 日に、川崎市の春秋苑で臨済宗の教義のもとご家族・ご親族のみの密葬で行われました。

園田恭一先生の略歴を簡単に紹介しておきたいと思います。1962（S37）年、東京大学大学院社会学専攻博士課程を満期退学され、同年、東京大学文学部社会学科の助手に就任、1964（S39）年、お茶の水女子大学専任講師・助教授となられ、1968（S43）年、東京大学医学部保健学科助教授に就任。1983（S58）年、東京大学医学部保健学科教授となられ保健社会学教室を 10 年にわたって主宰されました。1993（H5）年に

は盟友、山手茂先生のお誘いにより、東洋大学社会学部教授に就任。10年後の2003（H15）年には再び山手先生のお誘いで新潟医療福祉大学・大学院教授となられ、現在に至っておられました。この間、日本社会学会、日本保健医療社会学会、日本保健福祉学会、日本地域福祉学会等の理事をつとめられました。なお、日本地域福祉学会は本年の6月に先生の赴任地である新潟で第24回大会が開催されることになっておりますが、先生のお姿を目にすることはできなくなってしまいました。

私と先生との本格的なお付合いが始まりましたのは、1974（S49）年に故那須宗一先生の呼びかけで発足した保健・医療社会学研究会でした。第1回研究会がお茶の水の中央大学会館で開催されたのは同年1月30日で報告者は園田恭一先生でした。その時の報告テーマは「保健・医療社会学の構造」と題するものでした。その後園田先生のライフワークは文字通り日本における保健医療社会学の構築となったのです。なお、保健・医療社会学研究会の発起人は10人でしたが、園田先生が亡くなられたことにより半数の方々が鬼籍に入られたことになります。

その後先生とは、国内外における保健・医療社会学に関する調査研究や国際会議の主催・出席等幾度となくご一緒させていただき大いなるご指導をいただきました。忘れられないエピソードに、インドのニューデリーで開催されたISAの会議に、日本から参加した者のうち園田先生以外は全員がおなかをこわしたのですが、先生は元気で、最近奥様に伺ったのですが、先生はご自分の健康を大いに自慢しておられたとのことでした。その先生もすでに亡く大変寂しいのですが、先生のあの温顔は大いなる癒しの機能を兼ね備えていたと思います。ご戒名は“教学院温徳一道居士”で、先生のお人柄を大変よくあらわしているのではないかと存じます。最後に、ご業績の一端として、私の手元にある御著書を掲げ、先生のご冥福をお祈り致したいと思います。

著書

『地域社会論』	1969年	日本評論社
『現代コミュニティ論』	1978年	東大出版会
『Health and Illness in Changing Japanese Society』	1988年	東大出版会
『保健・医療・福祉と地域社会』	1991年	有信堂
『健康の理論と保健社会学』	1993年	東大出版会
『社会的健康論』－保健と福祉の社会学－	2010年	東信堂

共編著

『生活原論』	1971年	ドメス出版
『最新保健学講座第3巻（保健医療の社会科学）』	1974年	ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
『保健医療の社会学』	1983年	有斐閣
『保健社会学I』『保健社会学II』	1983、1993年	有信堂
『保健・医療・看護調査ハンドブック』	1992年、	東大出版会
『健康観の転換』	1995年	東大出版会
『地域福祉とコミュニティ』	1999年	有信堂
『保健・医療・福祉の研究・教育・実践』	2007年	東信堂
『ソーシャル・インクルージョンの社会福祉』	2008年	ミネルヴァ書房

Ⅳ. 理事会報告

≪2009年度第5回理事会≫
2010年3月5日（日）　10：00～　　於：ルノアール会議室プラザ　八重洲北口
出席者：朝倉隆司、天田城介、伊藤美樹子、樫田美雄、黒田浩一郎、三井さよ、
　　山本武志、吉田澄恵

1)　第36回大会に関して
樫田理事、伊藤理事より演題申し込み状況の報告があり、演題数増加のための方策、大会における理事会企画について討議した。
（詳細は、朝倉会長及び大会記事を参照）

2)　第37回大会に関して
伊藤理事より、第37回大会（2011年）の開催地、開催日程について報告があった。

3)　編集委員会活動に関して
天田理事より、保健医療社会学会機関誌編集委員会について2009年度の活動の総括があり、査読プロセス等の議論を行った。
（詳細は、編集委員会報告に別途記載）

4)　定例研究会に関して
次年度の関西定例研究会の企画について、樫田理事、伊藤理事より報告があり、内容等について議論が行われた。
（詳細は、関西定例研究会の案内に別途記載）

5)　学会奨励賞について
学会奨励賞選考委員長より、本年度の選考について報告があり、理事会で審議がなされた。

6)　国際交流委員会・ISA・社会学系コンソーシアムの活動について
黒田理事より、社会学系コンソーシアム、ISAと当学会の関わりについて報告がなされた。

7)　学会の倫理綱領の制定等について
樫田理事より倫理綱領制定の進捗状況および、所属機関においてハラスメントによる処分を受けた会員の当学会における活動について報告があり、討議した。
（詳細は、当学会における倫理綱領の制定等についての項を参照。）

8)　2009年度の収支報告について
山本理事より本年度の収支（概算）について今年度も引き続き厳しい財政状況であることが報告され、総会で会員と協議するなど来年度以降の対策について討議した。

9)　理事の任期について
理事の任期について山本理事より、一定の制限を設けることについて提案があり議論した。2011年度以降のべ6期（12年間）理事を務めた会員に関しては、6期目の任期が満了した時点で被選挙権を失うことについて同意が得られた。この点

について評議員会に諮り、総会で審議を行うこととした。

10) 新入会員および退会者の承認

山本理事より、2009年12月19日～2010年3月3日までの入会および退会希望者の報告があり、承認された。

（総務担当理事：山本武志）

V．日本保健医療社会学会における倫理綱領の制定等について

日本保健医療社会学会理事会では、会員の自由で公正な研究教育活動を促進する目的で、倫理綱領（案）を策定いたしました。この案に対する会員からのパブリックコメントを得た上で、次回の総会（第36回学会大会時）に諮り、承認されたのち、会員の行動規範としていく予定です。

また、この流れに連動して、所属機関においてハラスメント問題での処分を受けた会員に対し、以下の範囲の活動を辞退していただくよう要請することとしました。

1．「所属機関でハラスメント処分を受けた会員に対する要請」について

日本保健医療社会学会理事会は、所属機関においてハラスメント問題での処分を受けた会員に対し、以下の範囲の活動を辞退していただくよう要請いたします。本措置は、ハラスメント問題では、院生など、若手会員が相手方当事者となることが多いことに鑑み、会員の学会活動の機会が損なわれることのないよう、配慮をするためです。

範囲：会員の学会活動にとくにかかわる委員会委員および学会から依頼する大会関連の役割（以下は例示）

- 理事
- 評議員
- 編集委員会委員および査読者
- 国際交流委員会委員
- 大会でのシンポジウム等の登壇者
- 大会の各部会の座長

期間：所属機関での処分の日より1年間

2．日本保健医療社会学会倫理綱領（案）の策定について

理事会では、以下のように「日本保健医療社会学会倫理綱領（案）」を策定しました。会員の皆さまから広く意見を聴取したいと考えております。ご意見、ご質問等を学会事務局([redacted])までお寄せください。総会での審議等に活用させて頂きます。

『日本保健医療社会学会倫理綱領』（2010年3月5日案）

第1条）会員は、科学者個人と科学者コミュニティが社会から信頼と尊敬を得るために、日本学術会議「科学者の行動規範」を遵守し、科学的知識の質の保障に努めなければならない。

第2条）会員は、調査・研究の実施とその成果の発表（学会誌論文投稿、学術集会発表、講演会等の発表など）を行う場合には、本学会会則、本学会倫理綱領及び論文投稿規程を遵守し、プライバシーへの配慮のもとで行わなければならない。

第3条）会員は、思想信条・性別・性的指向・年齢・国籍・出自・宗教・民族的背景・障害の有無・家族状況などに関して差別的な取り扱いをしてはならない。

第4条）会員は、セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど、ハラスメントにあたる行為をしてはならない。

付則

1．本綱領に関する問い合わせは、日本保健医療社会学会理事会が対応する。
2．本綱領は、■■■■年○月△日より施行する。（2010年度総会予定日）
3．本綱領の変更は、日本保健医療社会学会理事会の議を経ることを要する。

（日本保健医療社会学会理事会）

Ⅵ. 編集委員会報告

1）編集委員会では2010年2月15日に『保健医療社会学論集』第20巻2号を刊行しました。現在は次号第21巻1号の編集作業を開始しています。
2）2009年10月17日（土）に2009年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催しました。次回はメーリングリスト等を活用し、2010年3月末締切の投稿論文の査読者の決定などについて厳正に協議していきます。2010年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会は第36回大会期間中に開催する予定です。
3）『論集』掲載論文の英文要約のネイティブ・チェックを依頼する方向で検討しています。今後は、より積極的にメーリングリストを活用したり、論文投稿者・論文寄稿者・査読者との諸連絡をメール等で行うことによって郵送費などのコストをできるだけ抑え、上記の費用を予算化していきたいと考えています。
4）今後は、論文投稿者・論文寄稿者・査読者との諸連絡などは原則としてメール等の電子媒体を中心に行う予定です。この件は2009年12月20日の理事会にて承認を得ておりますので、2010年3月末締切論文から開始します。これらの電子媒体

の活用等については、今後、編集委員会申し合わせや各種規定などに反映させていく予定です。

5) 独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通システム（J-STAGE）のアーカイブサイトであるJST電子アーカイブ事業にて『論集』掲載論文を公開することについて検討をしています。特に、機関レポジトリやウェブ掲載での課題を含めて総合的に検討しています。これらは、機関レポジトリやウェブ掲載についてのルール化や、その運営方法と各種規定と整合性の観点からの協議を重ねていく必要がありますので、2010年度の編集委員会の議題として慎重に協議していきます。

6) 2009年3月8日に改訂された各種規程をその運用との整合性を踏まえて確認・チェックしています。2009年9月末締切論文の査読依頼の際から送付を開始した査読ガイドラインについても今後更に修正を重ねていきます。

7) 編集規程・投稿規程・論文執筆要項等が改訂されています。論文投稿の際には最新号の『論集』に掲載されている各種規程を必ず熟読し、それらを十分に理解したうえで積極的にご投稿ください。

（編集担当理事：天田城介）

Ⅶ. 研究活動報告

＜関東定例研究会＞

＝報告＝

第206回関東定例研究会（2010年3月27日）を首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催しました。松岡智恵子さん（首都大学東京大学院）から「介護施設内の高齢者虐待防止にむけた第三者機関活用に関する研究――国保連合会「苦情処理業務」の取組から――」と題した報告があり、補足として、八王子市で介護相談員を務める菅原まり子さんからも、虐待防止の取組について紹介がありました。司会は三井さよ（法政大学）。参加者は12名。松岡さんの報告は、高齢者虐待防止の現状を踏まえて、介護施設内での虐待防止に取り組む上で重要な手掛かりの一つとして、国保連の「苦情相談」が虐待相談でもあることに着目したものでした。「苦情相談」が匿名ではなくなるような信頼関係を、苦情処理担当職員が相談者との間に育めるようなプログラムを作り、実際に匿名の訴えを正式な苦情申立につなげていった具体的な取り組みが紹介されました。討論では、虐待の防止が有機的につながることの重要性の提起や虐待防止を考えるなら医療・福祉のより構造的な問題に取り組まなければならないという議論もあり、多様な背景の研究者が集まり、それぞれの立場から高齢者虐待という大きな問題への取り組みをともに考える場となりました。

（研究活動担当理事：三井さよ）

＜関西定例研究会＞

＝報告＝

第205回　関西定例研究会（2010年3月6日）を龍谷大学大阪梅田キャンパスにて開催しました。今回は、霜田求氏（大阪大学）に「脳と行動 －ニューロサイエンスの倫理から－」、杉浦圭子氏（大阪大学）に「日本の介護者の性差 －東大阪市の介護保険サー

ビス利用者縦断調査の結果から－」という演題でお話し頂きました。討論では、霜田氏に対しては「脳科学の主張を疑似問題を前提としたものであると主張するのなら、もはやその非科学性を告発する必要はないのではないか？」という問いや「ロンブローゾの頃の議論に似ているのではないか」という問い等が出されました。杉浦氏には「なぜ東大阪で縦断調査するのか？」「疑似相関を見落としている面はないのか？精神状態にはそもそも男女差があるのではないか」等の問いが出されました。コーヒーブレークも含め、和気藹々とした雰囲気で有意義な意見交換ができました。参加者14名。

＝案内＝

下記の要領で、9月に研究会を行います。今回は若手支援に特化し、論文投稿の実際を解説しながら、投稿から査読を受けて、掲載されるところまでを全面的にフォローします。従来通り、無料としますが、資料配付の都合から事前登録が必要です。第2部の題材論文を申し込み者が事前に読むことができるように、8月末までに掲載ホームページのURLとパスワードを連絡します。

第207回　関西定例研究会　　日時：2010年9月18日（土）13:30-17:30

テーマ:「論文投稿支援のために

－論文審査の実際と査読コメントの読み方:論文投稿から掲載まで－」

＜第1部：論文審査の実際＞

第一講演：論文投稿のすすめ－投稿誌の選定から査読対応まで

樫田美雄氏（徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

第二講演：歴史と体制を理解して書く――社会学の学会研究体制の歴史と現在

天田城介氏（立命館大学・大学院先端総合学術研究科）

＜第2部：査読コメントの読み方実習＞

題材提供者による発題その1（論文＋コメント＋リプライ（案））

題材提供者による発題その2（私の査読雑誌投稿物語＝仮題＝）

司会：伊藤美樹子（大阪大学）

場所：龍谷大学大阪梅田キャンパス　研修室（78人部屋）

（ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階、大阪駅徒歩5分）

問い合せ先：樫田美雄（徳島大学）[redacted]

事前登録：参加申込み専用アドレス（[redacted]）宛に、「氏名・所属・連絡用メールアドレス・会員/非会員の別・投稿経験の有無」を明記して、お申し込み下さい。

（研究活動担当理事：樫田美雄）

＜看護研究部会＞

＝報告＝

● 1月例会（1月9日（土）首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス）

まず海老田大五朗さん（東京医学柔整専門学校／東京福祉大学）より「患者の身体に触るときのコミュニケーション」と題して、柔道整復師と患者のビデオデータを用いた、会話のトピックの変容場面での相互行為分析の考察結果についてご報告いただいた。次に清水準一さん（首都大学東京）より「看護学生の首尾一貫感覚(SOC)と家

族機能、介護イメージとの関連」と題して、首都圏の看護大生への調査より、因子分析の結果、介護に対するイメージは受容的なイメージと負担的なイメージに分けられ、SOC と家族機能は年齢や学年の上昇と共に高くなっており、相互に相関がみられたことなどが報告された。

● 3月例会（3月13日（土）首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス）

吉田澄恵さん（順天堂大学）より、「救急外来において参加観察することの困難性と克服の試み」と題して、救急外来において実施した「観察者としての参加者」として参加に重きをおく研修のための参加観察と、「参加者としての観察者」として観察に重きをおく研究のための参加観察が、必然とされた理由や立ち位置の違いにより看護師でもある研究者にもたらした倫理的葛藤などが報告された。

● 新年度の看護研究部会の活動にいて

4月から役員が交代し、新しい体制で看護研究部会がスタートします。役員は会長の宇城令さん（自治医科大学）、副会長の吉田澄恵さん（東京女子医大病院）、会計担当の三井さよさん（法政大学）、庶務担当の本多康生さん（東京大学大学院）です。今後とも看護研究部会をよろしくお願いいたします。例年通り5月の山口での大会で部会の総会も開催いたしますので、部会員の方は是非ご参加ください。

（文責：板橋真木子）

問い合わせ：事務局　本多康生 [redacted]

Ⅷ. 新入会員および退会者の承認　<2009/12/19～2010/3/3>(敬称略)

入会

[redacted]

10名

退会

[redacted]

13名

物故

[redacted]

編集後記

別れと出会いの春ですね。続けることと始めることを確認しながら、新年度のスタートです。

（広報担当理事：吉田澄恵）

レターへの投稿、倫理綱領（案）へのご意見、入会希望（通常会員の他、単年度会員あり）等は、下記にご連絡ください。

学会事務委託先　(株)イマイシ

〒121-0816　東京都足立区梅島 1-31-15

Tel [redacted] **(代表)　FAX** [redacted]

Email: [redacted]

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. **80** *2010/9/1*

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵、補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．2010 年度の学会の活動等について　　学会長：朝倉隆司

山口県立大学で開催された第 36 回大会は、参加者数が順調に伸び、盛会となりました。大会を引き受けて下さった田中マキ子先生、事務局長の後藤みゆき先生、お手伝いくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。2011 年は大阪大学で池田光穂教授を中心として、企画が進められています。2012 年度の大会開催校である神戸市看護大学と連動して大会が運営できるよう組織づくりされていると聞いております。日本保健医療社会学会のさらなる発展に繋がることを大いに期待しています。

さて、最近、会員名簿に目を通しているのですが、10 年から 15 年以上の長い会員歴の方に、必ずしも大会に参加されていない会員が相当数おられることが気になっております。様々な関与の仕方があり、本学会が必ずしもメインの学会ではない方もおられることは承知していますが、新しい会員にとってのみでなく、古くからの会員にも、引力のある大会や学会運営ができないかと思案しているところです。日本保健医療社会学会が、もうひと伸びするための転換点に来ているような気がしています。

今年度の主な理事会の課題は、学会誌の事務局、学会事務局の効率的で安定的な運営をどうするか、というものです。理事会報告にもありますが、理事会内でワーキンググループを作り、業者委託のあり方を見直す作業を進め、3 月の理事会までに方針を決定すべく動き始めました。会費の値上げとも連動する可能性があることなので、中長期的な視点に立った便益を考慮し、慎重かつ大胆に改革を進めていけるよう気を引き締めています。

7 月にイエテボリで開催された国際社会学会には、本学会会員の中からもかなりの参加がありました。渉外国際担当理事報告にもありますが、研究部会（RC15 他）では 2014 年の横浜に向け、セッションの構成など日本人メンバーに大きな期待が寄せられていると感じました。医療社会学に関連した研究者を約 700 名組織化しているこ

とも、大きなインパクトがあったようです。今後も、国際社会学会においてプレゼンスが高まるような活動を継続していきたいと考えています。

Ⅱ．第37回日本保健医療社会学会大会のご挨拶（第1報）

大会長：　池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）

この度、第37回日本保健医療社会学会では会長の任を仰せつかり、大変光栄に存じます。来るべき2011年大阪大学で2011年5月21日（土）、22日（日）に開催される第37回大会では、「拡張するヘルスコミュニケーション」というメインテーマを掲げました。現在、医療保健看護福祉介護の分野では「コミュニケーション技法」を銘打った書籍が陸続として刊行されています。それらの資格試験においても、接遇に関する実技を重んじるようになってきています。しかし、保健医療社会学の諸分野に精通された方にはすでにご存知のとおり、コミュニケーションは社会・文化・経済・政治的な諸関係の基盤にもとづくものであるかぎり、保健に関わる諸問題の解決にとって万能というわけでなく、むしろ、ディスコミュニケーションという言葉があるように、しばしば問題の発端やより深いレベルでの問題の兆候である可能性を示すものでもあります。こうした状況を鑑み、保健医療社会学の関連諸分野において保健をめぐるコミュニケーション、すなわちヘルスコミュニケーションにおいて、いま具体的にどのような現象がおこっているのか、多様な事象をとりあげ、それらの間にどのような関係があるのかを冷静に分析する必要があると考えたからです。

「予算規模はサステイナブルに、研究発表の内容はゴージャスに！」をスローガンに、会員の皆様と共に大会を盛り上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。

第37回日本保健医療社会学会大会
日時：2011年5月21日（土）～22日（日）
場所：大阪大学・豊中キャンパス・人文総合研究棟
メインテーマ：拡張するヘルスコミュニケーション

Ⅲ．第36回日本保健医療社会学会大会報告

大会長：田中マキ子（山口県立大学大学院健康福祉学研究科）

去る5月15日から16日の間、160名に上る方々のご参加を得て、第36回日本保健医療社会学会大会を無事終えることができ、学会員の皆様に深く感謝申し上げます。山口は、「西の京」といわれる古都でございますが、過疎高齢先進県として、近年では賑わいがなく、湯田温泉街も閑散としております。このような田舎街へ起こしいただくには不便なことも多く、交通の利便性を検討することに頭を悩ませました。巡回バスを走らせることで、不便の解消をと企画しましたが、お役にたったでしょうか。

さて、学会の命は研究報告を通した学会員相互の交流と思い、多くの演題が集まることを希望しましたが、当初なかなか演題は集まらず、ハラハラ・ドキドキの毎日でした。「大会テーマが悪かったのか」、「シンポジウムの内容が職種に特化した課題となりすぎたのか」等々、悩みながら何度となく朝倉会長に「演題が集まりません！」と

泣きのメールを送りました。結果、朝倉会長をはじめ理事の先生方からたくさんのアイデアをいただき、最終的には教育講演、シンポジウム、園田先生追悼セッション、若手テーマセッション、一般演題 31、ポスター演題 16、ラウンドテーブルディスカッション 5 企画と、内容濃い構成となりました。大会長としてすべての内容に参加すべきですが、同時セッションも多く、なかなか思うに任せない状態でした。印象に残った事として、園田先生追悼セッションにおいて、「保健医療社会学としてどのような役割が今後期待されるのか」というような熱い議論があったと思います。私自身の研究活動の有り様と重ねながら、いろいろ考えた一場面でした。

学会運営として幾つか課題を残しながらも、盛り上げてくださった理事の先生方並びに学会員のみなさま、主催運営を支援してくださった多くの方々に改めて深謝しつつ、次期大阪大学へバトンを渡したいと思います。最後に保健医療社会学会の益々の発展を祈念しながら、第 36 回日本保健医療社会学会開催報告とお礼にかえさせていただきます。

Ⅳ. 総会報告　2010 年 5 月 16 日　於　山口県立大学

朝倉隆司会長の挨拶、杉田聡（大分大学）議長選出で開会。

1. 2009 年度（平成 21 年度）事業報告

1) 第 36 回大会（山口県立大学、田中マキ子大会長：2010 年 5 月）開催、第 37 回大会（大阪：2010 年 5 月）、第 38 回大会（神戸：2011 年）の準備。理事の再選制限、会費の改正について評議員会で審議を行った。
2) 定例研究会は関東 3 回、関西 2 回、看護研究部会 6 回開催。第 36 回大会における「特別追悼シンポジウム」、「若手テーマセッション」を企画した。「所属機関でハラスメント処分を受けた会員に対する要請」を定め、学会ホームページおよびニューズレターにて公表した。
3) 保健医療社会学論集、第 20 巻特別号、第 20 巻 1 号、第 20 巻 2 号を刊行。編集委員会体制の整備を行った。
4) ISA、社会学系コンソーシアム、日本学術会議シンポジウム等に参加。
5) 日本保健医療社会学会ニューズレター　4 号分発行。
6) 学会事務局の移転と、事務局業務の大幅な外部委託を実施して 1 年が経過し、現状の課題や問題点が明らかにされた。
7) その他　理事選挙および評議員の選考。

2. 学会倫理綱領の策定

承認された。倫理綱領の内容はニューズレター79 号および学会 HP に掲載。

3. 2009 年度（平成 21 年度）事業報告

適正な処理が行われていることが報告され承認された。(監査:米林喜男、的場智子)。

日本保健医療社会学会2009年度決算書

自2009年4月1日　　至2010年3月31日

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	差異		予算額	決算額	差異
前期繰越金	2,063,455	2,063,455	0	印刷製本費	2,200,000	1,596,426	603,574
会費収入	4,020,000	4,207,000	187,000	郵送費	250,000	488,127	△ 238,127
学会誌刊行物売上	100,000	160,000	60,000	交通費	700,000	747,260	△ 47,260
受取利息	10	724	714	事務局人件費	270,000	298,600	△ 28,600
その他	2,500	5,460	2,960	学会業務委託費	600,000	600,000	0
				学会誌編集費	300,000	300,000	0
				消耗品費	50,000	79,187	△ 29,187
				会議費	127,000	74,520	52,480
				大会・研究会・部会活動補助費	380,000	380,000	0
				社会学系コンソーシアム年会費	20,000	20,000	0
				その他	64,000	12,770	51,230
				予備費	1,224,965	1,839,749	△ 614,784
合計	6,185,965	6,436,639	250,674	合計	6,185,965	6,436,639	△ 250,674

4. 2010年度（平成22年度）事業計画

1) 第37回大会の開催、第39回大会開催校を決定する。学会事務局体制の検討。内規・規約を検討する。理事の改選選挙を行う。
2) 研究活動は、2009年度までと同じ方向での事業の継承・発展をはかる。とくに若手支援を行う。
3) 保健医療社会学論集の第21巻特別号、1号、2号を発行、改定事項の施行と、 編集委員会体制のより一層の強化をはかる。
4) 18th ISA(2014年横浜大会)への関与を深める。アジア諸国の保健医療社会学者等との交流促進。
5) ニューズレターを4回発行する。

5. 2010年度（平成22年度）予算計画

予算書通り承認された。

6. 名誉会員制と規約の改定

規約改定が認められ、承認された。

7. 名誉会員の推挙

原田正純会員について推挙され、承認された。

日本保健医療社会学会2010年度予算書

自20010年4月1日　　至2011年3月31日

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	1,839,749	印刷製本費	1,517,000
会費収入 (6,000円×620人分、新会員7,000円×60人)	4,140,000	郵送費	490,000
学会誌刊行物売上	150,000	交通費	700,000
受取利息	700	事務局人件費	240,000
その他(許諾抄録使用料)	5,000	学会業務委託費	600,000
		学会誌編集費	200,000
		消耗品費	40,000
		会議費	65,000
		大会・研究会・部会活動補助費	380,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		第36回学会大会特別企画事業費	33,000
		その他 (振り込み手数料・学会奨励賞等)	10,700
		予備費	1,839,749
合計	6,135,449	合計	6,135,449

(総務担当理事：山本武志)

V．第4回　日本保健医療社会学会奨励賞

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞の2009年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、報告のとおり、該当者なしと決定しました。

2009年度奨励賞は、この年度に発行された本学会機関紙『保健医療社会学論集』(第20巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考しました。「若手研究者」とは、著者（共著の場合は筆頭著者と読みかえる）の年齢が35歳未満であるか、または研究歴が10年未満とみなせるものを指します。選考対象論文は、4本（原著1本、研究ノート3本）でした。

選考委員会としては、論文の完成度などの掲載が認められる基準と、奨励賞選考の基準とは異なるものであると考えています。論文として完成されていることよりも、将来的な広がりや何らかの突出した長所が十分に示されているかどうかを重視しました。その観点からしたとき、どの論文も、テーマとしては保健医療社会学の発展に寄与するような広がりと深みを持ちうるものでしたが、調査計画および分析においてもう少し、若手研究者としての意欲にあふれた試みや視野の広さ、視点の面白さ、そしてそれに応じた深みや細やかさなどが欲しいところでした。

2010年度は、『保健医療社会学論集』第21巻第1号・第2号に掲載された、若手研究者による論文が選考対象となります。この奨励賞は、若手研究者の方へのエールや、研究のさらなる発展への期待を込めて贈られます。若手会員各位におかれましては、日ごろの研究の成果を投稿されるよう期待します。

(2009年度学会奨励賞選考委員会)

VI. 理事会報告

≪2010年度第1回理事会≫
2010年5月15日（土）於　山口県立大学
出席者：朝倉隆司（学会長）、天田城介、蘭由岐子、伊藤美樹子、樫田美雄、
黒田浩一郎、三井さよ、山本武志、吉田澄恵

1) 朝倉学会長より、第36回大会の運営、総会報告・提案事項について検討され、承認された。
2) 朝倉学会長より、評議員会での検討事項が審議され承認された。
3) 新入会員および退会者の承認：山本総務担当理事より入会(37名)、退会(11名)の報告があり、承認された。

≪2010年度第2回理事会≫
2010年8月7日（土）於　学術総合センター準備室
出席者：朝倉隆司（学会長）、天田城介、蘭由岐子、伊藤美樹子、樫田美雄、
黒田浩一郎、三井さよ、山本武志、吉田澄恵

1) ニューズレター80号の発行について
吉田広報会報担当理事よりニューズレター80 号の内容について提案があり承認された。
2) 学会ホームページの運営状況について
吉田広報会報担当理事より学会ホームページの掲載内容と、現在の更新状況について報告があった。山本事務局長より、更新が滞りがちであったホームページの運営を外部委託することが提案された。(1)委託先は(株)正文社（千葉県千葉市中央区都町 1-10-6）とし、かかる費用は年間 5-10 万円程度である。(2)この費用は学会事務局外部委託先との契約見直しによって捻出する。(3)学会ホームページの運営(更新)は広報会報担当理事が中心となって行う、以上の 3 点が審議され承認された。8月中には従前よりも内容が充実したホームページが公開される予定である。
3) 編集委員会の活動について
天田学会誌編集担当理事より、編集委員会の開催、論集21巻1号および2号の発行、今年度の検討課題について報告があった。
4) 来年度以降の学会事務外部委託について
山本総務担当理事より事務局業務の外部委託の現状と、来年度以降の方針について報告と提案があった。(1)学会誌の編集業務を含めた学会事務局外部委託を検討する、(2)学会運営に支障を来さない範囲の予算とし、(3)学会事務局業務に実績のある組織、の 3 点に該当する事務局委託先を検討するため、ワーキンググループを立ち上げることが決定された。メンバーは山本、吉田、蘭、三井各理事である。
5) 学会規約・内規の整備、学会組織の検討、年会費の設定について
山本総務担当理事より、(1)多選制限など規約の改定について、(2)理事の任期および選出に関する内規について、(3)委員会制の導入と担当理事制の見直しについて、(4)年会費の設定について、(5)会員名簿の整理について、報告があり検討した。

(1)については拙速な判断をせず、議論を踏まえて次年度の検討課題とした。(2)は、今年度末の理事選挙までに整備を行う。(3)については、原案は今年度の理事会が作成し、実行については次期理事会の判断に委ねることとした。(4)は前項の外部委託に関する費用が確定してから樫田理事を中心に検討を行うこととした。(5)は今年度中に会員情報の確認を各会員に行い名簿の整理を行うこととした。

6) 第36回大会の会計報告

田中第 36 回大会会長より提出のあった大会会計報告書類を審査した。収入は1,053,400 円、支出は 1,088,433 円で、35,033 円の赤字であった。赤字分については理事会において学会会計から補填することが承認された。田中大会長から補填された 35,033 円を学会に寄付するとのお申し出を頂き、学会会計に繰り入れた。

7) 第37回大会の準備・進捗状況について

第37回大会の準備・進捗状況について伊藤研究活動担当理事より大会のスケジュール概要と 7 月 31 日に開催されたプロローグ企画の報告があった。

8) 第39回大会について

朝倉学会長より第39回大会の大会長について検討中であることが報告された。

9) 研究活動について

三井研究活動担当理事より関東地区例会、樫田研究活動担当理事より関西地区例会の予定について報告があった。

10) 対外的活動について

黒田渉外国際担当理事より、17th ISA（スウェーデン）におけるビジネスミーティング参加の報告や、社会学系コンソーシアムの活動状況について報告があった。

11) 入退会者の承認

山本事務局長より入会(19 名)、退会(2 名)、資格喪失(14 名)の報告があり、承認された。

（総務担当理事：山本武志）

Ⅶ. 渉外国際担当理事報告

渉外関係では、当学会が加盟している社会学系コンソーシアム（socconsortium@activemail.jp）に、本年 7 月に国際交流委員会が設置されました。これは、ひとつには日本社会学会からのコンソーシアムに対する 2014 年の世界社会学会議横浜大会への協力要請に応えるために設置されたもので、6 名の委員から構成され（当学会派遣の評議員は委員になっていない）、今年の夏から活動開始とのことです。

国際関係につきましては、世界社会学会議（ISA）の大会が，スウェーデンのイエテボリで本年 7 月 11 日～18 日に開催され、私や前号ニューズレターで報告しました（本学会の）国際交流委員会委員のみならず、会長はじめ多くの会員の方々の参加と健康社会学部会（RC15）などでの発表がありました。

大会開催年度は RC15 の理事選挙の年ですが（理事の半数が改選で，会長などの役職者は理事選挙後に理事の互選により改選）、今回から大会終了までに立候補・大会後に電子投票（9 月の予定）という方法になり、立候補者はまだ公表されていませんが、

日本からは現R15会長のW.G.Cockerham氏らの要請で本学会会員の姉崎正平先生が立候補されています。ISA2014横浜大会とくにそのRC15部会に積極的に関わるうえで、本学会とISA・RC15とのリエゾンとして姉崎先生の当選を大いに期待するところですし、Cockerham氏からも大会中に開催されたRC15のBusiness Meetingの席上でその旨の発言がありました。なお、RC15の中間年の大会は，2012年にパリで開催の予定です。

また、これとも大きく関連しますが，事業として掲げている（東）アジアの保健医療社会学研究者との研究等の交流の促進につきましては、上記イエテボリ大会が終わりましたので、国際交流委員会を中心としてこれから具体的な取り組みを始める所存ですので、会員の方々のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

（渉外国際担当理事・黒田浩一郎）

Ⅷ. 編集委員会報告

1) 編集委員会は2010年9月中旬頃に『保健医療社会学論集』第21巻1号を刊行する予定です。現在はすでに次々号第21巻2号の編集作業を開始しています。第21巻1号は「学会・研究動向」の特集「制度・政策の現在において問う（仮題）」を企画しています。第21巻2号は2010年05月15日（土）、16日（日）に山口県立大学で開催された第36回大会での大会長講演・シンポジウム・教育講演等を掲載する予定です。
2) 2010年5月15日（土）に2010年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を山口県立大学にて開催しました。2010年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会は2010年10月20日（水）に立命館大学衣笠キャンパスで開催する予定です。
3) 現在、論文投稿者・論文寄稿者・査読者との諸連絡などは原則としてメール等の電子媒体を中心に行なっています。この件は2009年12月20日の理事会での承認を受け、2010年3月末締切論文から開始しています。これらの電子媒体の活用等については、今後、編集委員会申し合わせや各種規定などに反映させていく予定です。
4) 2010年3月末締め切りの投稿論文は13本でした。また、再投稿・再々投稿の論文の数も増加しています。投稿論文の増加は本学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するために、現在、編集委員会では各種規程ならびに編集委員会申し合わせに従いながら積極的に協議・検討を行っています。
5) 上記の厳正かつ適切な査読プロセスを恒常的に運用していくためにも編集委員会事務局体制の整備・強化が急務の課題になっています。
6) 2009年3月8日に改訂された各種規程をその運用との整合性を踏まえて確認・チェックしています。2009年9月末締切論文の査読依頼の際から送付を開始した査読ガイドラインについても今後更に修正を重ねていきます。

7) 編集規程・投稿規程・論文執筆要項等が改訂されています。論文投稿の際には最新号の『論集』に掲載されている各種規程を必ず熟読し、それらを十分に理解したうえで積極的にご投稿ください。

（編集担当理事：天田城介）

IX. 研究活動報告

＜関東定例研究会＞

＝本年度の方針＝

今年度の関東定例研究会は、2011年度大会テーマの「拡張するヘルスコミュニケーション」に合わせて、まず9月に、猪飼さんから、日本のヘルスコミュニケーションを規定してきた基礎的なシステムが変わりつつある現在、今後どのような社会理論がありうるかについて問題提起をいただきます。その上で、12月に栗盛寿雅子さん（茨城キリスト教大学）から、住民の主体的な発想を重視したエンパワーメントを行うための「自主グループ活動」についてご報告いただきます。また、3月に、川口有美子さん（さくら会）から、ALS患者とのかかわりという観点から、コミュニケーションという観念そのものを押し広げるようなご報告をお願いする予定です。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

＝案内＝

2010年度第1回関東定例研究会は、9月25日（土）13:30～16:30に、首都大学東京秋葉原査定ライトキャンパス会議室Cにて、猪飼周平さん（一橋大学）から、「地域包括ケアシステムの社会理論へ向けて」と題してご報告いただく予定です。コメンテイターは稲葉振一郎さん（明治学院大学）、司会は三井さよ（法政大学）。参加費無料、連絡先は三井さよ（[redacted]）。

猪飼さんからいただいた要旨は次の通りです。

地域包括ケアシステムは、次代のヘルスケアシステムの代名詞となっている。その一方で、なぜ地域包括ケアであるべきなのか、それはどのような特徴を有するシステムなのかといった基礎的な知識の蓄積は進んでいない。本報告では、本年3月に上梓した『病院の世紀の理論』（有斐閣）を土台として、地域包括ケアシステムの社会理論がいかなる内容を有することを求められるのかについて検討・整理してみたい。特に、地域包括ケアシステムが、20世紀福祉国家における生存権保障の範囲を逸脱するケアのあり方を指向しているようにみえる点について、どのように考えるべきか報告者としても悩ましく思っているところでもあるので、参加者の方々と意見交換をさせて頂ければと思う。

（参考文献）猪飼周平「海図なき医療政策の終焉」『現代思想』2010年3月号、「病院の世紀の理論から地域包括ケアの社会理論へ」『書斎の窓』（有斐閣）2010年9月号草稿、『病院の世紀の理論』有斐閣2010年

（研究活動担当理事：三井さよ）

＜関西定例研究会＞

＝本年度の方針＝

平成 22 年度の関西地区定例研究会は、総会で承認された研究活動支援の方針にのっとって、以下の３回の活動をおこないます。すべて無料。奮ってご参加下さい。

第１回（2010 年９月 18 日土曜日午後 at 梅田）

論文投稿支援のために、と銘打って、第１部で論文投稿と審査の実際を踏まえた議論のたたき台的講演２本（樫田および天田氏による）を聞いて頂き、さらに、第２部で、若手研究者の協力を得て、模擬査読と模擬リプライの公開と討論（木下氏）および投稿実践報告（有吉氏）をして頂きます。（詳細後述）

第２回（2011 年３月 19 日土曜日午後 at 梅田）

研究費申請支援のために、と銘打って、９月同様に、第１部で、議論のたたき台的講演を２本して頂きます。演者は、平成 19 年度等において科研費の第１次審査員であったことが公表されている栗岡幹英氏（奈良女子大学）と、現在副田あけみ氏とともに社会学領域の科研システムの運用実務に当たっていらっしゃる油井清光氏（神戸大学・日本学術振興会・学術システム研究センター専門研究員）のお二人です。さらに、第２部で、田島明子氏（吉備国際大学）に民間財団の研究資金への応募と被採択経験について、語ってもらいます。会場は、第１回と同じ、龍谷大学大阪梅田キャンパスです。

第３回（2011 年５月 21 日土曜日午前 at 大阪＝会場未定＝）

キャリアデザインの重要性、と銘打って、年度の活動の総括を行います。結局、よい論文を書くには、研究調査をしっかりしなければなりませんし、研究調査をしっかりやるためには、自らのキャリアデザインをしっかりしなければなりません。当日は、和歌山県立医科大学の本郷正武氏に、氏がどのような構想でみずからの研究計画を設計し、キャリアデザインを立ててきたのか、そして、どのような公募応募戦略をもってポストを獲得したのかを語って頂く予定です。氏のプレゼンを呼び水に、フロアとの活発な討論を総括的にできればうれしく思います。当日は、学会大会の初日午前（大会は午後から始まります）ということで、関西地区以外からも振るってご参加下さい。２時間ほどの議論のあとは、昼食時間になりますので、流れ解散を予定しています。

＝案内＝

2010 年度第１回関西定例研究会は、2010 年９月 18 日（土）13:30-17:30 に、龍谷大学大阪梅田キャンパス　研修室において、下記の内容で開催します。従来通り、無料ですが、資料配付の都合から事前登録が必要です。

テーマ：「論文投稿支援のために

—論文審査の実際と査読コメントの読み方：論文投稿から掲載までー」

＜第１部：論文審査の実際＞

第一講演：論文投稿のすすめ—投稿誌の選定から査読対応まで

樫田美雄氏（徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

第二講演：歴史と体制を理解して書く——社会学の学会研究体制の歴史と現在

天田城介氏（立命館大学・大学院先端総合学術研究科）

＜第２部：査読コメントの読み方実習＞
木下衆氏（京都大学大学院）による発題その１（論文＋コメント＋リプライ）
有吉玲子氏（立命館大学大学院）による発題その２（私の査読雑誌投稿物語）
司会：伊藤美樹子（大阪大学）
問い合せ先：樫田美雄（徳島大学）[redacted]
事前登録：参加申込み専用アドレス（[redacted]）宛に、「氏名・所属・連絡用メールアドレス・会員/非会員の別・投稿経験の有無」を明記して、お申し込み下さい。

（研究活動担当理事：樫田美雄）

＜看護研究部会＞

＝今年度の方針＝

5月に開催された第36回日本保健医療社会学会大会において、看護研究部会の総会と部会企画RTDが行われました。 部会総会では、近年の部会の活動が、「看護」や「看護職」に焦点をあてた研究だけでなく、「ケア」「福祉」「ケア提供者」にも焦点をあてる研究にもひろがっていることから、これに関連する学会内外の参加を広く募ることも含めて、部会の名称変更をしてはどうかという提案がありました。看護研究部会という名称に込められた先達の思いを汲み取りつつ、人をケアすることの意味を臨床から問い直していくという私たちの問題関心に沿った新名称に変更して行く方針で、現在、部会員にメールニュースを通してアイデアを募っています。午後に開催された部会企画RTD「変化する「専門性」—資格の意義／意味を 問い直す」は、フロアからのディスカッションも盛り上がりを見せ、 成功裏に終わりました。来年3月の定例会では、RTDの議論を発展させる形で、専門性を中心としたテーマ設定を行い、福祉関連領域の研究者とも議論が出来るような 公開企画を検討していきたいと考えております。 年間計画は下記の予定です。

5月16日（日）	部会総会・RTD（日本保健医療社会学会大会 2日目）
7月10日（土）	第1回例会 （報告者: 竹内慶至さん）
9月18日（土）	第2回例会 （報告者: 海老田大五朗さん）
11月20日（土）	第3回例会 （報告者未定）
1月8日（土）	第4回例会 （報告者未定）
3月12日（土）	公開企画 （福祉社会学会の研究例会と合同開催を検討）

＝報告＝

7月の例会は、首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパスにおいて、竹内慶至さん（金沢大学）より、「感情労働の計量分析」と題した発表がありました。本報告では、報告者らが2009年に実施した看護職を対象とした感情労働調査（『医療専門職の感情労働をめぐるコンフリクトに関する調査研究』）の概要と目的、同調査で得られたデータをもとに行なった分析結果の一部について報告がなされました。日本では感情労働に関する経験的研究（あるいはデータの蓄積）が少ないこと、感情労働を定量的に把握することに関する独特の困難があることから、同調査の試みた調査設計や、仕事の満足度と感情労働の関連性についての分析結果が報告され、感情労働（「本当の自己

との乖離」）は仕事の満足度を下げる効果もあるが、その一方で満足度を上げる効果をもつ感情労働（「相手に求められた感情労働」）もあることなどが示されました。

＝案内＝

日時：9月18日（土）13:30～16:00
場所：首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス
発表者：海老田大五朗さん（東京医学柔整専門学校・東京福祉大学）
発表テーマ：「医療コミュニケーションのエスノメソドロジー研究について」
問い合わせ：事務局　本多康生 [redacted]

（部会長　宇城　令）

X. 新入会員および退会者の承認　<2009年3月7日～2009年7月20日>

入会

[redacted]

計19名

退会

[redacted]

計2名

資格喪失

[redacted]

計14名

（学会事務局次長：村山紀子）

編集後記

レターの編集を重ねながら、実に多彩で学際的な人々が集まる豊かな魅力ある学会であることを痛感するとともに、それゆえの運営の難しさをかみしめています。今年からは、ホームページの更新のとりまとめも担当します。会員の皆様からの声を是非、お寄せください。

投稿先：[redacted]

（広報会報担当理事　吉田澄恵）

9月中に、本学会ホームページに、『医療社会学論集』投稿規程、執筆要領はじめ、投稿受付から掲載までの手順などの情報がアップされます。また、各種規約や、関東・関西定例研究会案内、各大会案内なども随時掲載しますので、ご活用ください。URLは下記。
http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 81 2010/11/15

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵、補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．いま理事会が力を入れて取り組んでいること　　学会長：朝倉隆司

現在，理事会が力を入れて取り組んでいる課題が３点ほどあります．まず来年の学会に向けてプログラムを詰めています．「拡張するヘルスコミュニケーション」という池田光穂先生らしい蠱惑的なテーマであり，その趣旨は当日お話しいただけると思いますが，これまで過去の保健医療社会学会の大会では取り上げてきたことのないテーマです．教育講演の平田オリザさんの講演も楽しみですし，メインシンポジウムの議論の行方も興味深いところです．一般演題の申し込みを早めにアナウンスさせていただきましたので，ぜひ会員の皆様の研究成果をご発表頂きたいと熱望してやみません．ぜひとも，大阪らしい盛り上がりのある大会を実現したいと考えています．

次いで，ＨＰの充実に向けてリニューアルに取り組んでいます．これは山口大会の時に開催された評議員会で出された要望に応えてのことです．海外の医療社会学者にも本学会の動向を伝えることができるように英語版のウェブページ作成の準備にも取りかかっています．本学会のＨＰを通じて，会員の研究を海外発信できるようにしていきたいものです．

さらに，長期的に安定した学会運営が可能となるように，編集委員会事務局と学会事務局の委託について，具体的に候補を絞りこみ交渉を始めつつあります．業務委託を実現するためにクリアしなければならない課題，当面は財政面ですが，去年，今年の収支をにらみながら，会費の値上げのシミュレーションも行わなければなりません．もし，値上げをするならば，それなりに本学会の会員であることの魅力も増していかねばならないと考えております．理事会も努力しますが，会員の皆様のご理解とご協力もお願いいたします．特に，新入会員の増加にご協力願えれば，大助かりです．業務委託した場合には，編集，総務に関するシステムの変更も生じてくると予想されますので，情報を速やかにお伝えしていきたいと考えています．

Ⅱ．第 37 回日本保健医療社会学会大会のご挨拶（第 2 報）

大会長：　池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）

来るべき2011年大阪大学で2011年5月21日（土）、22日（日）に開催される第37回大会では、「拡張するヘルスコミュニケーション」というメインテーマを掲げています。大会準備については、漸く大会プログラムが固まってきましたところです。できたてほやほやのプログラム概要をお知らせいたします。5月21日（土）は、会長講演「拡張するヘルスコミュニケーションの現場」、教育講演「医療の現場で対話は可能か？」（平田オリザ氏、大阪大学教授）、一般演題セッション、懇親会、5月22日（日）は、シンポジウム、総会、奨励賞授賞式、一般演題セッションとラウンドテーブル・ディスカッションを計画しています。シンポジウムのテーマを「疾患対策をめぐるヘルスコミュニケーション」とし、石川ひろの（東京大学大学院医学系研究科）、大北全俊（大阪大学大学院文学研究科）、高山智子（国立がんセンター）、竹田寛（札幌医科大学）の方々に登壇いただく予定です。大会プログラムならびに一般演題募集要項は、ニューズレター82号ならびに大会ホームページ(http://square.umin.ac.jp/jhms37/)にてお知らせいたします。大会会場の大阪大学豊中キャンパスは伊丹空港からアクセスが便利です。またモノレール万博の太陽の塔や万博公園内にある民族学博物館もご覧頂けます。多くの方においでいただきますようにお願いいたします。

第37回日本保健医療社会学会大会
日時：2011年5月21日（土）～22日（日）
場所：大阪大学・豊中キャンパス・人文総合研究棟
メインテーマ：拡張するヘルスコミュニケーション
大会ホームページ　http://square.umin.ac.jp/jhms37/

<一般演題募集：申し込み期限　2011 年 2 月末>

- 一般演題は口演とポスター発表で募集します。
- 発表者（共同演者を含む）は本学会会員に限ります。単年度会員制度を設けていますので、非会員の方と共同発表をご予定の場合は手続きをお願いします。
- 発表内容は未発表のものに限り、また一般演題の登録は一人につき 1 演題とします。共同演者としての登録はこの限りではありません。
- 一般演題の申し込み締め切りは２月末です。
- Microsoft Word にて抄録を作成し、ファイル名を「発表者氏名.doc」または「発表者氏名.docx」とし、電子メールにて[redacted]宛にお送りください。（郵送受付については後日案内します）
- 抄録の作成要領
  ① A4判横書き、40字×40行、明朝体、余白は上下25mm、左右22mm、
  ② 演題：第一行に中央寄せ（14pt、太字）副題：あれば第２行に中央寄せ（12pt）、氏名（所属）：題から一行あけて右寄せ（10.5pt）連名の場合は発表者に○をつけてください。

③　本文：氏名（所属）から一行あけて始める。図表を使用する場合は、Wordのファイルの他にPDFファイルもご提出ください。

・　電子メールによる抄録提出について

①　件名は「一般演題申し込み」とし、メール本文に以下の内容をご記入ください。
1. 申込者氏名、2. 所属、3. 連絡先（住所、電話、e-mail）、4. 希望発表形式（口演、ポスター発表、どちらでもよい、のどれかを示す）

②　ファイルを添付してください。

Ⅲ. 自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション（RTD）公募について

2011年度の第37回大会における「自主企画ラウンドテーブル・ディスカッション」を公募いたします。最低でも3つのセッションが同時並行するようにして、個々のセッションの人数を少なくし、ラウンドテーブル本来の持ち味を出したいと考えています。通常の部会発表とちがって、発表時間の割り振りなどは企画者の方に自由にして頂けます。話題提供者は、応募時点で全員確定している必要はなく、抄録集用原稿作成時までの確定で結構です(RTD の題名はポスターに載せますので、応募時に確定させておいて下さい)。RTD の特徴を踏まえた創意ある応募を歓迎いたします。電子メールでお申し込み下さい。

≪応募要領≫

大会ホームページの「ラウンドテーブル・ディスカッション公募」へアクセスしていただき、『ラウンドテーブル・ディスカッション企画申込書』をダウンロードの上、公募要領に従って企画申込書を作成してください。

①　企画者および話題提供者：
企画者（兼司会者）1名と話題提供者2〜4名でひとつのセッションとする。企画者は現に本学会会員であること、話題提供者は大会当日に会員であることを要する。

②　テーマ：本学会で議論するにふさわしいテーマであること。

③　企画内容の概要：企画趣旨含め200字程度にまとめる。

④　応募締切り：　2010年12月25日（土）

⑤　採否の決定：　研究活動委員会で採否を決定する（年内にお返事します）。

≪申し込み方法≫

企画者は、電子メールにRTD企画申込書ファイルを添付し、件名を「RTD公募・企画者名」として樫田宛[redacted]にご送信ください。着信確認のメールが3日以内に届かない場合には、お問い合わせ下さい。

RTD企画申込書の記入内容：(1)RTD題名（副題付きも可）、(2)企画者名（所属名付き）、(3)連絡先電子メール、(4)連絡先住所（郵便番号付）、(5)連絡先電話、(6)企画内容の概要（200字程度）、(7)話題提供者名（所属名付き）※複数名の場合は全員。未定がある場合は、未定者n名と記入。(8)使用希望機材（液晶プロジェクター、OHP、その他＝スピーカー等、具体的に＝）(9)申込日。

なお、この件に関するお問い合わせも樫田宛メールにてお願いいたします。

（研究活動担当理事：樫田美雄）

Ⅳ．学会ホームページのリニューアルについて

前号のニューズレターでお伝えした通り、9 月より本学会のホームページをリニューアルしました（http://square.umin.ac.jp/medsocio/ind）。本会の規約を始め、日本保健医療学会論集の投稿規程等も最新のものになっております。今後は、ニューズレターの発行に合わせて更新します。渉外国際担当理事を中心に進められている世界社会学会（ISA）の参加にむけて健康社会学部会である RC15 のニューズレターのサイトにリンクする予定です。お気づきの点は、事務局までご連絡ください。

（広報担当理事：吉田澄恵）

Ⅴ．理事会報告

≪2010 年度第 3 回理事会≫　2010 年 10 月 3 日（日）於　学術総合センター準備室

出席者：朝倉隆司（学会長）、蘭由岐子、伊藤美樹子、樫田美雄、黒田浩一郎、三井さよ、山本武志、吉田澄恵

1)　第 37 回大会の準備・進捗状況について

プログラム、使用する施設などについて池田第 37 回大会長、伊藤理事から説明があった。例年通り、シンポジウムと RTD を行い、大会長講演を初日に行うことが決定した。参加費の設定についても検討を加え、来年の初めには決定し周知する。

2)　学会事務局・編集委員会事務局の委託について

次年度以降の事務局委託について、数社からの見積もりをとり検討した旨、業務委託ワーキンググループから報告があった。6 月に移行できるように準備を進める。委託費用に応じた会費値上げやその際の学生年会費の区分の新設などが議論された。

3)　編集委員会報告

蘭副編集委員長より報告。機関誌編集委員会（第 1 回：5 月 15 日、第 2 回：10 月 20 日）を開催。論集第 21 巻 1 号は著者校正作業に時間がかかり、10 月中旬に刊行予定。第 21 巻 2 号、第 22 巻 1 号の全体構成について検討中。投稿規程等において、各種投稿カテゴリーについて「論文」であることを明記するために、一部文言の修正を行った。誤りがないように論集、ニューズレター等で周知徹底する。同一著者による複数投稿（第 1 報，第 2 報など）のあり方について議論され、編集委員会の裁量によって決定する旨合意した。編集委員による論文投稿について申し合わせ事項で対応することが協議された。

4)　学会ホームページの運営状況について

(株)正文社に依頼し、9 月に HP を刷新した旨、吉田広報担当理事より報告があった。現行の役員（理事・評議員・編集委員）一覧をトップページ近辺に設けることとなった。

5)　英語版学会ホームページについて

黒田渉外国際担当理事より報告。今年度中に公開できるよう準備を進める。

6)　ニューズレター81 号の発行について

ニーズレター81 号の原稿内容について議論した。

7)　定例研究会の報告、企画について(関東、関西)

三井研究活動担当理事、樫田研究活動担当理事より、各定例会の実施状況と今後

の予定について報告があった。

8) 第39回大会について

開催先について朝倉学会長を中心に検討中である。

9) 渉外国際活動について

ISAの活動(選挙等)について黒田理事から報告があった。ISA（RC15）へのHPのリンクを検討する。

10) 名誉会員について

山本総務担当理事より報告。現名誉会員(11名)への表彰盾の贈呈が承認された。

11) 学会奨励賞の選考について

平成22年度学会奨励賞の選考委員会を立ち上げることが承認された。同賞の選考において学歴、年齢の条件があるため、その情報収集をどのように行うか検討した。論文掲載が決定した時点で編集委員会を通じて情報収集することが確認された。

12) 入退会者の承認

海外からの年会費等の支払いについて、会員の便宜を図ることが確認された。8月1日から9月30日までの入退会、資格喪失が報告され承認された。

13) 次回の理事会日程について

12月18日(土)に大阪にて開催。

（総務担当理事：山本武志）

VI. 編集委員会報告

1) 『保健医療社会学論集』第21巻1号刊行――「学会・研究動向」を特集化して「制度・政策の現在において問う」という企画を立てました。執筆者をはじめ、査読者や編集委員、会員の皆様のご協力にこの場を借りてお礼申し上げます。

2) 『論集』第21巻2号2011年1月中旬頃に刊行予定――「特集」では、第36回大会での大会長講演・シンポジウム・教育講演・特別追悼シンポジウムの報告をもとにした論文を掲載する予定です。

3) 2010年度第2回機関誌編集委員会――10月20日（水）に立命館大学にて開催。2010年9月末締切の投稿論文の査読者の決定、再投稿・再々投稿論文の査読判定、『論集』第21巻2号ならびに第22巻1号の構成と編集委員会企画の確認、投稿規程の「修正」についての確認、編集委員の投稿についての申し合わせについて、機関レポジトリやウェブ掲載などについてのルール化、編集委員会申し合わせの規定化、各種規程の改訂、編集委員会での記録化の確認、次期編集委員会への引き継ぎ事項の確認などについて審議・検討を行いました。

4) 諸連絡における電子媒体の活用――現在、投稿者・寄稿者・査読者との諸連絡などは原則としてメール等の電子媒体を中心に行なっています。

5) 投稿論文の増加への対応――2010年9月末締め切りの投稿論文は14本で、再投稿・再々投稿の論文数も増加しています。本学会にとって大変望ましい状況ですが、それに応じた編集委員会体制を構築するための協議・検討を行っています。

6) 投稿規程等の一部文言修正――『論集』第21巻1号ならびに学会ホームページ

に一部文言を修正した投稿規程を掲載しています。これまで編集委員会では「総説」「原著」「研究ノート」のいずれも「研究論文」として位置づけていましたが、その点をより明示的に記すための表記上・文言上の修正を行いました。しかし、『論集』やレターでの周知を並行すべきところ、8月中旬予定の第21巻1号の刊行が遅延したため、修正を施した投稿規程が日本保健医療社会学会ホームページで先に掲載されました。編集委員会としてお詫びいたします。

7) 編集委員会事務局体制の整備・強化が急務のため、理事会にあげ検討しています。

(編集担当理事：天田城介)

Ⅶ. 研究活動報告

＜関東定例研究会＞

＝報告＝

第208回研究例会（関東）は、9月25日（土）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて、猪飼周平さん（一橋大学）から、「地域包括ケアシステムの社会理論へ向けて」と題してご報告いただいた。コメンテイターは稲葉振一郎さん（明治学院大学）、司会は三井さよ（法政大学）。参加者は30名。

猪飼さんから、2010年3月に上梓された『病院の世紀の理論』（有斐閣）の議論を土台として、20世紀の病院を中心とした医療システムに課せられた課題から論理的に解きほぐし、医療システムが三つの類型に分けられること、それぞれが持つ必然性や帰結について論じられた。日本の20世紀医療システムを安易な特殊論ではなく、より総合的に捉える視角が提供された。また、現在医療システムに生じている転換期の内実と、新たな医療システムを探る試論が展開された。稲葉さんのコメントでは、猪飼さんの議論が川上武の議論が持つ潜在的な力を読みとり医療史を描きなおすものであり、日本のプロフェッション論としても優れた意義を持つものであることが示された上で、現在生じている転換について、その断絶と連続性をどのように考えるか、それは社会における医療の持つ機能そのものを問いかえすことにもつながるのではないか、という問題提起がなされた。フロアからは、主に医療従事者として働く人たちから、現在の転換をどのように捉えたらいいのかという質問がいくつか出された。総じて、今後の保健医療社会学が何を課題とすべきか、多くの示唆を与えられた。

＝案内＝

次回の関東定例研究会は、下記の要領で開催します。

日時：12月11日（土）15:30～18:00

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室A

講師：栗盛須雅子（茨城キリスト教大学）、司会：星旦二（首都大学東京）

タイトル：「自治体別に見た健康寿命（余命）の現状」

概要：要介護状況を踏まえて、都道府県別、自治体別の障害調整健康余命（DALE）を算出し、その実態と地域特性を明らかにする。また、DALEの算出過程で算出される障害をもつ人の割合である加重障害保有割合（WDP）の実態と地域特性についても明らかにするとともに、これらの指標の健康施策への応用例を示す。さらに、都道府県別要介護割合と関連する要因を共分散構造分析を用いて明確にする。

連絡先：星旦二（[redacted]

なお、今年度第3回関東定例研究会は、3月5日（土）に川口有美子さん（さくら会）にご報告いただく予定です。　（研究活動担当理事：星旦二、三井さよ）

＜関西定例研究会＞

＝報告＝

第1回関西定例会（通算第207回）を、9月18日（土）に龍谷大学大阪梅田キャンパスにて開催いたしました。今回は、テーマを「論文投稿支援のために―論文審査の実際と査読コメントの読み方：論文投稿から掲載まで―」と定め、事前配付資料のある新機軸の研究会でしたが、全国から39名の参会者がありました。司会は、伊藤美樹子氏（大阪大学）。まず、第1部で、論文審査の実際について、樫田美雄氏（徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）より、「論文投稿のすすめ―投稿誌の選定から査読対応まで」、天田城介氏（立命館大学・大学院先端総合学術研究科）より、「歴史と体制を理解して書く――社会学の学会研究体制の歴史と現在」と題した講演がありました。続いて第2部で、査読コメントの読み方実習について、木下衆氏（京都大学大学院）による発題その1（論文＋コメント＋リプライ）と、有吉玲子氏（立命館大学大学院）による発題その2（私の査読雑誌投稿物語）がありました。

議論では、「投稿者側」と「編集委員会・査読者側」とのコミュニケーションはもっと盛んになった方がよいという意見があり、一方で、実務側から、その要望に応えることが現在の編集体制では難しいという意見がありました。また、第2部の演者から、論文をよくするための環境作り（多様な助言者の確保・口頭発表の場の確保等）は、自分自身で行うべきであるという意見や、締め切りや学術性の程度などの異なる多様な雑誌があることを活用した投稿戦略についてよく考えるべきだという意見が出されました。終了後、「査読割れの処理法がわかって興味深かった」「どんな感じで査読が進行しているのか、審査の原理がわかって納得した」などの感想が聞かれました。

＝案内＝

関西地区定例研究会の第2回を下記の通り開催します。

日時：2011年3月19日土曜13:30～

場所：龍谷大学大阪梅田キャンパス

内容：『研究費申請支援のために』と銘打って、第1部で、平成19年度等において科研費の第1次審査員であったことが公表されている栗岡幹英氏（奈良女子大学）と、現在、社会学領域の科研システムの運用実務に当たっている油井清光氏（神戸大学・日本学術振興会・学術システム研究センター専門研究員）の二人より、議論のたたき台的講演をしていただきます。第2部では、田島明子氏（吉備国際大学）に民間財団の研究資金への応募と被採択経験について語ってもらいます。

なお、前号のニューズレターで、第3回研究会を第37回大会初日午前として案内しましたが、諸事情から断念しました。かわりに、大会二日目のラウンドテーブル・ディスカッションに、『キャリアデザインの重要性』と題して、第1回（論文投稿関連）と第2回（研究費獲得関連）との連動を図り、年度の活動を総括する企画を準備しています。よい論文を書くには、研究調査をしっかりしなければなりませんし、そのためには、自らのキャリアデザインをしっかりしなければなりません。そこで、本

郷正武氏（和歌山県立医科大学）に、どのような構想で自らの研究計画を設計し、キャリアデザインを立ててきたのか、そして、どのような公募応募戦略をもってポストを獲得したのかを語って頂く予定です。演者の一部は未定ですが、氏のプレゼンを呼び水に、フロアとの活発な討論を総括的にできればうれしく思います。

（研究活動担当理事：樫田美雄）

＜看護研究部会＞

＝報告＝

10月の例会は、首都大学・秋葉原サテライトキャンパスにおいて、海老田大五朗さん（東京医学柔整専門学校・東京福祉大学）より、「医療コミュニケーションのエスノメソドロジー研究について」と題した発表がありました。本報告では、初めに「エスノメソドロジー」とはどのような研究プログラムであるかについて報告されました。そしてそもそも「エスノメソドロジー」という用語は何を指しているのかという問いや「エスノメソドロジー」を理解する上での重要な「インデックス的表現とインデックス的行為」、「説明可能性」、「相互反映性」、「エスノメソドロジー的無関心」といった術語は、体系的に把握しにくいことや人類学が出自のエスノグラフィ的研究との相違点なども見いだしづらいことについて議論されました。最後に、「医療実践のエスノメソドロジー研究」の中から、Maynard,W.D.（2003=2004）、川島（2008）、Halkowski,T.(2006)等の研究の一部を紹介され、人びとの相互行為をどのように理解するかについて検討されました。

＝案内＝

日時：1月8日（土）、場所：法政大学市ヶ谷キャンパス80年館7F 中会議室1

発表者：宇城　令（自治医科大学）

発表テーマ：「転倒・転落事故予防をめざす患者・家族と医療者による協働的リスク回避システムの開発（仮）」

問い合わせ：事務局　本多康生 [redacted]

3月13日（日）に「資格と専門性を問いなおす――医療・福祉の再編に向けて」と題して公開企画を行う予定です。　（部会長　宇城　令）

Ⅷ. 新入会員および退会者の承認　＜2010年8月1日～2010年9月30日＞

入会 [redacted]　計4名

退会 [redacted]　計1名

資格喪失 [redacted]　計1名

（学会事務局次長：村山紀子）

編集後記

理事会で大会の企画や事務局体制を検討しながら、数ある学会の中でのこの学会の価値を吟味する日々です。みなさんからの声、心よりお待ちしています。

投稿先：[redacted]　（広報会報担当理事　吉田澄恵）

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

NEWS LETTER

No. 82 *2011/1/20*

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵、補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．新年のご挨拶

学会長：朝倉隆司

新年あけましておめでとうございます。

本学会並びに皆様にとりまして、うさぎ年らしく飛躍の年となりますよう祈念しております。

さて，まずなんと言っても今年のトピックは役員選挙です。2011 年 5 月には現行の理事体制になってから 2 年が経過しますので、改選の年となります。少数のパイオニアによる保健医療社会学研究会として発足した会が、現在約 700 名の会員からなる学会に成長し、理事会を年 6 回程度開催し、各理事が役割分担しで学会運営に当たっております。転換期でもあり、理事の役目は重要です。会員の皆様には、選挙権を行使して，このような理事会活動を積極的に支えていただける方々を選んでいただきたいと思います。

とりわけ、事務局並びに編集事務局の委託については、理事会で結論に達し、5 月の年次大会の総会で皆様にお諮りすることになります。議案が承認されますと、新理事会は、新しい事務局・編集事務局体制を調整・整備しつつ学会運営をしていかねばなりません。重要な役割を担う理事会になることを認識下さるようお願いします。

とりわけ論集の編集のあり方や論集そのものも、時代の電子媒体化の流れの中で、将来を見据えた方向性に舵取りが求められると推測しております。コスト面からのページの制約が緩和され、いつの日か保健医療社会学論集が Sociology of Health & Illness, Social Science & Medicine, Journal of Health & Social Behavior といった理論的背景や質的データを十分に論じられる世界水準の雑誌に飛躍していくことを夢見ています。

また、第 37 回大会も池田光穂先生、伊藤美樹子先生を中心に準備が着々と進んで

います。ご協力くださっている関西方面の会員の皆様にお礼申し上げます。ラウンドテーブル・ディスカッションの企画も固まり、一般演題申し込みが2月末から始まります。年次大会の本質は、会員が自分たちの研究成果を公表する一般発表にあります。討論や対話を通じて、保健医療社会学とその関連領域における研究の質がいっそう高まるよう願っています。

さらに、昨年の学会では、原田先生を名誉会員に推挙させていただきましたが、これまでに名誉会員の称号をお贈りした先達の先生方は、合計 11 名おられます。理事会で検討し、先生方の功績を讃えて、表彰盾を贈呈することにいたしました。これは今期以後の理事会においても引き継いでいきたいと考えております。

最後に、その名誉会員のお一人であった芦沢正見先生が昨年末に逝去されました。芦沢先生は、保健医療社会学論集の第 1 号（1990 年）に当時の学会長として巻頭言を寄せられており、本学会の設立に尽力されたパイオニアのお一人です。表彰盾が、ご存命中に間に合わなかったことが悔やまれます。先生のご業績や本学会におけるご貢献等につきましては、改めて先生に感謝と敬意の念を表したいと考え、追悼文等にて皆様にご紹介いたします。ご冥福をお祈りいたします。

Ⅱ．第 37 回日本保健医療社会学会大会のご挨拶（第 3 報）

大会長：　池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）

大阪大学の豊中キャンパスで開催される第 37 回日本保健医療社会学会の開催（5 月 21～22 日）まであと 4 ヶ月ほどに迫ってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて近年では天災や天候不順が続き、温暖化を含めさまざまな「黙示録ふうの語り」が我々の何気ない会話やネットワーク上の SNS などにしばしば登場することはご承知のとおりです。これは双方向情報のグローバルレベルの流通の増大と同時に人々が手軽に世界に向けて情報発信できるようになった技術的発展によるものではないでしょうか。他方、医療・保健・看護・介護・福祉の現場とその実践教育に眼を向けますとメディアの技術的発展への対人関係へのまったく逆の方向の現象をみることができます。つまり「よりリアルな手触りをもとめたコミュニケーション技術」の必要性が現場でもまた国民の期待としてもますます説かれるようになってきています。こちらの対人技術（技法）はインターネットのような普遍的技術化へ収斂してゆくのではなく、保健サービスを受ける当事者とその環境の多様な状況に対応するテーラメイド的なカスタマイズ化が求められるという方向性をもっています。具体的に言い換えれば、より微細な現場での観察とフィードバック、新旧の身体技法の変化に伴うより深い歴史社会学的考察、法的権利主体性の患者や障害者とパターナリズム（マターナリズム）的ケア原理との「対話や交渉」、グローバルヘルスという一般化とローカルな専門職集団の権益との葛藤など、具体的で実践的、なおかつこれまでの保健医療社会学的研究の守備範囲を大きく超えるチャレンジングな課題が陸続と登場しつつあります。

本大会は「拡張するヘルスコミュニケーション」というテーマを掲げ、従来の保健医療コミュニケーション教育以上に広がりをもちつつある「疾患対策をめぐる」現場からの具体的な報告をいただく大会シンポジウム、演劇の現場から逆に医療現場における「対話」の意味を照射・再考していただく劇作家（大阪大学教授）の平田オリザさんの講演、そして対人援助、ケアと看護、質的研究、国際保健人材養成、キャリアデザインという多様に広がるヘルスコミュニケーションの課題について取り組むラウンドテーブル・ディスカッションなど、本学会ならでは、多様な専門領域からの取り組みが見られるものであると期待しております。是非とも会員の皆様におかれまして、本テーマに関心を持たれる職場の非会員の皆様、あるいは大学院生ならびに学部学生の皆様にも本大会への参加をお勧めくださるようお願い申し上げます（本学会への麗しい伝統として発表を可能にする単年度会員制度などもあることも「本学会への魅力」であることをお伝えすることもお忘れなく！）。

この現代保健医療のもっとも最先端の話題を盛り込んだ本大会の多様性については、大会運営スタッフからもマネージメントの業務の忙しさについて悩むよりも、充実した2日間をどのように時間をぬって参加・発表することができるか、本学会員に「嬉しい悲鳴と課題」をもたらすのではないかと今から危惧しております。準備状況の過程の中でいろいろ至らないところも生じるとは存知ますが、ご忌憚のないご意見をお寄せいただくと共に、本大会の野心的な取り組みに免じて至らない部分に関してはどうかご海容のほどをお願いします。

第37回日本保健医療社会学会大会

メインテーマ	**「拡張するヘルスコミュニケーション」**
会　期	**2011年5月21日（土）～22日（日）**
会　場	**大阪大学豊中キャンパス**
大会ホームページ	http://square.umin.ac.jp/jhms37/

1．プログラム

大会1日目：5月21日（土）

9:30 ～ 11:30	新旧合同理事会
11:30 ～ 12:30	評議委員会
12:00 ～	参加者受付開始
13:00 ～ 15:00	一般演題セッション（口演）
15:10 ～ 16:05	大会長講演　池田光穂（大阪大学教授） 「拡張するヘルスコミュニケーションの現場」
16:20 ～ 17:40	教育講演　平田オリザ（大阪大学教授・劇作家） 「医療の現場で対話は可能か？」
18:00 ～ 20:00	大会懇親会 阪大キャンパス内カフェ＆レストラン 宙(sora)

大会２日目：５月２２日（日）

8:50 ～　参加者受付開始

9:20 ～ 11:20　一般演題セッション（口演・ポスター）

11:25 ～ 12:15　総会

12:15 ～ 12:20　学会奨励賞授賞式

13:00 ～ 14:50　シンポジウム

「疾患対策をめぐるヘルスコミュニケーション」

【シンポジスト】

石川ひろの（東京大学大学院医学系研究科）

大北全俊（大阪大学大学院文学研究科）

高山智子（国立がんセンター）

竹田寛（札幌医科大学）

朝倉隆司（東京学芸大学教育学部）

【司会】

池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）

15:10 ～ 17:20　ラウンドテーブル・ディスカッション

「対人援助職の実践を記述する
—ヘルスコミュニケーションのエスノメソドロジー」

「ケアにかかわる実践家の臨床教育—現象学的視点からの検討」

「質的研究に取り組む研究者の経験」

「外国人看護師・介護福祉士候補の学習・職場適応支援
—国際保健人材の養成と社会統合にむけて」

「看護の役割についての現状と未来—病院、在宅、教育の現場より」

「キャリアデザインの重要性－若手研究者支援のために」

２．参加費

		事前申し込み 2011/3/31（木）まで	当日参加 2011/4/1（金）以降
大会 参加費	一般 会員	5000 円	5500 円
	学生 会員	3000 円	4000 円
懇親会費	一般(会員・非会員とも)	4000 円	
	学生(会員・非会員とも)	2000 円	

大会当日の参加費の支払いには、つり銭のないようにご協力をお願いいたします。

3．事前参加申し込みについて　(2011年3月31日(木)まで)

同封の振り込み用紙または郵便局備え付け振り込み用紙にてお振り込み下さい。
その際、通信欄にお振込み内容の詳細をご記入ください。
なお、手数料は振込み人負担となります。

ゆうちょ銀行　振替口座

口座番号：　００９５０−７−２５４９１６

口座名称：　第37回日本保健医療社会学会大会

銀行から振込みをされる場合、下記をご指定ください。

ゆうちょ銀行　〇九九(ゼロキュウキュウ)店　当座０２５４９１６

※2011年4月1日（金）以降は当日参加費が適用されます。

4．一般演題申し込みを受け付けています。(締め切り：2月28日)

- 一般演題は口演とポスター発表で募集します。
- 発表者（共同演者を含む）は本学会会員に限ります。単年度会員制度を設けていますので、非会員の方と共同発表をご予定の場合は手続きをお願いします。
- 発表内容は未発表のものに限り、また一般演題の登録は一人につき1演題とします。共同演者としての登録はこの限りではありません。
- Microsoft Wordにて抄録を作成し、ファイル名を「発表者氏名.doc」「発表者氏名.docx」とし、e-mailにて[redacted]宛にお送りください。（郵送受付については後日案内します）

● 抄録の作成要領

① A4判横書き、40字×40行、明朝体、余白は上下25mm、左右22mm、抄録はB5に縮小されますので図表などを入れられる場合には文字のポイントにご注意ください。

② 演題：第一行に中央寄せ（14pt、太字）副題：あれば第２行に中央寄せ（12pt）、氏名（所属）：題から一行あけて右寄せ（10.5pt）連名の場合は発表者に〇をつけてください。

③ 本文：氏名（所属）から一行あけて始める。図表を使用する場合は、Wordのファイルの他にPDFファイルもご提出ください。

● e-mailによる抄録提出について

① 件名は「一般演題申し込み」とし、メール本文に以下の内容をご記入ください。
1. 申込者氏名、2. 所属、3. 連絡先（住所、電話、e-mail）、4. 希望発表形式（口演、ポスター発表、どちらでもよい、のどれかを示す）

② ファイルを添付してください。

5．ご案内

大阪大学豊中キャンパス周辺ホテルは下記となります。

伊丹空港	グリーンリッチホテル大阪空港前
	ホテルA.P
阪急・豊中駅	ホテルアイボリー
地下鉄／モノレール・千里中央駅	千里阪急ホテル
地下鉄／江坂駅	新大阪江坂東急イン
	サニーストンホテル

Ⅲ．保健医療社会学会の基礎を作られた故芦沢正見先生への哀悼を

西　三郎（本学会名誉会員　公益財団法人医療科学研究所監事）

故　芦沢正見先生は、東京大学にいらした頃から、当時国立公衆衛生院次長の曽田長宗先生のもとで現日本社会医学会の基礎を作られました。その後順天堂大学の山本幹夫先生が、主張されていた保健医療社会学の確立に努力されていたご意見に、われわれも加わり、幅広い分野の方の参加を願い現保健医療社会学会の種を作るべく努力をし、当時の社会医学研究会の有志も加わり保健医療社会学研究会を発足させました。先生はこの作業の途中で東大から国立公衆衛生院に移られ、定年まで活躍を続けてくださいました。発足当初は、発表する先生も少なく、お互いに複数の演題を報告し、その後社会学の研究者とともに保健医療社会学研究会としての形を整える努力をし、お陰様で実質的に幅広い分野の研究者が参加する学会となりました。このように芦沢先生による保健医療社会学研究会さらに保健医療社会学会としての基礎を確立させた功績は多大なものがあったと言えるでしょう。先生は、定年退職後、看護学校の校長としてご活躍なさいました。その後は、先生とのお付き合いが薄くなりましたが、2010年11月7日に87歳でご逝去なさったとのこと、謹んで哀悼の意を申し上げます。

＜ご業績の一端を掲載します。（レター担当による抜粋）＞

芦沢正見．巻頭言．保健医療社会学会論集．1．1．1990.

芦沢正見．海外特集 最近のアメリカのSTD事情．性と健康 (2), 13-16, 2002-11.

ヨセファ・イオテイコ著/芦沢正見訳．労働科学叢書107．労働科学の方法．労働科学研究所出版部2000.

芦沢 正見・相磯 富士雄・中村 美治・岡野 学．法案をめぐる論議の経過と問題提起：新医協研究会・機関紙等での討論を通して．医学評論 100, 31-35, 1998.

岡島 史佳・荒記 俊一・塩川 優一・芦沢 正見・南谷 幹夫・村田 勝敬・佐田文宏・前田 秀雄・石井 明子．エイズ（AIDS）患者の診療体制に関する研究：東京都エイズ研究班の病院調査より．日本公衆衛生雑誌 42(9), 799-807, 1995.

芦沢 正見. 先天性異常モニタリングとともに. 日本赤十字看護大学紀要 (8), 113-124, 1994 .

芦沢 正見. 性病予防法の問題点とその因由. 公衆衛生院研究報告 39, 145-147, 1990

芦沢 正見. 諸外国における先天異常モニタリング―国際協力システムの視点から（周産期のサーベイランス〈特集〉. 周産期医学 18(5), p661-665, 1988

芦沢 正見・母里 啓子. 都道府県別個室付浴場ならびにバー・キャバレー営業店数統計からみた淋病の流行. 厚生の指標 35(8), p9-13,1988.

芦沢 正見. 公衆衛生卒後教育の立場からみたコミュニティ・ヘルスの教育（医学教育の中のコミュニティ・ヘルス〈特集〉. 公衆衛生 40(4),p265-268,1976.

芦沢正見. 難病対策の現状と 1,2 の問題点（医療と人権(特集)）-（医療政策と医療行政）. ジュリスト (548), 261-267,1973.

Ⅳ. 社会学系コンソーシアム・シンポジウム開催のお知らせ

2011 年 1 月 30 日に社会学系コンソーシアム第 3 回コンソーシアム・シンポジウム「再論　日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」が開催されます。本学会からは藤澤由和会員（国際交流委員会）が登壇し、「グローバリゼーションとローカライゼーション：保健医療社会学の場合」のテーマで報告します。奮ってご参加ください。

日時：2011 年 1 月 30 日（日）　13:00～16:00

場所：日本学術会議講堂（東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5 番出口徒歩 1 分）

※参加費・事前申し込み不要（ http://www.socconso.com/ を参照のこと）

Ⅴ. 理事会報告

≪2010 年度第 4 回理事会≫

2010 年 12 月 18 日（日）於　大阪大学豊中キャンパス　人文総合研究棟

出席者：朝倉隆司（学会長）、蘭由岐子、伊藤美樹子、黒田浩一郎、三井さよ、山本武志、吉田澄恵

1)　第 37 回大会の準備・進捗状況について

演題登録、RTD の申し込み状況について確認した。依頼のあった医療展示について議論し、学会の性格上従来通り出版社・書店以外の広告・展示は認めないこととした。

2)　学会事務局・編集委員会事務局の委託について

次年度以降の学会事務局および編集委員会事務局委託について、(株)国際文献印

刷社(東京)との折衝を進めている。委託については次期評議員会にて討議の上、総会にて審議する。委託に伴う年会費の値上げは、十分なシミュレーションを行った上で会員に対し情報提供を行い、性急な判断をしないこととした。また、学生年会費の区分の新設についても議論した。

3) 編集委員会報告

蘭副編集委員長より報告。奨励賞選考に関する会員の個人情報収集について、選考委員会で一括した管理を行うことを確認した。9 月末投稿の査読状況について報告がなされた。次年度の編集委員の交代について、業務継続上の問題がない範囲で行うことを確認した

4) 役員選挙について

吉本照子会員、池崎澄江会員を選挙管理委員として選出し、選挙管理員会の立ち上げを承認した。役員選挙の公示に関連する資料について検討した。2 月に選挙を実施する。

5) 英語版学会ホームページについて

黒田渉外国際担当理事より報告。今年度中に公開できるよう準備を進める。

6) ニューズレター82 号の発行について

ニーズレター82 号の原稿内容について議論した。

7) 定例研究会の報告、企画について(関東、関西)

三井研究活動担当理事、伊藤研究活動担当理事より、各定例会の実施状況と今後の予定について報告があった。12 月 11 日の第 209 回定例研究会において、理事不在で研究会が開始される事態が生じたことが報告された。今後このようなことがないように留意する。

8) 看護研究部会の活動について

三井研究活動担当理事より、同部会と福祉社会学会の共催で公開例会を行うことが報告され、承認された。

9) 渉外国際活動について

ISA の理事選挙結果について黒田理事から報告があった。

10) 会員情報の確認について

山本総務担当理事より報告。ニューズレター83 号に会員の登録情報を確認するフォームを同梱することが提起され承認された。フォームの内容についても議論した。

11) 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について

1 団体から 6 名（うち 2 名以上を女性とする）を 1/28 までに提供する必要があるため検討する。

12) 名誉会員の推挙について

評議員などを通じて名誉会員候補者のリストアップを行う。

13) 入退会者の承認

10 月 1 日から 11 月 30 日までの入退会、資格喪失が報告され承認された。

14) 次回の理事会日程について
3月4日(金)に東京にて開催。

(総務担当理事：山本武志)

Ⅵ. 渉外国際担当理事報告

渉外関係では，当学会が加盟している日本学術会議の社会学委員会主催で，これも当学会加盟している社会学系コンソーシアム共催のシンポジウム「再論　日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」が2011年1月30日(日) 13：00～16：00に日本学術会議講堂で開催されます。当学会からは，国際交流委員会委員の藤澤由和氏（静岡県立大学准教授）がシンポジストとして登壇されます（13:25～13:40「グローバリゼーションとローカライゼーション：保健医療社会学の場合」)。なお，このシンポジウムへの参加は自由で，事前の申込も不要です。

国際交流関係では，前々号のニューズレターでお知らせしましたISAのRC15の理事選挙（9月，電子投票）の結果，本学会会員の姉崎正平先生が当選されました。ISA2014横浜大会とくにそのRC15部会に積極的に関わる決意の当学会としましては，当学会とISAのRC15とのリエゾンとして先生に大いに期待するところです。

また，国際交流委員会の事業として掲げている（東）アジアの保健医療社会学研究者との研究等の交流の促進につきましては，韓国，中国，台湾などの指導的な保健医療社会学研究者に，それぞれの国の保健医療社会学研究の現状を紹介する記事をお願いし，ニュースまたは機関誌に掲載するということを，2011年3月末日までの任期の今期委員会の最後の仕事としたいと考えています。

(渉外国際担当理事・黒田浩一郎)

Ⅶ. 編集委員会報告

1) 2011年1月下旬に『保健医療社会学論集』第21巻2号を刊行する予定。『論集』第21巻2号は、特集として、2010年5月に山口県立大学で開催された第36回大会での大会長講演（田中マキ子氏)、シンポジウム（平野裕子氏、川口貞親氏、大野俊氏、安里和晃氏)、教育講演（小川全夫氏)、特別追悼シンポジウム（川田智恵子氏、姉崎正平氏、片平洌彦氏、小澤温氏、林千冬氏）等を掲載します。
2) 現在『論集』第22巻1号の編集作業を行なっています。第22巻1号は、研究活動委員会と連携した「特集」を企画する予定。2011年7月中旬刊行予定。
3) 2010年10月20日（水）に2010年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を立命館大学にて開催しました。2011年度第1回新旧合同日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を2011年5月21日（土）に大阪大学にて開催する予定。
4) 2010年9月末締め切りの投稿論文は14本でした。また、再投稿・再々投稿の論文の数も増加しています。投稿論文の増加は本学会にとって大変望ましい状況です

が、それに応じた機関誌編集委員会体制を構築するために、編集委員会では各種規程ならびに編集委員会申し合わせに従いながら積極的に協議・検討を行っています。

5) 現在、論文投稿者・論文寄稿者・査読者との諸連絡などは、原則として、メール等の電子媒体を中心に行なっています。この件は2009年12月の理事会で承認を受け、2010年3月末締切論文から開始しています。これらの電子媒体の活用等については、今後、編集委員会申し合わせや各種規定などに反映させていく予定です。

6) 2009年3月8日に改訂された各種規程をその運用との整合性を踏まえて確認・チェックしています。2009年9月末締切論文の査読依頼の際から送付を開始した査読ガイドラインについても今後更に修正を重ねていきます。

7) 上記の厳正かつ適切な査読プロセスを恒常的に運用していくためにも編集委員会事務局体制の整備・強化が急務の課題になっています。

（編集担当理事：天田城介）

Ⅷ. 研究活動報告

＜関東定例研究会＞

＝報告＝

第209回定例研究会（関東）は、12月11日（土）15:30～18:00に、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室Aにて、栗盛須雅子さん（茨城キリスト教大学）から「自治体別にみた健康寿命（余命）の現状」と題してご報告いただいた。出席者は9名。栗盛さんからは、介護保険認定を利用して新たに開発した指標である、障害調整健康余命（DALE）や加重障害保有割合（WDP）について解説していただき、さらにそれらの指標を活用した実践例として、神奈川県南足柄市や茨城県での取り組みについてご紹介いただいた。DALEやWDPをはじめとして、多様な指標を用いての「健康」の現状の分析や取り組みの可能性について示された。フロアからは、効用値に関する質問や、茨城県で栗盛さんと共同研究をしている職員の意見も出され、議論がなされた。

＝案内＝

今年度3回目の関東定例研究会は、3月5日（土）13:30～16:30に、川口有美子さん（さくら会）から、「『ただここにいる』という関係」と題してご報告いただく。川口有美子さんは、ALSを発症した母親の介護を長年担い、また現在も多くのALS患者の介助ヘルパーを派遣・養成するとともに、ALS患者やその家族を取り巻く現状について積極的に発言を続けている（著書として『逝かない身体――ALS的日常を生きる』医学書院）。今回は特に、患者や利用者とされる人たちとのかかわりやコミュニケーションという観点から議論していただく予定である。来年度大会のテーマである「拡張するヘルスコミュニケーション」に向けて、重要な示唆を得られるであろう。司会は三井さよ（法政大学）。

会場は、法政大学市ヶ谷キャンパス 80 年館 7F 大会議室 1。
http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/ichigaya/campusmap.html
（図書館と同じ建物ですが、入り口は別です）
問い合わせ先：三井[redacted]

（研究活動担当理事：三井さよ）

＜関西定例研究会＞

＝案内＝

前号でご案内した通り、今年度 3 回目の関西定例研究会は下記の予定です。

日時： 3 月 19 日（土）13:30～

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス

演題：研究費申請支援のために

講師：栗岡幹英氏（奈良女子大学）
油井清光氏（神戸大学・日本学術振興会）
田島明子氏（吉備国際大学）

概要：『研究費申請支援のために』と銘打って、第 1 部で、平成 19 年度等において科研費の第 1 次審査員であったことが公表されている栗岡幹英氏と、現在、社会学領域の科研システムの運用実務に当たっている油井清光氏の二人より、議論のたたき台的講演をしていただきます。第 2 部では、田島明子氏に民間財団の研究資金への応募と被採択経験について語ってもらいます。

参加費：学会員、非会員とも無料（事前の参加申し込みは不要）

連絡先：樫田美雄（徳島大学 [redacted]）

（研究活動担当理事：樫田美雄）

＜看護研究部会＞

＝報告＝

看護研究部会の部会員であった芦沢正見先生のご逝去に伴い、奥さまからご連絡いただき、献花をいたしました。1 月 8 日（土）の例会は、法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて、宇城令氏より「転倒予防に関する患者の医療者への情報提供と転倒予防行動」と題した発表がありました。宇城氏からは、特定機能病院における転倒予防への取り組みとして、病棟内ハザードマップや転倒予防パンフレット 、患者自身に身体状況を把握してもらう自己チェックリスト等について紹介された。今後は転倒してもより外傷の少ない転び方等に関する DVD を作成する予定であることが報告された。フロアからは、病院における医療安全対策が患者の ADL を妨げ過剰な介入になりうることなど医療における安全対策の危うさについて議論された。

＝案内＝

2 年に一度のペースで開催している部会員以外への公開企画を、今年度は、福祉社会学会と共催で、下記の内容で開催します。お誘い合わせの上ご参加ください。

日時： 3 月 13 日（日）13:30～16:30

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室 D・E

テーマ：「資格と専門性を問いなおす－医療・福祉の再編に向けて」

概要：医療と福祉はそのどちらも患者＝利用者の生活に深くかかわるものでありながら、資格の体系は異なるものとして編成されてきており、医療職者も福祉職者も、お互いをよく知らないことも多い。本企画では、医療・福祉系の資格体系が見直されつつある今日において、医療や福祉という枠組みを超えて、資格や専門性について改めて問い直す。

司会：三井さよ（法政大学）

報告者：朝倉京子（東北大学）

「看護師の自律的な判断の様相―医師との関係から」

清水準一（首都大学東京）

「在宅ケアチームの質評価―同じようで同じではないこと」

石田健太郎（明星大学）

「求められる専門性の変容―介護職のキャリア形成の視点から」

山下幸子（淑徳大学）

「資格の意味についての検討―障害者の自立生活を通して」

問い合わせ：事務局　本多康生[redacted]

（部会長　宇城　令）

IX. 新入会員および退会者の承認　<2010年10月1日～2010年11月30日>

入会　[redacted]

計4名

退会　[redacted]　計1名

（学会事務局次長：村山紀子）

編集後記

園田恭一先生に続いて、芦沢正見先生が昇天なさった。お二人とも看護研究部会員でもあり、幾度か激励いただいた。多数の看護系学会がある今だからこそ、タコつぼ化した議論に陥らないように、学際的な交流を大切にしたい。皆様の声をぜひ、お寄せください。

投稿先：[redacted]

（広報会報担当理事　吉田澄恵）

年会費納入のお願い

2011年は、役員選挙があります。選挙人名簿を作成中ですので、平成22年度会費を未納の方は、1/31までに納入してください。問い合わせは事務局まで。[redacted]

The Japanese Society of Health and Medical Sociology

日本保健医療社会学会ニューズレター

No. ***83*** *2011/4/5*

発行：日本保健医療社会学会
編集：吉田澄恵，補佐：宇城令
学会事務局：千葉大学大学院
看護学研究科保健学教育研究分野内
千葉市中央区亥鼻 1-8-1

Ⅰ．学会長より

学会長　朝倉隆司

東北関東大震災で被災された皆様に、お見舞いとお悔やみを申し上げます

日本全国を揺るがした 3 月 11 日の東北関東大震災において被災された皆様，被災されたりお亡くなりになられたご家族・親族・知人がおありの皆様，今も余震や原子力発電所の放射能による不安を抱えて生活されている皆様に対し，日本保健医療社会学会より心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。

今後の保健医療や看護，福祉，人々の健康と生活の問題を考える上で，とりわけ青森，宮城，福島，茨城といった被災地域では，今回の大震災の影響を抜きにしては考えられないほど大きな，そして長期的な影響をもたらすであろうと予想されます。これまで本学会では，災害に関わるテーマをあまり取り上げてきていません。地域の復旧・復興，人々の生活再建をめぐる支援，その後の中長期的な課題への対応を，非常に重いテーマではありますが，保健医療社会学の立場から考えていく必要があると思います。

また，この災害の大きさに鑑みて，阪神・淡路大震災の例にならい被災された H22 年度会員の H23 年度年会費を減免としますので，事務局までお申し出ください。

さて，過日の役員選挙におきまして，新しい理事候補者と監事候補者が決まりました。現理事の任期も 5 月の総会までとなり，残すところ 2 ヶ月足らずです。総務担当理事には，円滑な事務局の運営と事務局業務の委託をめぐり尽力していただきました。広報担当理事にはニューズレターの発行，HP の刷新を行っていただきました。編集担当理事には，投稿原稿が増加するなか，負担の大きい編集業務に携わり，投稿規定や査読等の体制も整備していただきました。渉外国際交流担当理事には，委員会を構成して，アジアでの学術交流のルートをつけていただいています。研究活動担当理事には，定例研究

会の開催と学会大会のサポート，さらに山口，大阪と国内の学術交流に尽力していただきました。非力な学会長を2年間支えて下さり感謝の意を表します。

新学会長，新理事体制のもとで，本学会の運営基盤の安定化と更なる学会活動の飛躍を願っています。

5月21日22日に開催される第37回大会（大阪大学）で，皆様にお会いできるのを楽しみにしております。口頭発表も多数集まり，ラウンドテーブル，メインシンポジウム，学会長講演，教育講演と充実した学術大会が期待できます。

Ⅱ．第37回日本保健医療社会学会大会のご挨拶（第4報）

大会長：　池田光穂（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）

多大なる犠牲を今なお払いつつ現在進行形である2011年という年は「リスクをめぐるヘルスコミュニケーション」がもっとも重要になった時期として今後も想起されるでしょう。悲劇から学ぶという意味でも「ヘルスコミュニケーション」をめぐる根本的な更新の元年であることは間違いないと思われます。言うまでもなくこのコミュニケーションは，臨床の現場に幅広くかつ深くかかわるからです。疾病や疾患という人生における危機の克服と，そこからの本復をめざし，保健医療に関わるすべての人たちの理想である共存・協働・自己実現を目指しているということでは，広義のリスクをめぐるヘルスコミュニケーションがもつ理想や課題と共通する点も多数あるように思われます。私たちはリスクをめぐるヘルスコミュニケーション元年ともいえるこの時期に，現在の経験について慎重に精査し，よき成果を進展させ，また将来に起こり得る未来の結果の推測から勇気をもって学ばねばなりません。2011年3月11日14時46分，東北地方太平洋沖地震とそれに引き続いて起こった大津波による大災害は，被災地から遠く離れたここ大阪でも16年前の阪神・淡路大震災の経験と記憶をまざまざと思いおこさせました。今般の震災直後におこった太平洋岸での福島第一原子力発電所での大事故は，この原稿を書いている時点ではさまざまな対策が引き続いていながらも，いまだ予断を許さない状況にあります。犠牲者のみならず今なお復興途上にあり避難を余儀なくされている人びとの心中を察すると，その無念と希望の喪失はいかほどのものであるのかと大会事務局メンバーのすべてが心を痛めています。学会関係者とともに，御不幸に遭難された方々への哀悼を表し，調査と研究を通して保健医療分野に関わる者として，第37回の大会をより多くの人により意義の深い大会にしたいと考えています。5月21日22日の両日は是非とも大阪大学の豊中キャンパスまで足をお運びください。

＜事務局より＞

大会2日目は学内施設が休業のため昼食のお弁当の申し込みができます。詳しくは同封の近畿日本ツーリストのご案内をご覧下さい。

皆様のご参加を心よりお待ちしています。

大会スケジュール

大会1日目：5月21日（土）								
		9:30～11:30	11:30～	12:00	13:00 ～ 15:00	15:10 ～ 16:05	16:20 ～ 17:40	18:00
1階／3階受付				参加者受付開始				
会場1	3階301					大会長講演「拡張するヘルスコミュニケーションの現場」	教育講演「医療の現場で対話は可能か？」	
会場2	3階L3				一般演題(口演) 病体験			
会場3	4階L5				患者と家族			
会場4	4階L6				医療と労働			
会場5	5階501				健康観			
会場6	4階401				ポスター掲示			
会場7	4階402			休憩所				
会場8	5階L7	新旧合同理事会	評議員会		新旧合同編集委員会			
大会本部	3階L4	総合案内・クローク						

大会2日目：5月22日（日）								
		8:50～	9:20～11:20	11:25～		13:00～14:50	15:10～17:20	18:00
1階／3階受付		参加者受付開始						
会場1	3階301			総会	12:15～学会賞奨励賞授賞式	シンポジウム「疾患対策をめぐるヘルスコミュニケーション」		
会場2	3階L3		一般演題(口演) 健康とコミュニケーション				RTD1	
会場3	4階L5		メンタルヘルス				RTD2	
会場4	4階L6						RTD3	
会場5	5階501		医療体制				RTD4	
会場6	4階401		10:45～ 示説発表	ポスター掲示 ～14:00			RTD5	
会場7	4階402		休憩所(弁当受け取り)					
会場8	5階L7						RTD6	
大会本部	3階L4	総合案内・クローク						

Ⅲ. 理事・監事選挙結果

選挙管理委員会委員　吉本照子，池崎澄江

選挙管理委員会は，2011-12年度日本保健医療社会学会理事・監事選挙を2011年2月に実施しました。選挙は，2011年2月10日に告示，投票用紙を送付し同月28日締切，3月4日に開票されました。開票会場は，千葉大学大学院看護学研究科保健学第4研究室で選挙管理委員，および総務担当理事立ち会いのもと開票を行いました。

選挙の結果，有権者数は，478名，有効数87，無効数0でした。

理事選挙結果(敬称略，得票の多い順・同票の場合五十音順)

1.	山崎　喜比古	30票
2.	野口　裕二	23票
3.	池田　光穂	20票
4.	蘭　由岐子	19票
5.	木下　康仁	18票
6.	伊藤　美樹子	15票
7.	朝倉　京子	13票
7.	栗岡　幹英	13票

監事選挙結果

1.	山崎　喜比古	9票
2.	米林　喜男	8票
3.	清水　準一	5票
3.	的場　智子	5票

選挙管理委員会は，上記選挙結果を理事会に報告しました。選挙による選出理事数は規約により7名，監事は2名であるため，上位7位までの理事当選者，および上位2位までの監事当選者の方に，理事・監事の就任受諾の可否を確認した後，新理事・監事決定となります。就任辞退者が出た場合は，次点者がその任にあたります。

Ⅳ. 理事会報告

≪2010年度第5回理事会≫　2011年3月4日（金）於　会議室ルノアール銀座

出席者：朝倉隆司（学会長），天田城介，蘭由岐子，伊藤美樹子，樫田美雄，
黒田浩一郎，三井さよ，山本武志

1)　役員選挙の結果について

池崎澄江氏（選挙管理委員）から役員選挙結果の報告があった。理事選挙結果は 7 位が 2 名いたため審議した。理事の構成については，理事選出に関する慣例に従い性別，専門分野，地域性のバランスを考慮して，朝倉京子会員を 7 位，栗岡幹英会員を 8 位として理事就任の打診をすることとした。監事については，山崎喜比古会員が理事を受諾した場合に備え，3 位が 2 名いることについて審議した。現監事は米林喜男会員と，的場智子会員であるため，清水準一会員を 3 位，的場智子会員を 4 位として監事就任の打診をすることにした。なお，監事について連続多選禁止の規程がないた

め，理事に準じて連続して2期までとする学会規約改正を大会時に提案することとした。

2) 学会事務局体制の変更について

3月31日付で村山事務局次長が退任し，池崎澄江会員（千葉大学大学院看護学研究科）が事務局次長に就任することとなった。

3) 学会奨励賞について

学会奨励賞の選考を行い1名について決定した。また，委員長特別賞または佳作枠を作って表彰することについて検討したが，今年度は見送った。

4) 第37回大会の準備・進捗状況について

47演題（ポスター12題，口演35題，最終的には49題がエントリー）の応募があった。座長を検討中の段階であり、決定次第抄録集発行の準備を進める。

5) 次期評議員の選出について

過去の評議員会に出席している会員，次期理事会に選出されていない現理事を中心に選考した。なお，評議員の選出は現理事会の専決事項であるが，次期理事会の運営に配慮して，次期選出理事の意見を聞いた上で行うこととした。

6) 編集委員会報告

編集委員会報告（記事別途）を参照のこと。

7) ニューズレター83号の発行について

3月22日締め切りで発行することを確認した。

8) ホームページに更新について

5月31日までは現依頼先の正文社に依頼し更新する。黒田理事が担当する英文ホームページについては4月1日以降に公開できる準備を進める。

9) 渉外国際活動について

「東アジア各国における保健医療社会学会の動向」として，各国を代表するような保健医療社会学者に記事を依頼することを検討している。ISA との関係で，2012 年度が南米（ブエノスアイレス）でのフォーラムが予定され，2011 年度は Social Science and Medicine の大会が香港であり「アジアにおける医療システム改革」というテーマで開催予定，案内が来ている。同大会に積極的に参加，発表し，アジアの研究者との交流促進を考えている。

10) 次回理事会の開催について

新理事会を3月末に召集し，会長を含む役割を検討。5月20日に第6回理事会を行い，5月21日に第7回理事会として新旧理事会の顔合わせをし，引き継ぎを行う。

（総務担当理事：山本武志）

V．渉外国際交流担当理事報告

渉外関係では，日本学術会議の社会学委員会主催・社会学系コンソーシアム共催のシンポジウム「再論　日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」が2011年1月30日（日）に日本学術会議講堂で開催されました。当学会からは，国際交流委員会委員の藤澤由和氏（静岡県立大学准教授）がシンポジストとして登壇されました（演題「グローバリゼーションとローカライゼーション：保健医療社会学の場合」）。

国際交流関係では，国際交流委員会の方で，当学会の英語版 Web ページを作成中で，4 月にアップロード予定です。

ISA の RC15 から，以下の案内が来ています。

1. Social Science & Medicine 誌主催の会議（2011 年 9 月 9 日～12 日，香港，テーマ「アジアにおける Health System 改革」）および発表の募集
(http://www.healthreformasia.com/index.html)
2. ISA の第 2 回フォーラム（2012 年 8 月 1 日～4 日，ブエノスアイレス，テーマ「社会正義と民主化」）および RC15 のセッション企画の公募
(http://www.isa-sociology.org/buenos-aires-2012/rc/rc-work.php?n=RC15)

会員におかれましては，ISA への入会・RC15 への登録および上記への出席・発表をよろしくお願いいたします。（渉外国際担当理事：黒田浩一郎）

VI. 編集委員会報告

1) 予定よりも少し遅れましたが，『保健医療社会学論集』第 21 巻 2 号刊行を刊行しました。今号は特集として，第 36 回大会における大会長講演（田中マキ子氏），シンポジウム（平野裕子氏，川口貞親氏，大野俊氏，安里和晃氏），教育講演（小川全夫氏），特別追悼シンポジウム（川田智恵子氏，姉崎正平氏，片平洌彦氏，小澤温氏，林千冬氏）での報告をもとにした論文を掲載しています。執筆者をはじめ，査読者や編集委員，会員の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。
2) 『論集』第 22 巻 1 号を 2011 年 8 月上旬刊行予定です。この号は，研究活動担当理事との連携企画を「特集」とする予定です。また，国際交流委員会との連携企画も掲載予定です。編集委員会としてよりよい特集を企画化していきます。
3) 2011 年度第 1 回新旧合同日本保健医療社会学会機関誌編集委員会を第 37 回大会期間中の 2011 年 5 月 21 日（土）に大阪大学にて開催予定です。新編集委員会への引き継ぎがスムーズかつ効果的に行えるよう，規程の整備，編集委員会の申し合わせ事項の整備，議事録の記録化などを進めています。また，査読者の決定・査読依頼・査読結果報告の集約・査読判定などの一連の編集委員会業務の引き継ぎが適切かつ公正に行えるようファイル整備・情報の共有化を含め準備しています。
4) 現在，論文投稿者・論文寄稿者・査読者との諸連絡などは，原則として，メール等の電子媒体を中心に行なっています。この件は 2009 年 12 月の理事会承認後，2010 年 3 月末締切論文から開始しています。これら電子媒体の活用等については，今後，委員会申し合わせや各種規定などに反映させていく予定です。
5) 2009 年 3 月 8 日に改訂された各種規程をその運用との整合性を踏まえて確認・チェックしています。2009 年 9 月末締切論文の査読依頼の際から送付を開始した査読ガイドラインについても今後更に修正を重ねていきます。
6) 上記の厳正かつ適切な査読プロセスを恒常的に運用していくためにも編集委員会事務局体制の整備・強化が急務の課題になっています。

（編集担当理事：天田城介）

Ⅷ. 研究活動報告

<関東定例研究会>

＝報告＝

第210回定例研究会は，3月5日（土）13:30～法政大学市ヶ谷キャンパス80年館7F大会議室1にて，川口有美子さん（さくら会）から「『ただそこにいる』という関係」と題して報告がありました。報告では，川口さんの著者『逝かない身体―ALS的日常を生きる』（医学書院）に基づいて，そこには書ききれなかった経緯や思いなどを話していただきました。討論では，他の国々でのALS患者を取り巻く状況や障害者運動とのかかわりについて質問が出て，ALS患者が「病人」と扱われるか「障害者」と扱われるかという点で大きな違いが出てくることなど，川口さんから国際的な視点から捉えたお話を伺いました。また，入院に際して，医療体系と福祉体系の齟齬についての議論も出されました。さらに，人工呼吸器の装着を「選択」とさせ，「選好」とならない社会のあり方が何に起因するのかなど，議論が深まりました。

参加者は8名と少なめだったのですが，その分密度の高い議論となりました。司会は三井さよ（法政大学）。

（研究活動担当理事：三井さよ）

<関西定例研究会>

＝報告＝

第211回定例研究会（関西）を，3月19日（土）14:00～，TKP大阪梅田ビジネスセンターにおいて，諸事情から会場と時間を急遽変更し開催しました。「研究費申請と獲得の実際ー仕組みと実例ー」をテーマとし，科研費と民間研究費の両方に目配りしつつ，「研究費と学会との関係」や「研究費と研究者のキャリア戦略との関係」にいたる発展的な議論を行いました。司会は，樫田美雄（徳島大学）。

まず，前半で，科研費審査の仕組みと実際について，栗岡幹英氏（奈良女子大学），油井清光氏（神戸大学・日本学術振興会）に講演を頂きました。ついで，後半で，作業療法ジャーナル研究助成第2回受賞者の田島明子氏（吉備国際大学）に，獲得までの経緯と獲得後の推移を講演して頂きました。

科研費については，過去の慣習や，理系に関する情報があたかも現在も通用している科研費一般に関する情報であるかのように流通している事実があり，そのいくつかが現在的・文系的に修正されました。例えば，「少なくとも社会学では，科研費獲得において，欧文論文の執筆歴が必須ということはない」，「第1次審査の審査員構成はほぼ半舷上陸方式で入れ替わる」，「3年続けて応募すれば獲得できるというのは，都市伝説」，「費目内の複数の第一次審査チームへの各応募課題の割り振りは，キーワードによってなされている」などの重要な情報開示が行われました。その結果「無理をして欧文論文のある分担研究者を迎える必要はないだろう」，「キーワードとする文言は，よく吟味しなければならない」等が実践可能と推論されました。

民間研究費に関しては，支援金額そのものの研究促進効果だけでなく，受賞で意欲がわくことや，資金提供団体等とつながりができることによる効果（田島氏は，この研究資金関係のつながりから単著出版に至った）も語られました。また，総括討論では，田

島氏が専攻する「作業療法史」のような分野は，「作業療法」でやっと一つの審査グループを成しているに過ぎず，文系的な企画を適正に評価する科研費審査の枠組みはいまだ成立していないということなども話し合われました。

(研究活動担当理事：樫田美雄)

＜看護研究部会＞

看護研究部会は，3月13日に予定していた福祉社会学会との合同企画を，震災の影響を考慮し，延期しました。今後，改めて開催を調整する予定です。

看護研究部会は，当学会のうち，「看護」「ケア」「介護」「福祉」「ケア提供者」等に関心のある者で組織しており，メーリングリストによる情報交換も行っています。第37回大会の5月22日（日）の12:20～13:00，例年通り，部会の総会を開催し、部会の名称変更や新年度の活動計画などを検討します。部会員はもちろん，関心のある方はご参加ください。　問合せ先：本多康生 [redacted]

(部会長：宇城　令)

Ⅸ. 新入会員および退会者の承認

12月1日以降の入退会会者については，5月理事会にて一括に審議，承認する予定。

(総務担当理事：山本武志)

＜必ずお読みください＞

※第37回　大会抄録集（日本保健医療社会学論集第22巻特別号）について

・大会抄録集は，4月中旬に皆様のお手元にお届けする予定でしたが、広範囲にわたる被災地域の会員に確実に届け，確認する手段がないため，今大会に限り，大会ホームページ(http://square.umin.ac.jp/jhms37/)で4月15日～大会前日まで公開し，印刷物としての抄録集は，学会当日に会場にて配布，大会に来られなかった会員には後日郵送にて配布することにいたしました。なお，学会に参加されない皆様には後日郵送となります。皆様のご協力，ご理解をお願い申し上げます。

※東北・関東大震災で被災した現会員の23年度年会費の減免について

・被災した会員の年会費の減免については，自宅等の被災程度に関する会員の自己申告に基づき，理事会が年会費の減免について判断することにしました。当該の年会費の減免を希望する会員は，事務局にメール等で連絡をお願いします。申告の期限は特に設けませんので，連絡が取れる状況になったところで，申請をして下さい。

事務局：[redacted]

編集後記

会員のみなさま，この震災を経験しながら，ぞれぞれの位置で，何を思い，どう行動しておられるでしょうか。学会運営への意見を含め，会員の声をぜひ，お寄せください。

投稿先：[redacted]　(広報会報担当理事　吉田澄恵)